



第 2 次 日立市水産振興計画 (2019 ~ 2023)

～豊かな海のめぐみを
未来につなぐ「ひたちの水産業」～



■表紙の写真

【上段】

常磐沖で唯一の定置網漁業（会瀬漁港）

【中段右から順に下】

会瀬漁港の定置網漁で獲れたタイ他

久慈漁港で水揚げされたサヨリ、シラス、メヒカリ

ごあいさつ



日立市は、東に太平洋を臨み、南北35kmに及ぶ海岸線には、古くから沿岸漁業の拠点が生息し、沿岸の地先海域の常磐沖は黒潮と親潮が交差する全国でも屈指の好漁場になっています。漁業の盛んな本市ですが、平成23年に発生した東日本大震災の影響により、水産業は大きな被害を受けました。こうした中、平成25年3月に震災からの復興を掲げた第1次となります日立市水産振興計画を策定し、水産業関係者の皆様から多大な御協力を賜りながら、様々な施策を推進してまいりました。しかしながら、水産業を取り巻く環境は、依然として漁業就業者の減少や高齢化による経営基盤の弱体化、そして漁獲量の減少や魚価の低迷など、多くの課題を抱えております。

折しも、国では、新たな資源管理体制への移行や漁場の有効利用を図るため、70年ぶりの漁業法改正が行われ、水産業は変革の時を迎えております。そのような中、第2次日立市水産振興計画策定に向け、漁業関係者のみならず、多くの分野から委員の皆様をお迎えし、前計画の成果を検証した上で、水産業と商工・観光分野の連携や魚食普及の推進等について、議論を重ねてまいりました。

本計画では、基本理念であります『豊かな海のめぐみを、未来につなぐ「ひたちの水産業」』のとおり、ひたちらしい水産業を後世につなぐため、幅広い施策を展開してまいりたいと考えております。

なお、施策の実現にあたっては、水産業関係者のほか、他産業に携わる多くの方々からも御協力をいただくとともに、各関係機関との連携や、市民の皆様の御参画が必要であると考えております。本市の水産業を未来につなぐため、皆様の御理解と御支援をお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にあたりまして、貴重な御意見・御提案をいただきました第2次日立市水産振興計画検討委員会の委員の皆様方をはじめ、アンケートやヒアリング等に御協力いただきました市民の皆様や事業者の皆様に、心からお礼を申し上げます。

平成31年3月

日立市長 **小川 春樹**

目次

| | | |
|-----|-------------------|---|
| 第1章 | 第1次日立市水産振興計画の成果検証 | 1 |
|-----|-------------------|---|

| | | |
|-----|----------|----|
| 第2章 | 計画策定に向けて | 11 |
|-----|----------|----|

- 1 計画策定の趣旨
- 2 計画策定の手法
- 3 計画期間
- 4 計画の位置付け

| | | |
|-----|------------|----|
| 第3章 | 水産業をとりまく情勢 | 13 |
|-----|------------|----|

- 1 世界の情勢
- 2 日本の情勢
- 3 日立市の水産業の概況

| | | |
|-----|---------------|----|
| 第4章 | 日立市の水産業の現状と課題 | 17 |
|-----|---------------|----|

- 1 日立市の水産業の現状
 - (1) 茨城県における本市水産業の地位
 - (2) 漁業経営体
 - (3) 漁業就業者数の動向
 - (4) 年齢階層別漁業就業者
 - (5) 水産業の動向
 - (6) 資源・環境保全活動やその他の活動
 - (7) 水産物の流通
 - (8) 水産加工業の現状
 - 2 日立市の水産業の課題
- | | | |
|-----|---------------|----|
| 第4章 | 日立市の水産業の現状と課題 | 17 |
|-----|---------------|----|
- (1) 明日へつながる水産業
 - (2) 経営の安定化
 - (3) 高品質で魅力的な水産物の供給
 - (4) 地域との連携・交流

第5章 基本施策・施策の展開方向 29

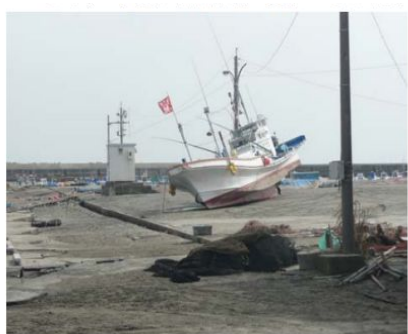
- 1 基本理念について
- 2 計画の推進体制とその基本的な考え方
- 3 第2次日立市水産振興計画推進体制
- 4 数値目標一覧
- 5 第2次日立市水産振興計画施策体系図
 - 1 明日へのつながる水産業の構築 34
 - (1) 漁業生産力の強化
 - (2) 水産資源の維持と環境保全
 - (3) 水産業の担い手の確保と育成
 - (4) 働きやすい環境づくり
 - (5) ひたちらしい水産業
 - 2 効率的で安定的な経営体制の確立 42
 - (1) 経営の基盤強化と安定化
 - (2) 水産業協同組合の組織強化
 - 3 高品質で魅力的な水産物の供給 44
 - (1) 高度な衛生管理
 - (2) 水産物の鮮度管理
 - (3) 水産物の流通・加工基盤の強化
 - (4) 消費者ニーズに対応した水産物の供給
 - 4 水産業と地域との連携・交流 48
 - (1) 水産業と異業種との連携・交流
 - (2) 漁業地域のにぎわい創出

●資料編

- アンケート結果（漁業者、水産加工業者、仲買業者） 51
- アンケート結果（消費者） 75
- ヒアリング結果（内水面漁業者、水産加工業者、水産物販売業者
飲食店、宿泊施設、水産物流通事業者） 83
- 第2次日立市水産振興計画検討委員会運営要綱 86
- 第2次日立市水産振興計画検討委員会の構成 87
- 第2次日立市水産振興計画策定までの検討委員会の検討経過 88
- おさかなカレンダー

第1章 第1次日立市水産振興計画の成果検証

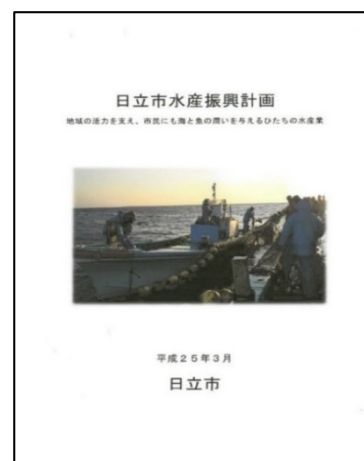
本市では、平成23年(2011年)3月11日に発生した東日本大震災の影響で、漁船の流出や岸壁等の漁港施設、漁業協同組合の施設の損壊に加え、原発事故に伴う水産物の出荷自粛や風評被害など、本市の水産業にとって類を見ない大きなダメージを受けたことから、震災からの早期復興を図るため、平成25年(2013年)3月に日立市水産振興計画を策定した。



※津波により打ち上げられた漁船(久慈漁港)



※地震、津波により損壊した地盤(川尻港)



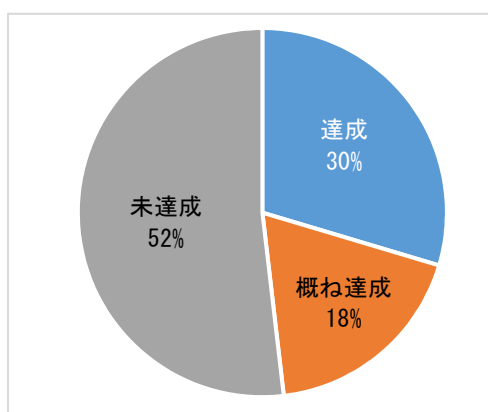
計画期間を平成25年度(2013年)から平成29年度(2017年)までの5年間とし、「地域の活力を支え、市民にも海と魚の潤いを与えるひたちの水産業」を基本理念に、4つの基本的方向を柱とした12の基本施策、18の具体的施策を講じた。

施策の実現に向け、27項目の数値目標を示した結果、達成した項目が30%、概ね達成(70%以上)したものが18%、未達成(70%未満)のものが、52%となった。

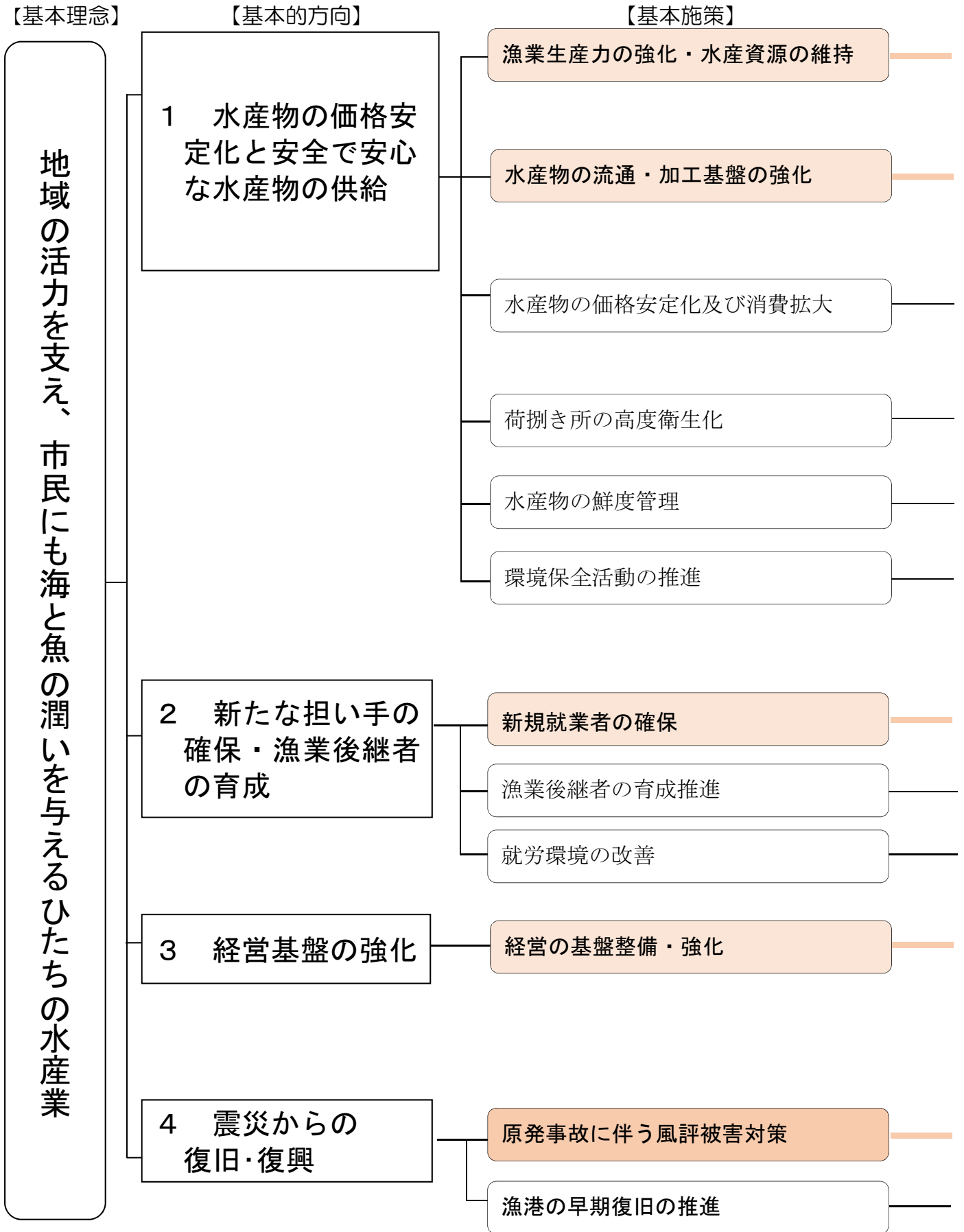
施策の実現にあたっては、水産業に携わる方々の積極的な取組、各関係機関との連携や市民の参画により進めることができた。

第1次計画の施策体系図及び数値目標の成果検証については、以下のとおりである。

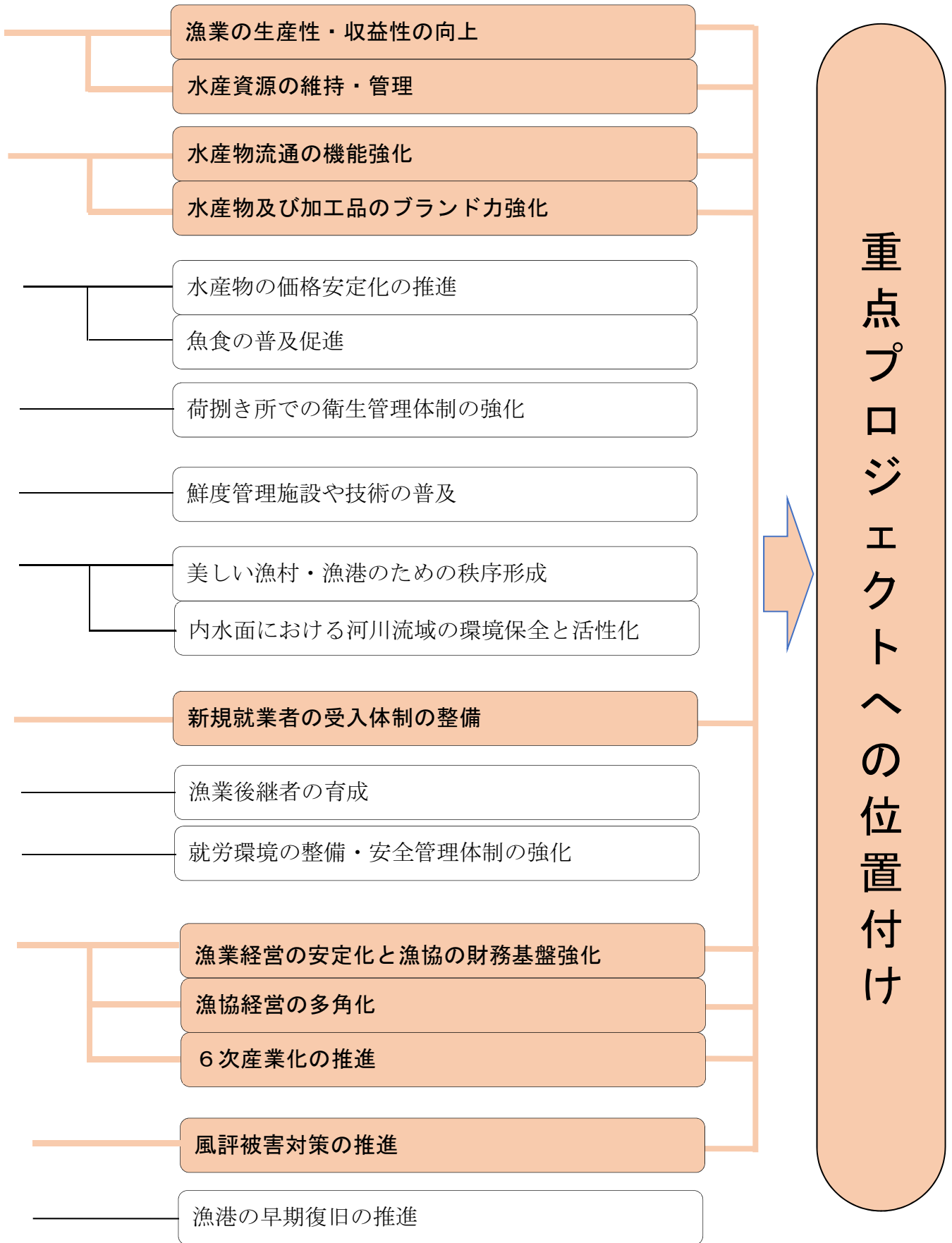
| 取組状況 | 全体 | |
|---------|----|------|
| | 件数 | 構成比 |
| ○(達成) | 8 | 30% |
| △(概ね達成) | 5 | 18% |
| ×(未達成) | 14 | 52% |
| 合計 | 27 | 100% |



第1次日立市水産振興計画施策体系図



【具体的施策】



第1次日立市水産振興計画の数値目標一覧

| No. | 項目 | 単位 | 基準年 (2012 実績値) | 目標値 (2017) | 最終値 (2017) |
|-----|---------------------------------|-----|-------------------|---------------|---------------|
| 1 | 水揚高（属地） | 千円 | 662,000 | 670,000 | 570,701 |
| 2 | 水揚量（属地） | トン | 1,613 | 2,000 | 1,425 |
| 3 | アワビの稚貝放流個数 | 個 | 134,900 | 150,000 | 132,400 |
| 4 | ヒラメ種苗放流尾数 | 千尾 | 120 | 120 | 117 |
| 5 | 水産資源の維持・管理に取り組む組織の数 | 団体 | 3 | 4 | 4 |
| 6 | 産地市場の数 | 市場 | 4 | 3 | 4 |
| 7 | ひたち地魚倶楽部と連携する事業者数 | 店 | 36 | 50 | 0 |
| 8 | 水産加工優良産品推奨品認定数 | 点 | 14 | 20 | 5 |
| 9 | 新たな販売活動取組件数 | 件 | 7 | 9 | 7 |
| 10 | 料理講習会の実施回数 | 回/年 | 2 | 6 | 3 |
| 11 | 漁業協同組合と連携する消費者団体数 | 団体 | 0 | 2 | 1 |
| 12 | 水産教室を開催する学校の数 | 校 | 5 | 10 | 2 |
| 13 | 衛生管理マニュアル導入産地市場数（4） | 市場 | 0 | 2 | 0 |
| 14 | 衛生管理型荷捌き所の数（4） | 箇所 | 0 | 1 | 1 |
| 15 | 船上での最新の鮮度管理技術を導入する経営 体数 | 経営体 | 12 | 20 | 12 |
| 16 | 海浜等清掃活動に参加する市民の数 | 人 | 1,979 | 2,200 | 3,194 |
| 17 | 放流事業に参加する学校等の数（十王川） | 団体 | 6 | 11 | 7 |
| 18 | サケ資源有効利用調査参加者数（久慈川） | 人 | 50 | 200 | 746 |
| 19 | 漁業体験人数 | 人 | 63 | 80 | 32 |
| 20 | 新規就業者数 | 人 | 2 | 6 | 12 |
| 21 | 漁村起業家グループ数 | 団体 | 1 | 2 | 0 |
| 22 | 漁業協同組合数 | 組合 | 3 | 1~2 | 3 |
| 23 | 漁業体験取組数 | 箇所 | 0 | 1 | 0 |
| 24 | 地魚（シラス、タコ、アワビなど）を活用した新た な商品数 | 件 | 2 | 4 | 10 |
| 25 | 6次産業化を目標とした交流会の実施回数 | 回/年 | 0 | 6 | 0 |
| 26 | 水産物の普及促進に取り組む団体の数 | 団体 | 3 | 4 | 5 |
| 27 | 水産業施設改修 | 箇所 | 0 | 4 | 4 |

| | | | |
|--------------------------|-----|-----------|------|
| 【基本的方向】 | 達成○ | 概ね達成 △ | 未達成× |
| 1 水産物の価格安定化と安全で安心な水産物の供給 | 4 | 5 | 9 |

| ●基本施策 漁業生産力の強化・水産資源の維持 | | | | | | |
|------------------------|---------------------|----|------------------|---------------|---------------|-----|
| No. | 数値目標項目 | 単位 | 基準年 (2012実績値) | 目標値 (2017) | 最終値 (2017) | 達成度 |
| 1 | 水揚高（属地） | 千円 | 662,000 | 670,000 | 570,701 | × |
| 2 | 水揚量（属地） | トン | 1,613 | 2,000 | 1,425 | × |
| 3 | アワビの稚貝放流個数 | 個 | 134,900 | 150,000 | 132,400 | × |
| 4 | ヒラメ種苗放流尾数 | 千尾 | 120 | 120 | 117 | × |
| 5 | 水産資源の維持・管理に取り組む組織の数 | 団体 | 3 | 4 | 4 | ○ |

◆達成度の主な要因等

- ・「No.1 水揚高」と「No.2 水揚量」は、平均kg単価の高い回遊性資源の漁獲量が減少したため。
- ・「No.3 アワビの稚貝放流個数」と「No.4 ヒラメ種苗放流尾数」は、東日本大震災により県栽培漁業センターが被災し、稚貝・種苗の生産量が減少したため。
- ・「No.5 水産資源の維持・管理に取り組む組織の数」は、国の水産多面的機能発揮対策事業で活動している組織（3団体）に加え、十王川の河川清掃を内水面の漁業者と市民団体が協調して実施したため。

◆市が実施した主な事業

あわび種苗放流事業、あわび漁業再生支援事業、
中小漁業融資保証料補給事業、農水産物流通ネットワーク促進事業、
水産業製氷施設整備事業、水産多面的機能発揮対策事業（漂流・漂着物処理）

| ●基本施策 水産物の流通・加工基盤の強化 | | | | | | |
|----------------------|-------------------|----|------------------|---------------|---------------|-----|
| No. | 数値目標項目 | 単位 | 基準年 (2012実績値) | 目標値 (2017) | 最終値 (2017) | 達成度 |
| 6 | 産地市場の数 | 市場 | 4 | 3 | 4 | × |
| 7 | ひたち地魚倶楽部と連携する事業者数 | 店 | 36 | 50 | 0 | × |
| 8 | 水産加工優良産品推奨品認定数 | 点 | 14 | 20 | 5 | × |
| 9 | 新たな販売活動取組件数 | 件 | 7 | 9 | 7 | △ |

◆達成度の主な要因等

- ・「No.6 産地市場の数」は、各漁港の操業形態の相違等により水揚港の集約化が困難であったため。
- ・「No.7 ひたち地魚倶楽部と連携する事業者数」は、地魚の未活用魚種を活用した事業を計画したが、当該魚種の水揚げが少なく、取組が行えなかったため。
- ・「No.8 水産加工優良産品推奨品認定数」は、優良産品の継続申請や新規の認定数が減少したため。

◆市が実施した主な事業

氷切断機更新事業、水産業製氷施設整備事業、
水産振興協議会補助事業、水産業復興支援事業（日立港秋の味覚まつり等）

| ●基本施策 水産物の価格安定化及び消費拡大 | | | | | | |
|-----------------------|-------------------|-----|-------------------|---------------|---------------|-----|
| No. | 数値目標項目 | 単位 | 基準年 (2012 実績値) | 目標値 (2017) | 最終値 (2017) | 達成度 |
| 10 | 料理講習会の実施回数 | 回/年 | 2 | 6 | 3 | △ |
| 11 | 漁業協同組合と連携する消費者団体数 | 団体 | 0 | 2 | 1 | △ |
| 12 | 水産教室を開催する学校の数 | 校 | 5 | 10 | 2 | × |

◆達成度の主な要因等

- ・「No.1 1 漁業協同組合と連携する消費者団体数」は、目標値には及ばなかったが、新たな1団体と連携することができた。
- ・「No.1 2 水産教室を開催する学校の数」は、学校からの依頼が減少したため。

◆市が実施した主な事業

水産物流通・加工基盤強化事業（加工施設増設、冷風乾燥機設置）、
農水産物流通ネットワーク促進事業、水産業製氷施設整備事業、
水産業復興支援事業（日立港秋の味覚まつり等）

| ●基本施策 荷捌き所の高度衛生化 | | | | | | |
|------------------|---------------------|----|-------------------|---------------|---------------|-----|
| No. | 数値目標項目 | 単位 | 基準年 (2012 実績値) | 目標値 (2017) | 最終値 (2017) | 達成度 |
| 13 | 衛生管理マニュアル導入産地市場数（4） | 市場 | 0 | 2 | 0 | × |
| 14 | 衛生管理型荷捌き所の数（4） | 箇所 | 0 | 1 | 1 | ○ |

◆達成度の主な要因等

- ・「No.13 衛生管理マニュアル導入産地市場数」は、産地市場において、マニュアル導入の機運が高まらなかったため。
- ・「No.14 衛生管理型荷捌き所の数」は、1漁港で、衛生管理ルールを貼付及び、包囲用防鳥ネットの設置など衛生管理の取組を実施した。

| ●基本施策 水産物の鮮度管理 | | | | | | |
|----------------|------------------------|-----|------------------|---------------|---------------|-----|
| No. | 数値目標項目 | 単位 | 基準年 (2012実績値) | 目標値 (2017) | 最終値 (2017) | 達成度 |
| 15 | 船上での最新の鮮度管理技術を導入する経営体数 | 経営体 | 12 | 20 | 12 | △ |

◆達成度の主な要因等

- ・「No.15 船上での最新の鮮度管理技術を導入する経営体数」は、機器が高価で設備投資が進まなかったことや、乗組員不足で導入できなかった経営体が多かったため。

◆市が実施した主な事業

水産物流通・加工基盤強化事業（加工施設増設、冷風乾燥機設置）、
氷切断機更新事業

| ●基本施策 環境保全活動の推進 | | | | | | |
|-----------------|---------------------|----|------------------|---------------|---------------|-----|
| No. | 数値目標項目 | 単位 | 基準年 (2012実績値) | 目標値 (2017) | 最終値 (2017) | 達成度 |
| 16 | 海浜等清掃活動に参加する市民の数 | 人 | 1,979 | 2,200 | 3,194 | ○ |
| 17 | 放流事業に参加する学校等の数（十王川） | 団体 | 6 | 11 | 7 | △ |
| 18 | サケ資源有効利用調査参加者数（久慈川） | 人 | 50 | 200 | 746 | ○ |

◆達成度の主な要因等

- ・「No.16 海浜等清掃活動に参加する市民の数」及び「No.18 サケ資源有効利用調査参加者数（久慈川）」は、環境保全活動への関心が高まったため。
- ・「No.17 放流事業に参加する学校等の数（十王川）」は、地元の小学校、幼稚園、保育園の参加は得られたが、近隣地域の学校等の参加がなかったため。

◆市が実施した主な事業

水産多面的機能発揮対策事業（漂流・漂着物処理・河川清掃・教育活動）、
十王川魚類繁殖放流事業、久慈川サケ資源有効利用調査支援

| | | | |
|---------------------------------|-----|-------|------|
| 【基本的方向】 2 新たな担い手の確保・漁業後継者の育成 | 達成○ | 概ね達成△ | 未達成× |
| | 1 | 0 | 1 |

| ●基本施策 新規就業者の確保、漁業後継者の育成推進 | | | | | | |
|---------------------------|--------|----|-------------------|---------------|---------------|-----|
| No. | 数値目標項目 | 単位 | 基準年 (2012 実績値) | 目標値 (2017) | 最終値 (2017) | 達成度 |
| 19 | 漁業体験人数 | 人 | 63 | 80 | 32 | × |
| 20 | 新規就業者数 | 人 | 2 | 6 | 12 | ○ |

◆達成度の主な要因等

- ・「No.19 漁業体験人数」は、海洋高校の実習体験数が少なかったため。
- ・「No.20 新規就業者数」は、県内外の海洋高校等に対する積極的な雇用情報の発信や県及び市の新規漁業就業者への支援事業を活用したため。

◆市が実施した主な事業

新規漁業就業者支援事業、水難救済会補助事業、漁業無線設備整備事業

| | | | |
|----------------------|-----|-------|------|
| 【基本的方向】 3 経営基盤の強化 | 達成○ | 概ね達成△ | 未達成× |
| | 1 | 0 | 4 |

| ●基本施策 経営の基盤整備・強化 | | | | | | |
|------------------|-----------------------------|-----|-------------------|---------------|---------------|-----|
| No. | 数値目標項目 | 単位 | 基準年 (2012 実績値) | 目標値 (2017) | 最終値 (2017) | 達成度 |
| 21 | 漁村起業家グループ数 | 団体 | 1 | 2 | 0 | × |
| 22 | 漁業協同組合数 | 組合 | 3 | 1~2 | 3 | × |
| 23 | 漁業体験取組数 | 箇所 | 0 | 1 | 0 | × |
| 24 | 地魚（シラス、タコ、アワビなど）を活用した新たな商品数 | 件 | 2 | 4 | 10 | ○ |
| 25 | 6次産業化を目標とした交流会の実施回数 | 回/年 | 0 | 6 | 0 | × |

◆達成度の主な要因等

- ・「No.21 漁村起業家グループ数」は、国の沿岸漁業者経営促進グループ等取組支援事業が平成25年度（2013年）に終了したため。

- ・「No.22 漁業協同組合数」は、合併に向けての機運が高まらなかったため。
- ・「No.23 漁業体験取組数」は、受入れ側の体制が整わなかったため。
- ・「No.25 6次産業化を目標とした交流会の実施回数」は、漁業協同組合の販売事業で積極的に商品開発に取り組んでいるが、交流会開催の機運が高まらなかったため。

◆市が実施した主な事業

漁獲共済事業、省燃油活動推進事業、水産物流通・加工基盤強化事業（加工施設増設、冷風乾燥機設置）、水産業製氷施設整備事業、漁協自営漁業強化支援事業、農水産物流通ネットワーク促進事業

| | | | |
|--------------|-----|-------|------|
| 【基本的方向】 | 達成○ | 概ね達成△ | 未達成× |
| 4 震災からの復旧・復興 | 2 | 0 | 0 |

| ●基本施策 原発事故に伴う風評被害対策 | | | | | | |
|---------------------|-------------------|----|-------------------|---------------|---------------|-----|
| No. | 数値目標項目 | 単位 | 基準年 (2012 実績値) | 目標値 (2017) | 最終値 (2017) | 達成度 |
| 26 | 水産物の普及促進に取り組む団体の数 | 団体 | 3 | 4 | 5 | ○ |

◆達成度の主な要因等

- ・「No.26 水産物の普及促進に取り組む団体の数」は、市内の漁業協同組合、加工業協同組合による普及促進販売やPR活動を積極的に行ったため。

◆市が実施した主な事業

水産業共同利用施設復興整備事業、水産振興協議会補助事業



国の復興交付金を活用し、水産業共同利用施設復興整備事業で整備した「水産加工流通施設」

| ●基本施策 漁港の早期復旧の推進 | | | | | | |
|------------------|---------|----|-------------------|---------------|---------------|-----|
| No. | 数値目標項目 | 単位 | 基準年 (2012 実績値) | 目標値 (2017) | 最終値 (2017) | 達成度 |
| 27 | 水産業施設改修 | 箇所 | 0 | 4 | 4 | ○ |

◆達成度の主な要因等

- ・「No.27 水産業施設改修」は、国、県、各漁業協同組合が連携し、震災復興に向けた迅速な対応を実施したため。

◆市が実施した主な事業

日高漁港護岸整備事業、県が実施する漁港整備事業に対する支援



震災の被害を受け、改修した「久慈漁港」

第2章 計画策定に向けて

1 計画策定の趣旨

(1) 背景

東日本大震災後、水産業をより活力ある産業へと育てるために策定した「日立市水産振興計画」【平成25年（2013年）から平成29年（2017年）までの5年間】に基づき、各種施策を計画的に推進してきた。

震災で影響を受けた漁港施設の復旧作業は、平成27年度（2015年）に完了したものの、本市の水産業を取り巻く環境は、漁業就業者の減少や高齢化、経営基盤の弱体化に加え、漁獲量の減少、魚価の低迷、今なお収束していない原発事故等の影響など、厳しい状況が続いていることから、前計画の成果を検証するとともに、継続した「第2次日立市水産振興計画」を策定する。

(2) 目的

水産業を取り巻く社会経済情勢や生産構造の変化、多様化する消費者ニーズに的確に対応しつつ、水産業をより活力ある産業へと育てるため、水産業を担う関係者の役割を体系化し、計画的・効果的に施策の展開を図るものである。

2 計画策定の手法

有識者、市内漁業関係団体代表及び茨城沿海地区漁業協同組合連合会、茨城県信用漁業協同組合連合会、商工、販売・旅館業、消費者、行政機関による第2次日立市水産振興計画検討委員会を設置し策定した。

3 計画期間

計画期間は、平成31年度（2019年）から2023年までの5年間とし、施策の進捗状況や社会情勢等を踏まえながら、計画期間内においても必要に応じて見直しを行うものとする。

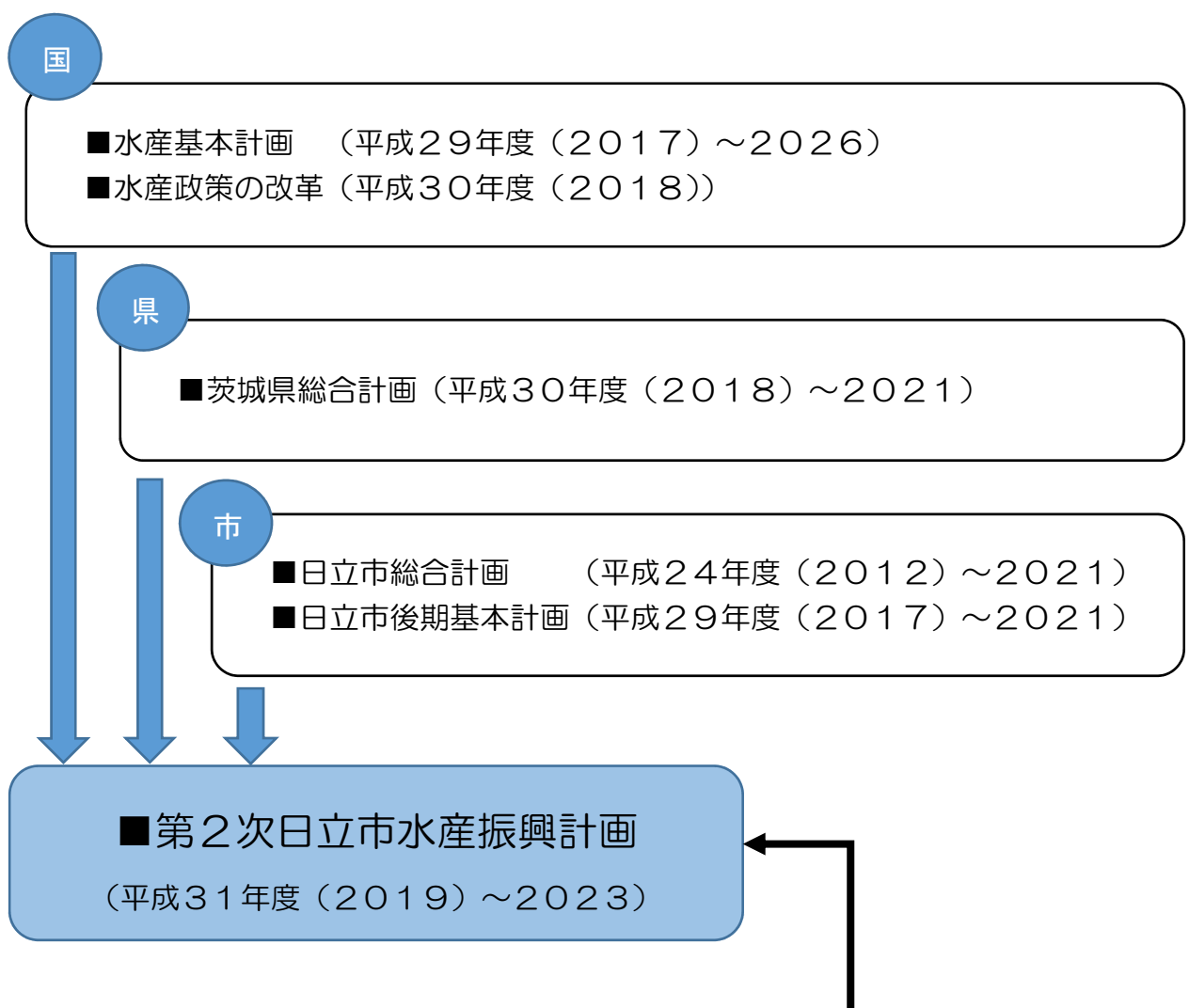
4 計画の位置付け

日立市では、市政運営の羅針盤として、平成29年度（2017年）から2021年までのまちづくりの方向性を定めた「日立市後期基本計画」に取り組んでいる。

この計画の水産分野としては、「活力ある水産業の振興（水産業）」を施策として位置付けし、「漁業経営の体力強化と収益性向上」「新たな水産業の担い手の確保、育成」「地元水産物の普及促進」の3つの取組を進めている。

また、日立市の人口減少をはじめとする様々な課題を克服し、安心と活力に満ち、笑顔輝くまちづくりを推進するため、平成27年（2015年）に策定した「日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の水産分野では、「農林水産業のブランド化と付加価値の向上による雇用の創出」「第1次産業における後継人材の確保」「漁港等の基盤整備による水産業の競争力強化」の3つの具体的施策に取り組んでいる。

本計画は、「日立市総合計画」「日立市後期基本計画」「日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の水産分野の計画とし、また、国が進める「水産政策の改革」や「水産基本計画」、「茨城県総合計画」を踏まえ、本市水産業の発展のため、基本的な指針とするものである。



- ◆関連計画等
- 日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27年度（2015）～2019）
 - 浜の活力再生プラン（平成27年度（2015）～2019）
 - 浜の活力再生広域プラン（平成28年度（2016）～2020）

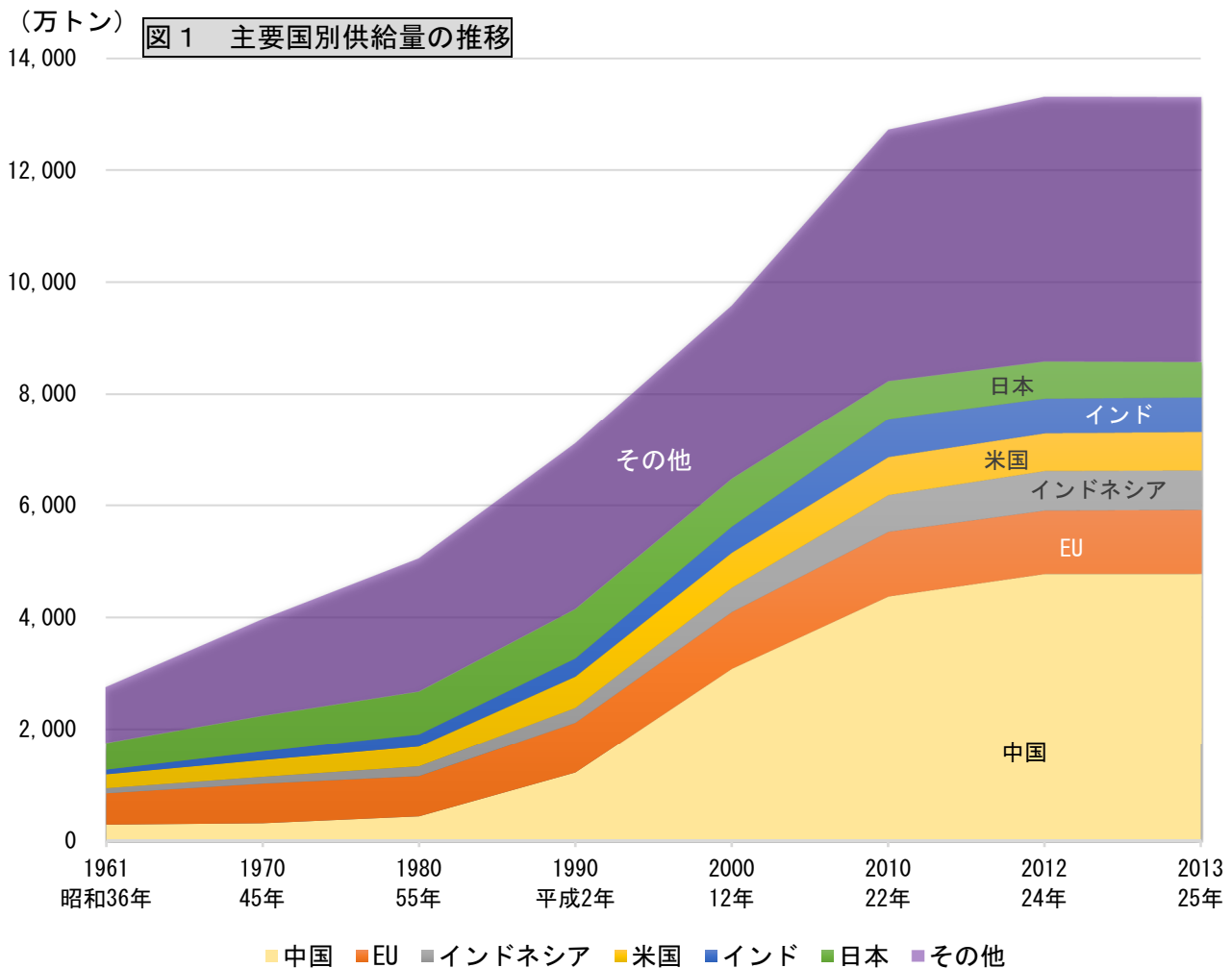
第3章 水産業をとりまく情勢

1 世界の情勢

我が国では「魚離れ」が指摘されているが、世界では魚の消費量が増加し続けている。世界の1人当たりの食用水産物の消費量は、過去半世紀で2倍以上に増加し、そのペースは衰えを見せていない。

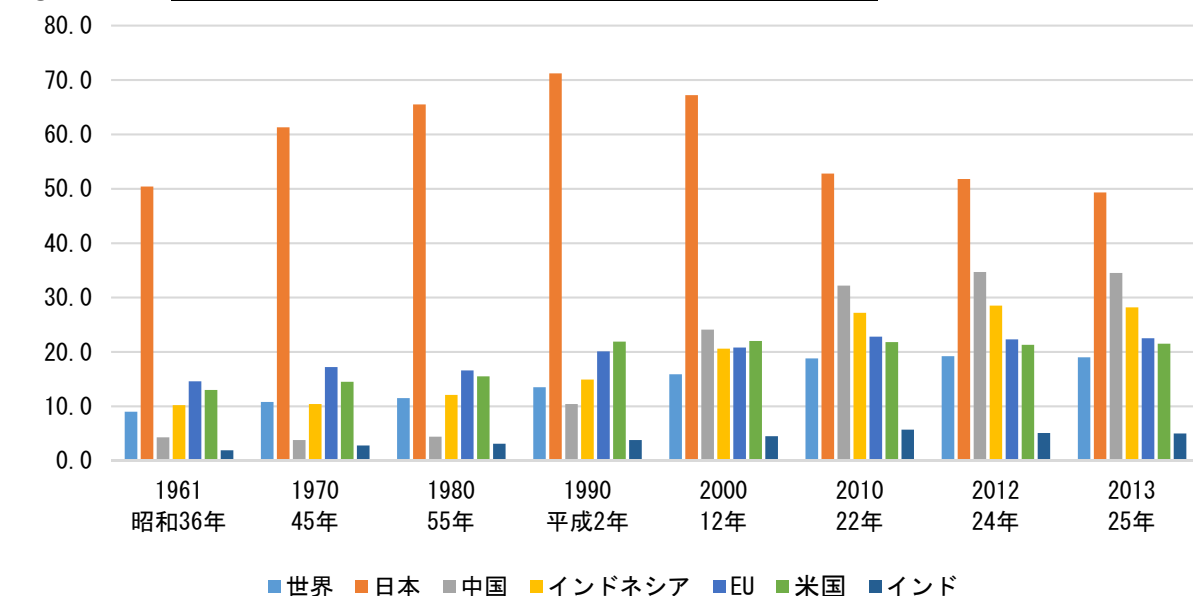
FAO（国際連合食糧農業機関）は、水産物の消費量増加の要因として、輸送技術の発達による食品流通の国際化や都市人口の増加を背景とした、スーパーマーケット等での食品輸入の増加などを挙げている。

この結果、経済発展の進む振興国や途上国では芋類等の伝統的主食からたんぱく質を多く含む肉、魚等へと食生活の移行が進み、さらに健康志向の高まりも水産物消費の後押しとなり、魚介類は、世界の動物性たんぱく質供給量の16%を担う重要な食料資源となっている。（図1・2）



資料：FAO「Food Balance Sheet」（日本以外の国）及び農林水産省「食料需給表」（日本）

図2 国民1人1年当たりの食用魚介類消費量の推移

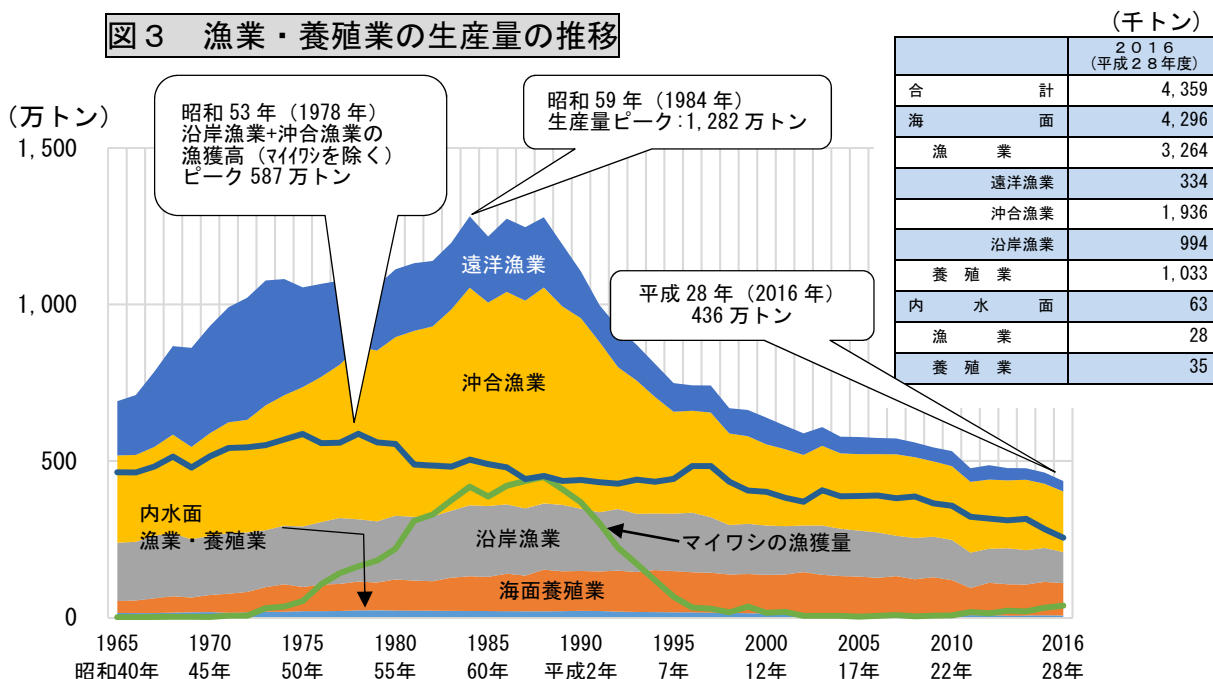


資料：FAO「Food Balance Sheet」(日本以外の国)及び農林水産省「食料需給表」(日本)
引用：水産白書

2 日本の情勢

我が国の漁業・養殖業生産量は、昭和59年(1984年)をピークに平成7年(1995年)頃にかけて急速に減少し、その後は緩やかな減少傾向が続いている。昭和59年(1984年)以降の急速な減少は、沖合漁業のうち、まき網漁業によるマイワシの漁獲量が減少したためであり、これは海洋環境の変動の影響を受けて資源量が減少したことが主な要因と考えられる。

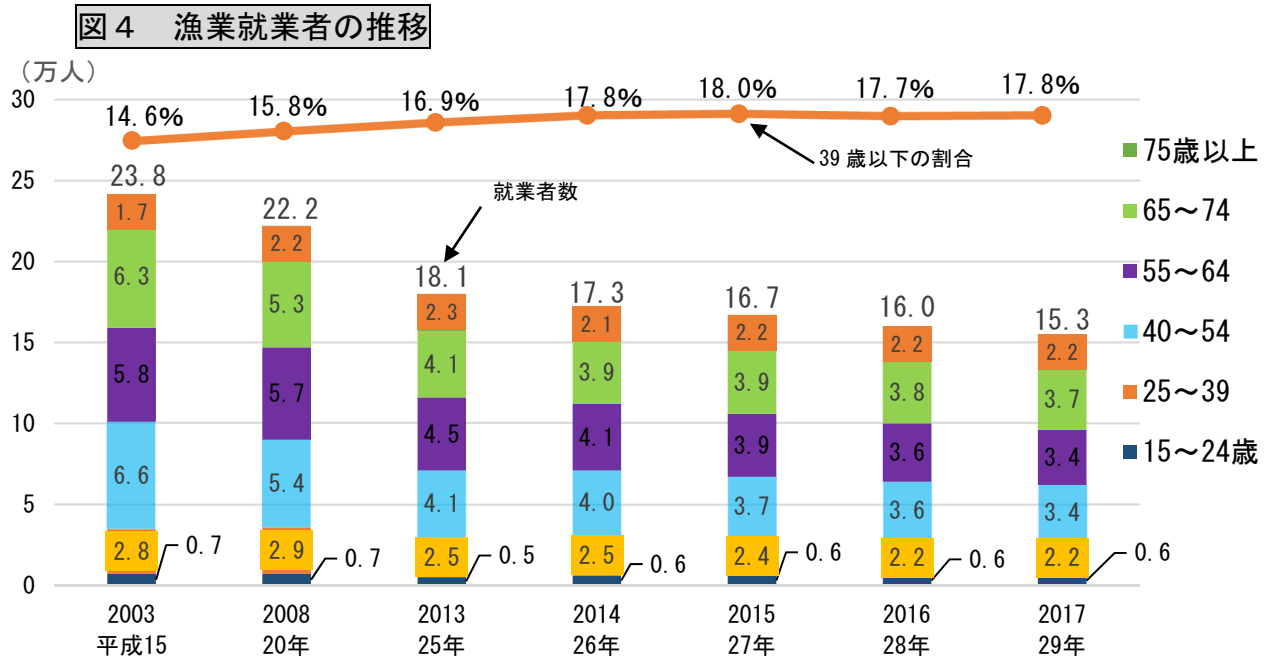
図3 漁業・養殖業の生産量の推移



資料：水産白書

また、漁業就業者は一貫して減少傾向にあり、平成29年（2018年）には前年から4%減少して15万3,490人となった。

漁業就業者の総数が減少する中で、平成21年（2009年）以降全国の新規漁業就業者はおおむね横ばいで推移しているが、新規漁業就業者は39歳以下が7割を占めていることもあり、就業者全体に占める39歳以下の漁業就業者の割合は、近年横ばい傾向にある。（図4）



資料：漁業センサス、漁業就業者動向調査報告書

注：「漁業就業者」とは、満15歳以上で過去1年間に漁業の海上作業30日以上従事した者

平成30年（2018年）に、水産庁が進めてきた水産政策の改革が閣議決定された。この水産政策の改革は、水産資源の適切な管理と水産業の成長産業化を両立させ、漁業者の所得向上と年齢バランスのとれた漁業就業構造を確立することを目指すもので、以下のような施策を掲げている。

- 1 新たな資源管理システムの構築
- 2 漁業者の所得向上に資する流通構造の改革
- 3 生産性の向上に資する漁業許可制度の見直し
- 4 養殖・沿岸漁業の発展に資する海面利用制度の見直し
- 5 水産政策の方向性に合わせた漁協制度の見直し
- 6 漁村の活性化と国境監視機能を始めとする多面的機能の発揮

また、平成30年（2018年）12月に、科学的な漁業管理の拡大、遊休漁場や新規漁場などへの民間参入の促進をねらいとした改正漁業法が成立し、今後も各種の施策に対する法整備が行われていく。

3 日立市の水産業の概況

日立市沿岸の地先海域は、東及び東北東に流れる黒潮勢力と沿岸を南下する親潮勢力の混合海域で、春は暖流、夏から秋にかけて寒流が卓越する好漁場となっている。長い海岸線には、日高、会瀬、水木、久慈の4つの漁港と漁業の用に供されている川尻、河原子の2つの港湾が点在し（図5）、そこで営まれる漁業形態は、船曳網漁業、小型底曳網漁業や刺網漁業を主体に、茨城県で唯一の定置網漁業や採貝・採藻などの沿岸漁業が中心となっている。

図5 日立市内漁港・港湾の区分と位置図

| 区分 | 名称 | 所在地 | 種類 | 管理者 |
|----|------|---------|------|-----|
| 漁港 | 日高漁港 | 日立市田尻町 | 第1種 | 日立市 |
| | 会瀬漁港 | 日立市会瀬町 | | |
| | 水木漁港 | 日立市水木町 | | |
| | 久慈漁港 | 日立市久慈町 | 第3種 | |
| 港湾 | 川尻港 | 日立市川尻町 | 地方港湾 | 茨城県 |
| | 河原子港 | 日立市河原子町 | | |



第4章 日立市の水産業の現状と課題

1 日立市の水産業の現状

(1) 茨城県における本市水産業の地位

本市の海面漁業に占める割合は、平成25年度（2013年）では経営体で24.9%（県内1位）、就業者数で14.2%（県内3位）である。

水揚数量、水揚金額では属地より属人の方が多い傾向があり、属人は水揚数量、金額ともに県内3位となっている。

| | | 単位 | 日立市 | 茨城県 | 市/県 (%) | 県順位 | |
|-----------------------|----|----|-----------|------------|------------|-------|---|
| 経営体数 2013 (平成 25) | | 体 | 103 | 413 | 24.9 | 9市町村中 | 1 |
| 就業者数※2013 (平成 25) | | 人 | 204 | 1,435 | 14.2 | | 3 |
| 水揚数量※ 2017 (平成 29) | 属地 | トン | 1,425 | 50,561 | 2.8 | 6地区中 | 6 |
| | 属人 | トン | 22,257 | 314,055 | 7.1 | | 3 |
| 水揚金額※ 2017 (平成 29) | 属地 | 千円 | 570,701 | 6,337,772 | 9.0 | | 5 |
| | 属人 | 千円 | 1,867,171 | 25,271,440 | 7.4 | | 3 |

経営体数・就業者数：漁業センサス
水揚数量・金額（1～12月）：茨城県海面漁業水揚高集計表

※「漁業就業者」：満15歳以上で過去1年間に漁業の海上作業に年間30日以上従事した人
※「水揚数量・水揚金額」：港に水揚げされた魚の重量と金額

(2) 漁業経営体

ア 漁業経営体の動向

平成10年（1998年）の個人経営体は153経営体であったが、15年間で55経営体が減少し、98経営体となっている。

| 区分 | 年 | 1998 (平成10年) | 2003 (平成15年) | 2008 (平成20年) | 2013 (平成25年) |
|--------|---|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 個人経営体 | | 153 | 126 | 120 | 98 |
| 会社 | | 2 | 3 | 3 | 4 |
| 漁業協同組合 | | 1 | 2 | 1 | 1 |
| 共同経営 | | 3 | 3 | 0 | 0 |
| 合計 | | 159 | 134 | 124 | 103 |

資料：漁業センサス

イ 漁業種類別経営体数の動向

本市で最も多い船曳網漁業の経営体数は平成10年（1998年）に49経営体であったが、平成25年（2013年）には、33経営体に減少している。

ピーク時の昭和63年（1988年）には55経営体であったが、25年で40%の減少となっている。

| 区分 | 年 | 1998 (平成10年) | 2003 (平成15年) | 2008 (平成20年) | 2013 (平成25年) |
|--------|---|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 底曳網 | | 10 | 6 | 6 | 6 |
| 船曳網 | | 49 | 48 | 48 | 33 |
| まき網 | | 0 | 1 | 1 | 1 |
| 刺網 | | 12 | 23 | 9 | 11 |
| さんま棒受網 | | 2 | 2 | 1 | 1 |
| 大型定置網 | | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 釣・はえなわ | | 40 | 17 | 21 | 17 |
| 採貝・採藻 | | 44 | 35 | 37 | 30 |
| その他 | | 1 | 1 | 0 | 3 |
| 合計 | | 159 | 134 | 124 | 103 |

資料：漁業センサス

ウ 動力船保有隻数別経営体数の動向

本市の動力船保有隻数は、3～5トンが多く、平成10年（1998年）から比較すると、平成25年（2013年）は、28経営体減少し、46経営体となっている。

| 区分 | 年 | 1998 (平成10年) | 2003 (平成15年) | 2008 (平成20年) | 2013 (平成25年) |
|--------|---|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 漁船非使用 | | 14 | 7 | 14 | 12 |
| 1t未満 | | 23 | 23 | 9 | 2 |
| 1～3t | | 32 | 25 | 21 | 18 |
| 3～5t | | 74 | 66 | 53 | 46 |
| 5～10t | | 5 | 1 | 4 | 1 |
| 10～20t | | 8 | 7 | 6 | 8 |
| 20t以上 | | 2 | 3 | 2 | 2 |
| 定置網 | | 1 | 1 | 1 | 1 |
| その他 | | 0 | 1 | 14 | 13 |
| 計 | | 159 | 134 | 124 | 103 |

資料：漁業センサス

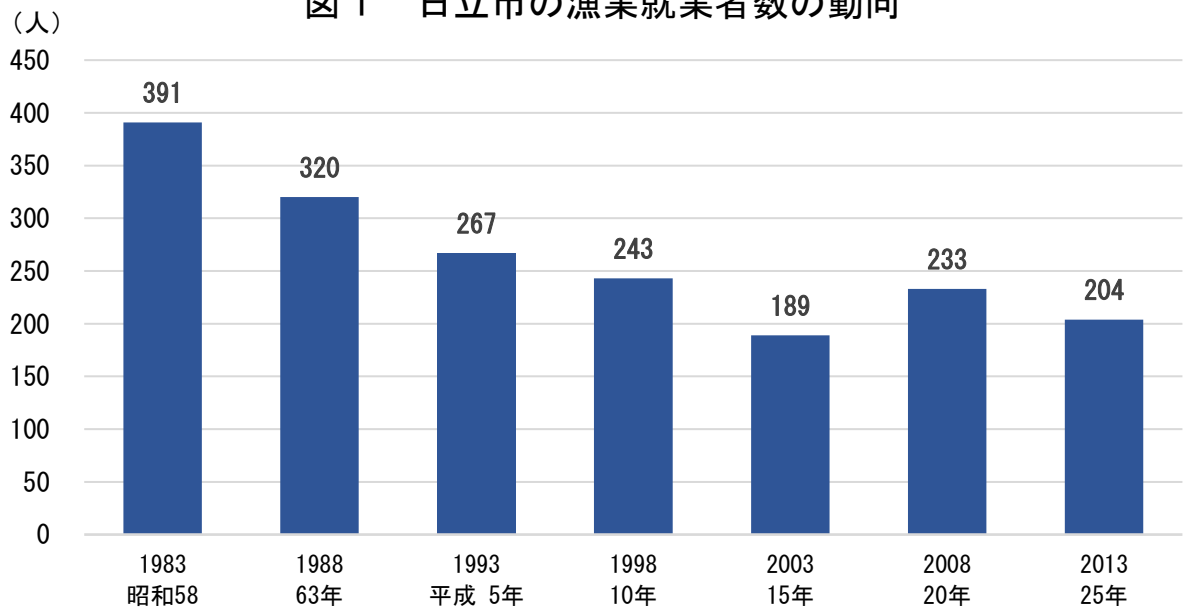
(3) 漁業就業者数の動向

本市の漁業就業者数は、昭和58年（1983年）が391人であったが、平成25年（2013年）では、204人となり、減少率47.8%で187人の減少となっている。（図1）

また、本県の漁業就業者数は、昭和58年（1983年）が3,095人であったが、平成25年（2013年）では、1,435人となり、減少率が53.6%で1,660人の減少となっている。（図2）

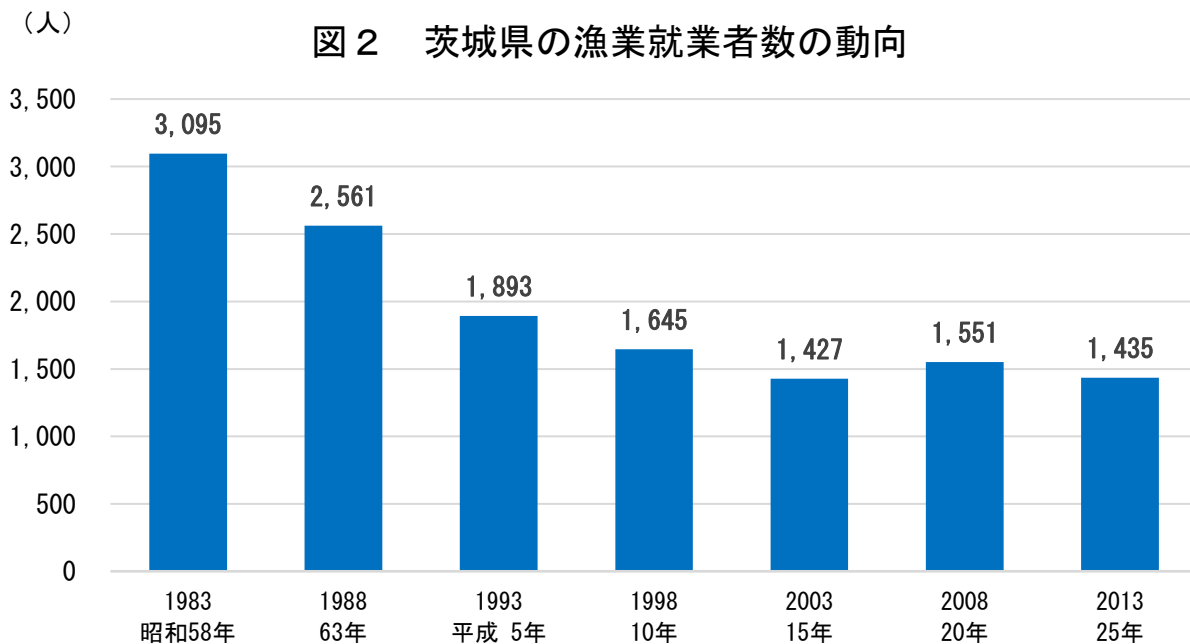
※「漁業就業者」：満15歳以上で過去1年間に漁業の海上作業に年間30日以上従事した人

図1 日立市の漁業就業者数の動向



資料：漁業センサス

図2 茨城県の漁業就業者数の動向

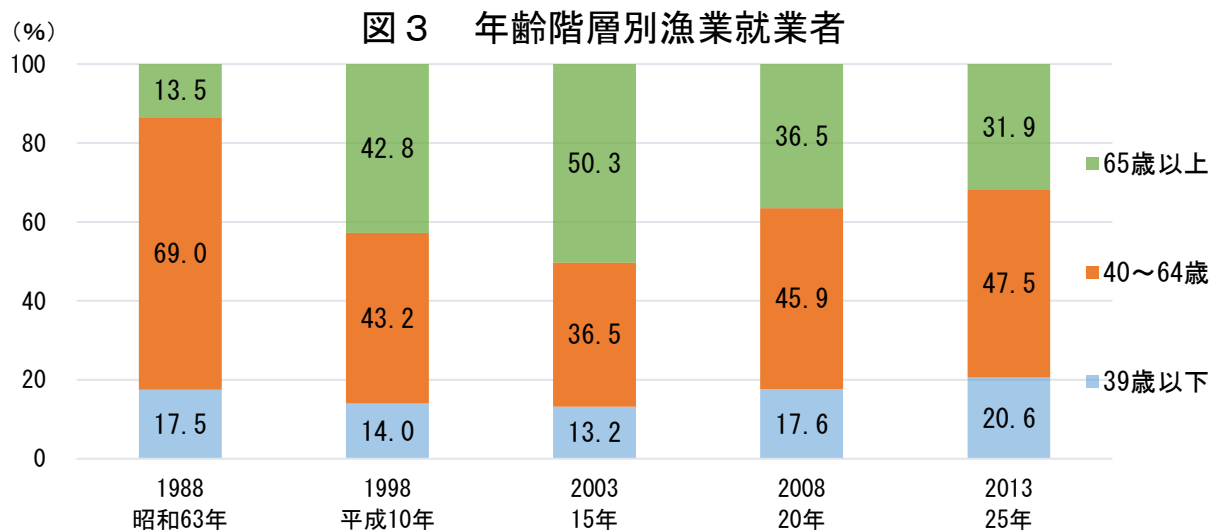


資料：漁業センサス

(4) 年齢階層別漁業就業者

本市の年齢別漁業就業者数は、平成10年（1998年）の243人から平成25年（2013年）の204人へと減少している。この減少は主に65歳以上の高齢漁業就業者の引退によるものである。

一方、39歳以下の漁業就業者数は、平成10年（1998年）の34人（14.0%）から平成25年（2013年）の42人（20.6%）へと増加した。（図3）



資料：漁業センサス

| | 1998 (平成10年) | | 2003 (平成15年) | | 2008 (平成20年) | | 2013 (平成25年) | |
|-----------|-----------------|-------|-----------------|-------|-----------------|-------|-----------------|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 19歳以下 | 1 | 14.0% | 2 | 13.2% | 2 | 17.6% | 3 | 20.6% |
| 20～24歳 | 4 | | 6 | | 5 | | 9 | |
| 25～29歳 | 7 | | 3 | | 12 | | 7 | |
| 30～34歳 | 6 | | 6 | | 6 | | 14 | |
| 35～39歳 | 16 | | 8 | | 16 | | 9 | |
| 小計 | 34 | | 25 | | 41 | | 42 | |
| 40～44歳 | 12 | 43.2% | 13 | 36.5% | 14 | 45.9% | 15 | 47.5% |
| 45～49歳 | 16 | | 14 | | 24 | | 9 | |
| 50～54歳 | 14 | | 15 | | 20 | | 20 | |
| 55～59歳 | 14 | | 10 | | 27 | | 23 | |
| 60～64歳 | 49 | | 17 | | 22 | | 30 | |
| 小計 | 105 | | 69 | | 107 | | 97 | |
| 65～69歳 | 58 | 42.8% | 37 | 50.3% | 22 | 36.5% | 20 | 31.9% |
| 70～74歳 | 29 | | 39 | | 29 | | 18 | |
| 75歳以上 | 17 | | 19 | | 34 | | 27 | |
| 小計 | 104 | | 95 | | 85 | | 65 | |
| 合計 | 243 | | 189 | | 233 | | 204 | |

資料：漁業センサス

(5) 水産業の動向

ア 漁業生産動向

水揚げ数量と水揚げ金額のピーク時と東日本大震災後の平成25年（2013年）を比較すると、属地・属人とも大きく減少しており、また震災後の平成25年（2013年）からは、属地・属人ともほぼ横ばいとなっている。（図4、5）

図4 日立市の漁業生産動向（属地）

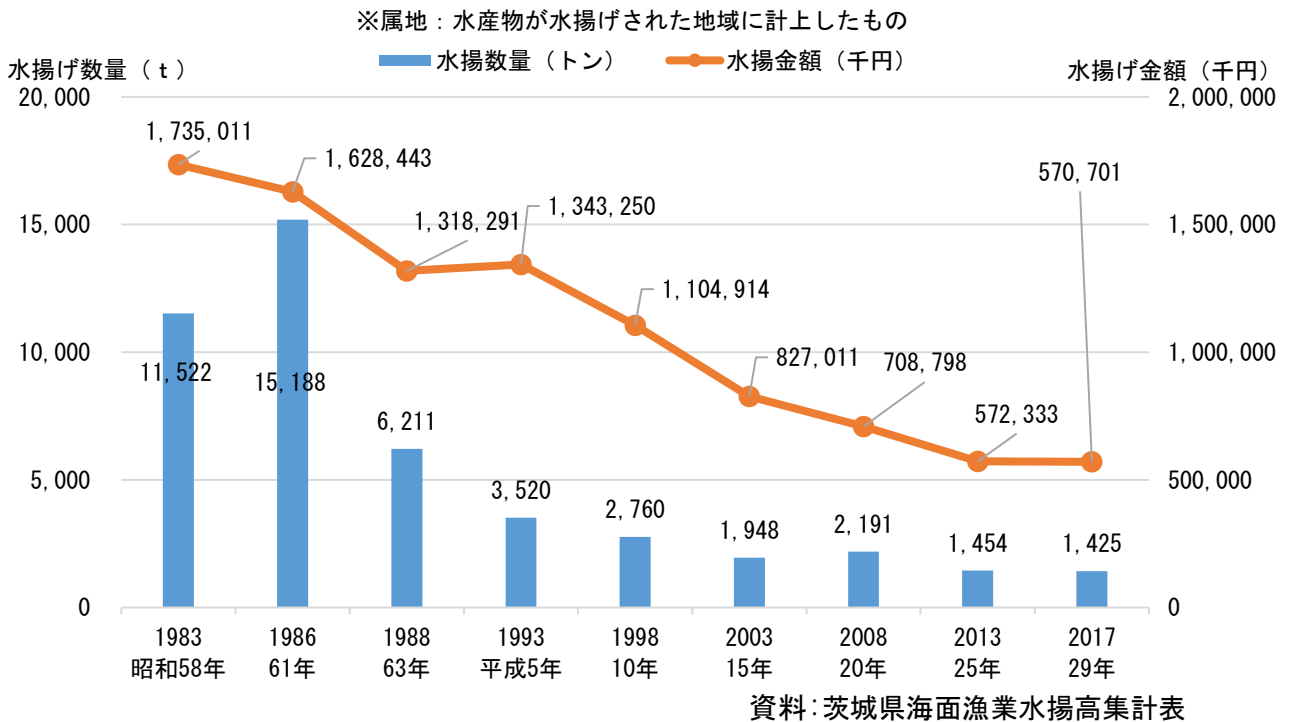
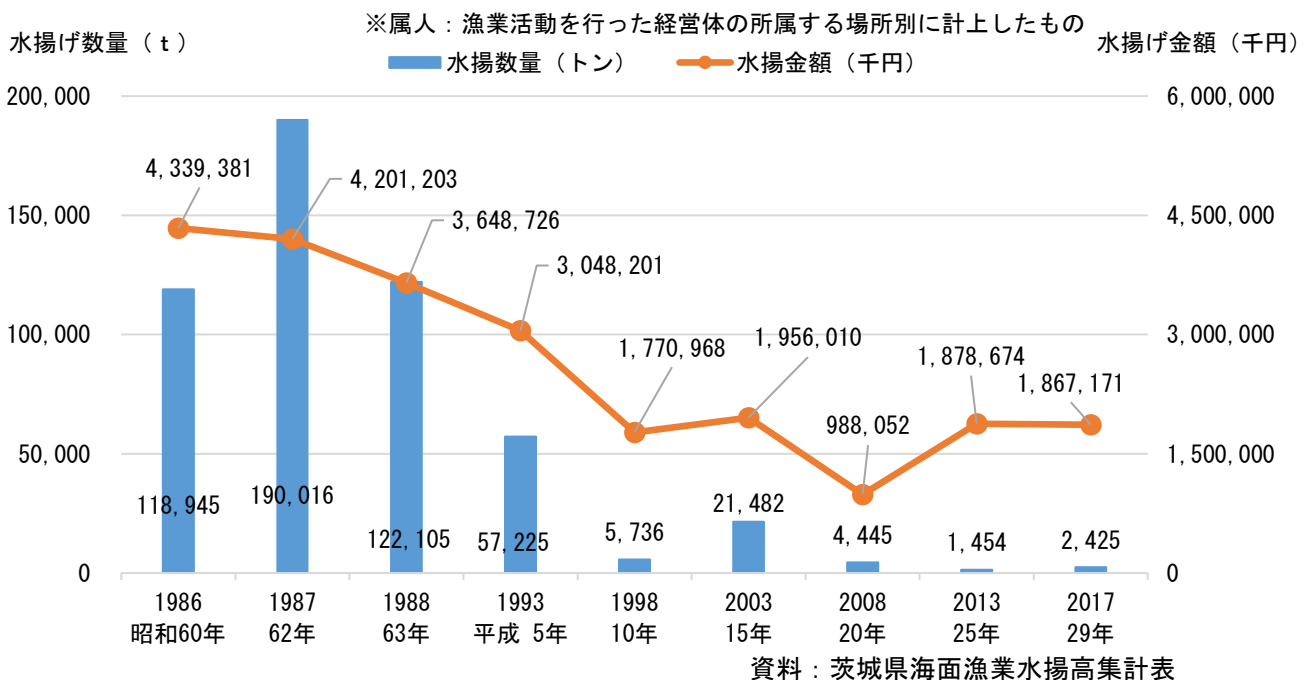


図5 日立市の漁業生産動向（属人）



イ 漁業経営の現状

アンケート結果から、本市の漁業者は、主に5トン未満の漁船を所有し親族同士の少人数体制での操業を行っている。また、船曳網漁業を行っており、兼業で磯根漁業や釣り漁業などを行っている。

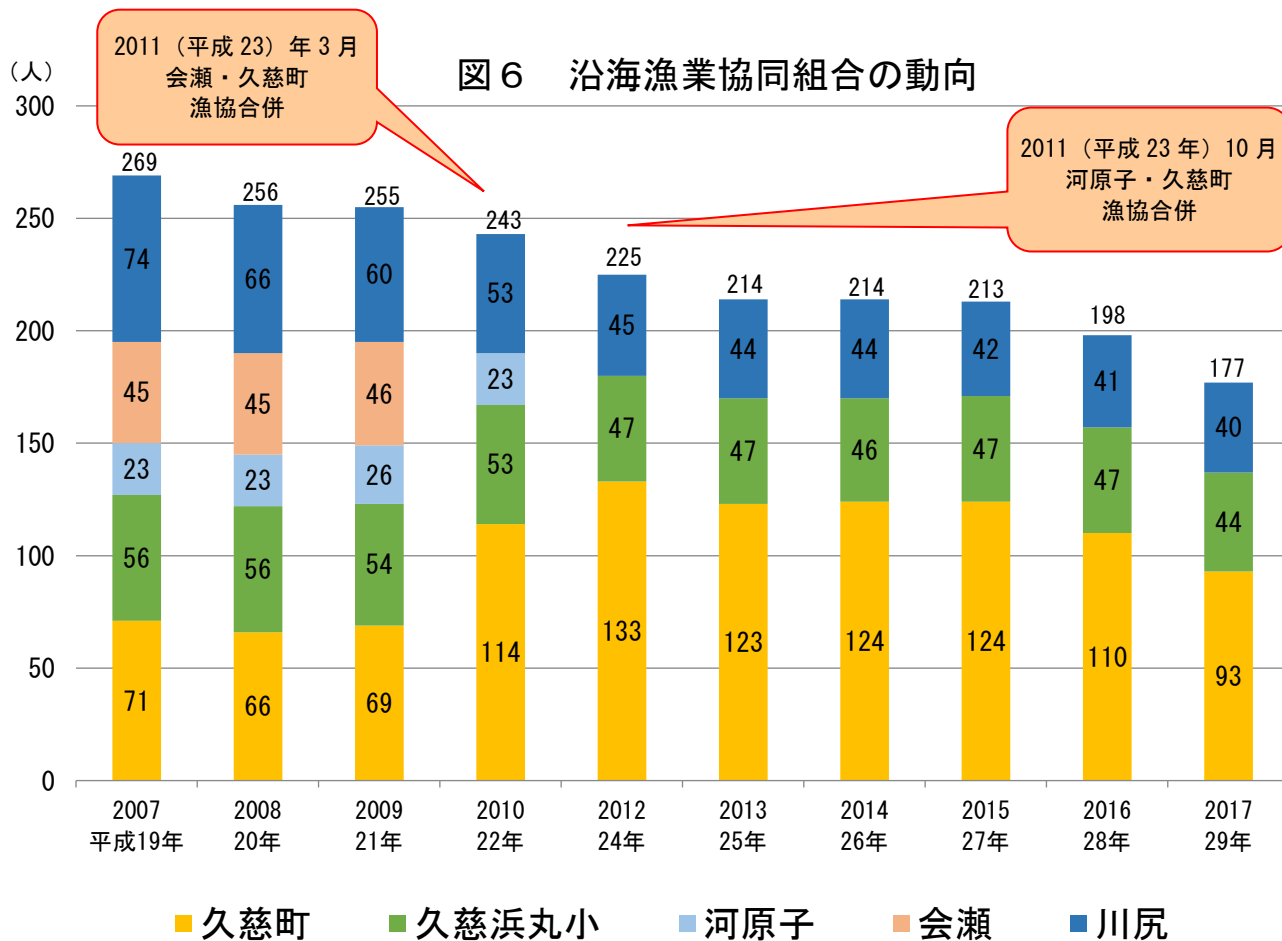
後継者がいない漁業者が半数を占め、後継者がいない理由として、「子どもが継ぎたがらない」や「子どもはいるが継がせたくない」と挙げており、身内を後継者とするのは難しい状況であることが分かる。

また、漁業者の多くが、経営状態は「良くも悪くもない」や「悪い」と感じており、その原因に「魚価の低迷」や「水揚高の減少」を挙げている。

ウ 漁協経営の現状

市内の沿海地区の漁業協同組合に所属する組合員は、10年前の平成19年（2007年）は269人であったが、平成29年（2017年）には177人に減少している。（減少率34.2%）。

また、漁協の経営は、組合員数や漁業産出額が減少している中で厳しい状況に置かれている。（図6）



市内区分別水産業協同組合数の動向

(人)

| 区分 | 組合名 | 組合員の種類 | 2013 (平成25年) | 2014 (平成26年) | 2015 (平成27年) | 2016 (平成28年) | 2017 (平成29年) |
|-----|----------|--------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 沿海 | 川尻 | 正組合員 | 39 | 37 | 36 | 36 | 34 |
| | | 准組合員 | 5 | 7 | 6 | 5 | 6 |
| | 久慈町 | 正組合員 | 47 | 51 | 53 | 54 | 54 |
| | | 准組合員 | 76 | 73 | 71 | 56 | 39 |
| | 久慈浜丸小 | 正組合員 | 43 | 39 | 39 | 39 | 35 |
| | | 准組合員 | 4 | 7 | 8 | 8 | 9 |
| 加工 | 久慈浜水産加工業 | 正組合員 | 24 | 23 | 21 | 21 | 20 |
| 内水面 | 十王川 | 正組合員 | 218 | 210 | 199 | 185 | 169 |
| | | 准組合員 | 1 | 6 | 7 | 7 | 6 |
| | 久慈川 | 正組合員 | 638 | 598 | 598 | 598 | 598 |
| | | 准組合員 | 4,828 | 4,707 | 4,506 | 4,331 | 3,962 |

資料：水産業協同組合要覧

(6) 資源・環境保全活動やその他の活動

ア アワビの稚貝放流

県内でも高い水揚量、水揚高を誇る本市のアワビ漁においては、市内の各採鮑組合（市内漁業協同組合所属の組合員）が稚貝放流をし、資源管理を行っている。

種苗生産施設である県栽培漁業センターは、東日本大震災で大きな被害を受けたことから、平成23年（2011年）、平成24年（2012年）は放流ができず、平成25年（2013年）3月に復旧工事が完了したものの、平成26年（2014年）は例年の1/3の放流数であった。平成27年（2015年）からは、東日本大震災以前と同水準の種苗放流が可能となり、平成30年（2018年）以降は次第に資源が回復していくことが予想されている。

イ 環境保全活動

現在市内には、久慈浜・水木多面的機能活動組織、河原子多面的機能活動組織、十王川多面的機能活動組織が形成されている。この組織は、漁業者や漁協が構成員となりウニの密度調整管理、水域の監視、河川や海辺の清掃活動などを行っている。

また、川尻漁業協同組合や久慈浜丸小漁業協同組合の女性部においても、海岸や漁港内の清掃など、環境保全活動を行っている。

ウ 内水面漁業者の取組

十王川漁業協同組合では、周辺地域の小学生や幼稚園児を対象に、10月から11月にかけて十王川を遡上してくるサケを捕獲し、採卵、ふ化させ飼育をしたのち、放流する活動を行っている。サケの生態サイクルを体験することで地域の豊かな自然環境への関心を深める環境教育に取り組んでいる。

一方、久慈川漁業協同組合では、天然アユ資源を増やすため、河床耕耘により産卵場を造成し、アユが産卵し易い環境作りの取組を行っている。

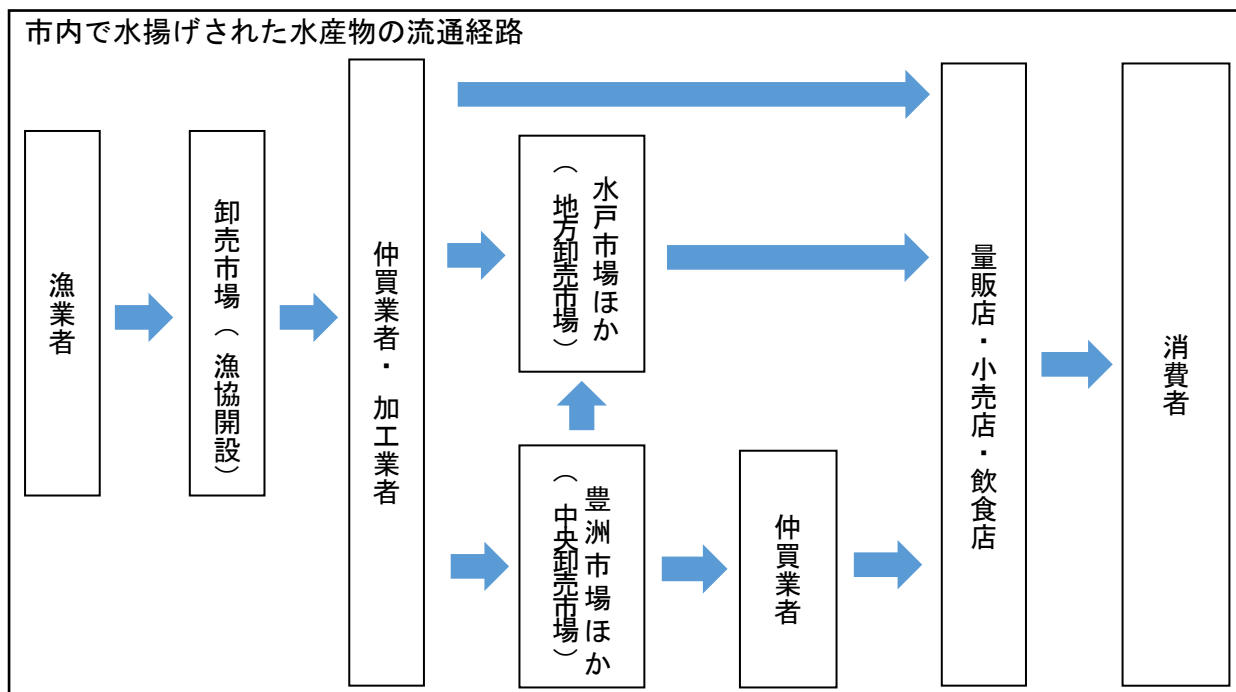
また、平成24年（2012年）からは、一般遊漁者によるサケ資源の調査を実施しており、平成30年（2018年）には約670人も遊漁者が調査員として参加するなど、久慈川でのサケ資源有効利用調査の認知度が上がっている。

(7) 水産物の流通

ア 市内で水揚げされた水産物の流通

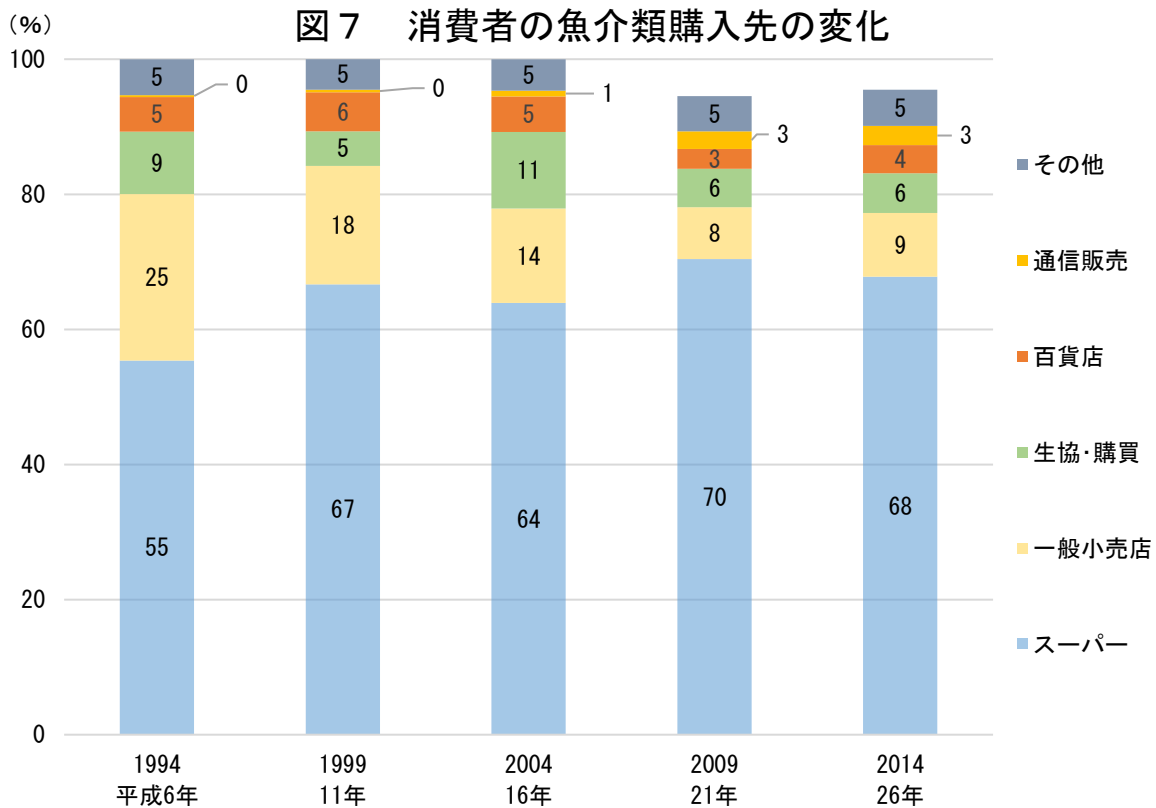
市内で水揚げされた水産物は、漁業協同組合が開設する卸売市場でセリや入札により仲買業者や加工業者が買付けをしている。仲買業者や加工業者は、仕入れた大部分の水産物を水戸市公設地方卸売市場や豊洲市場等に出荷し、その他は、日立市内の量販店、小売店、消費者に販売している。

茨城県内で水産物の取扱いが最大である水戸市公設地方卸売市場は、日立市で水揚げされた水産物の取扱いもあり、県内の量販店等へ出荷され、また市民の食卓にも上がり、地産地消に寄与されている。

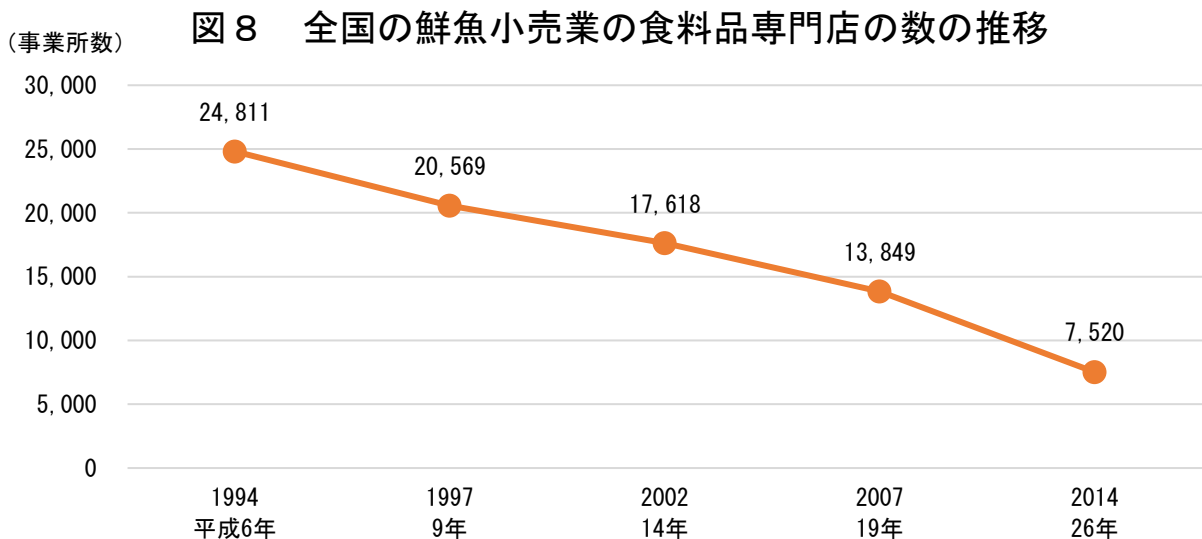


イ 市内小売店の現状

消費者を対象に実施したアンケート調査では、魚介類の購入先として、量販店（スーパー）が多く、魚屋等で購入する消費者は少ない。その理由として、量販店が魚介類の販売に力を入れはじめ、刺身や加工品等が容易に購入できるようになったことや鮮魚小売店の減少によるものと考えられる。（図7.8）



資料：総務省「全国消費実態調査」

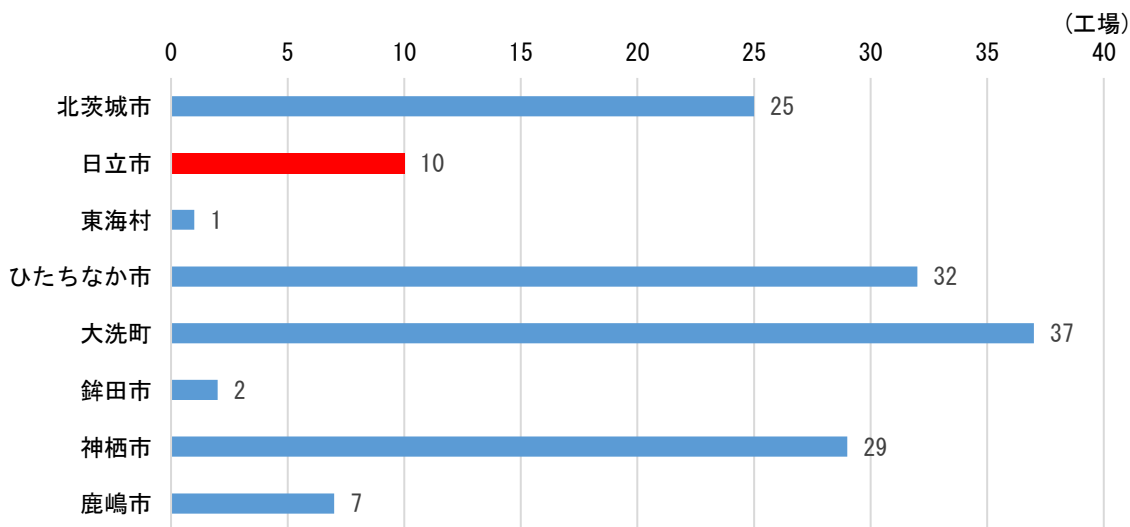


資料：経済産業省「商業統計表」

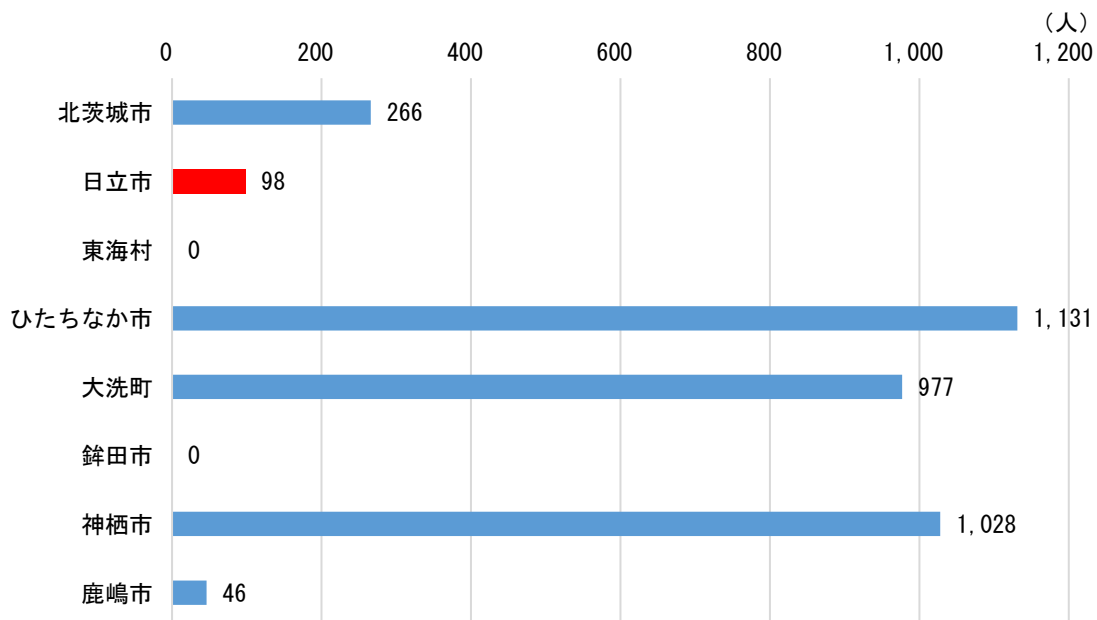
(8) 水産加工業の現状

本市の水産加工場は、市内南部地区に集中しており10社の加工場に98人の従業員が働いている。加工業協同組合へのヒアリングから、漁業者と同じように高齢化や後継者がいないなどの問題が表面化している。(図9.10)

(図9 県内の水産加工場数の推移)



(図10 県内の水産加工場従業員数の推移)



資料：経済産業省「商業統計表」
漁業センサス

2 日立市の水産業の課題

(1) 明日へつながる水産業

本市の漁業生産動向では、属地水揚数量は年々減少しており、平成29年（2017年）は平成5年（1993年）と比較して約40%程度まで減少していることから、地元水産業の生産力を上げることが今後の課題となっている。

課題の解決に向け、本市の水産業規模にあったコストの見直しのほか、水揚拠点の集約化や機能の再編、衛生管理の整った産地市場の構築による地元水産物の付加価値を高めるなど、属地水揚を増やすことが重要となる。

それにより、水揚手数料が増加し、漁業協同組合の経営が安定するとともに、拠点の集約により買人が増加することで、魚価が上がり、漁業者の所得向上にもつながるものと考えられる。

また、漁業就業者の減少や高齢化が進み、担い手の確保・育成や経営体の体質強化が重要であるが、平成25年（2013年）漁業センサスの市内漁業就業者数は、40歳以上から64歳未満の割合が多く、全体の約半数を占めており、漁業就業者が減少していく中で、ますます高齢化が進むことが予想され、その対策も課題となる。

さらに、後継者については、世襲が一般的であるが、漁業者へのアンケートや加工業協同組合のヒアリングでは、「後継者がいない」との回答が多く、今後は漁家や地縁血縁を持たない人からも広く新規就業者を確保する必要がある。そのためにも、収入を安定化する取組や就労環境の改善など水産業の仕事を魅力あるものにしていけるかが課題となっている。

(2) 経営の安定化

漁業者へのアンケート結果では、経営状態について「良くも悪くもない」との回答が約半数を占め、前回調査時の「悪い」から改善が見られたが、漁業経営体の収入は、燃油等価格の変動や漁獲量の低迷等により不安定であり、漁業操業を効率化するなどの経費削減、収入の向上や安定化を図るための新たな取組が必要と思われる。

最近では、漁業者の収入安定化の取組として、遊漁船業を営む傾向もあり、漁業と調和した新たな事業の在り方として考えられる。

また、漁業協同組合、加工業協同組合は、組合員の協同組織として、水産業の振興や地域活性化に大きな役割を果たしているが、組合員や水揚量の減少等により、取り巻く環境は変化してきており、持続可能なものにしていくためには、健全な経営と組織強化を図っていくことが、今後の課題となっている。

(3) 高品質で魅力的な水産物の供給

アンケート結果から消費者は、価格よりも鮮度や質を重視しており、刺身などの鮮魚が食べたいとの回答からも、鮮度が良い水産物を求める傾向にある。

近年、消費者の食に対する安全意識は一層高まっており、水揚げから販売までの適正な衛生管理や鮮度管理が求められていることから、高品質で魅力的な水産物を供給していくことが、魚食の普及や消費拡大につながっていくものと考えられる。

また、食の安全性を消費者に向けて情報発信することによって、本市水産物の知名度等の向上に努めるなど、今後は消費者ニーズに対応した取組が課題となってくる。

(4) 地域との連携・交流

新たな水産業の振興策として、漁業者と水産加工業者が地元異業種の商工業者等と連携し、それぞれのノウハウを活かした生産技術の開発、流通の改善や魚食普及促進などの取組を行うことも期待される。

また、消費者アンケート回答者の87%が「魚介類を食べる」、59.2%が「日立の地魚を購入したい」との結果をみても、消費者は水産物を求めており、特に地元水産物に興味がある傾向にあることから、地元水産物の普及促進に向け、本市の水産業を市民の身近なものとするため、漁業地域を活用した様々な交流、漁港のにぎわいづくりや地元水産資源を活用した特色ある取組を進めることが必要となる。

第5章 基本施策・施策の展開方向

1 基本理念について

第2次日立市水産振興計画を策定するにあたり、前計画の成果検証や本市水産業の現状を把握するため、漁業者や水産加工業者並びに消費者や飲食店等に対し、アンケートやヒアリング調査を実施した。

その結果を踏まえ、長い歴史がある本市水産業の伝統を守り、持続可能な水産業の実現を図るため、基本理念を以下のように定める。

『豊かな海のめぐみを、未来につなぐ「ひたちの水産業」』

2 計画の推進体制とその基本的な考え方

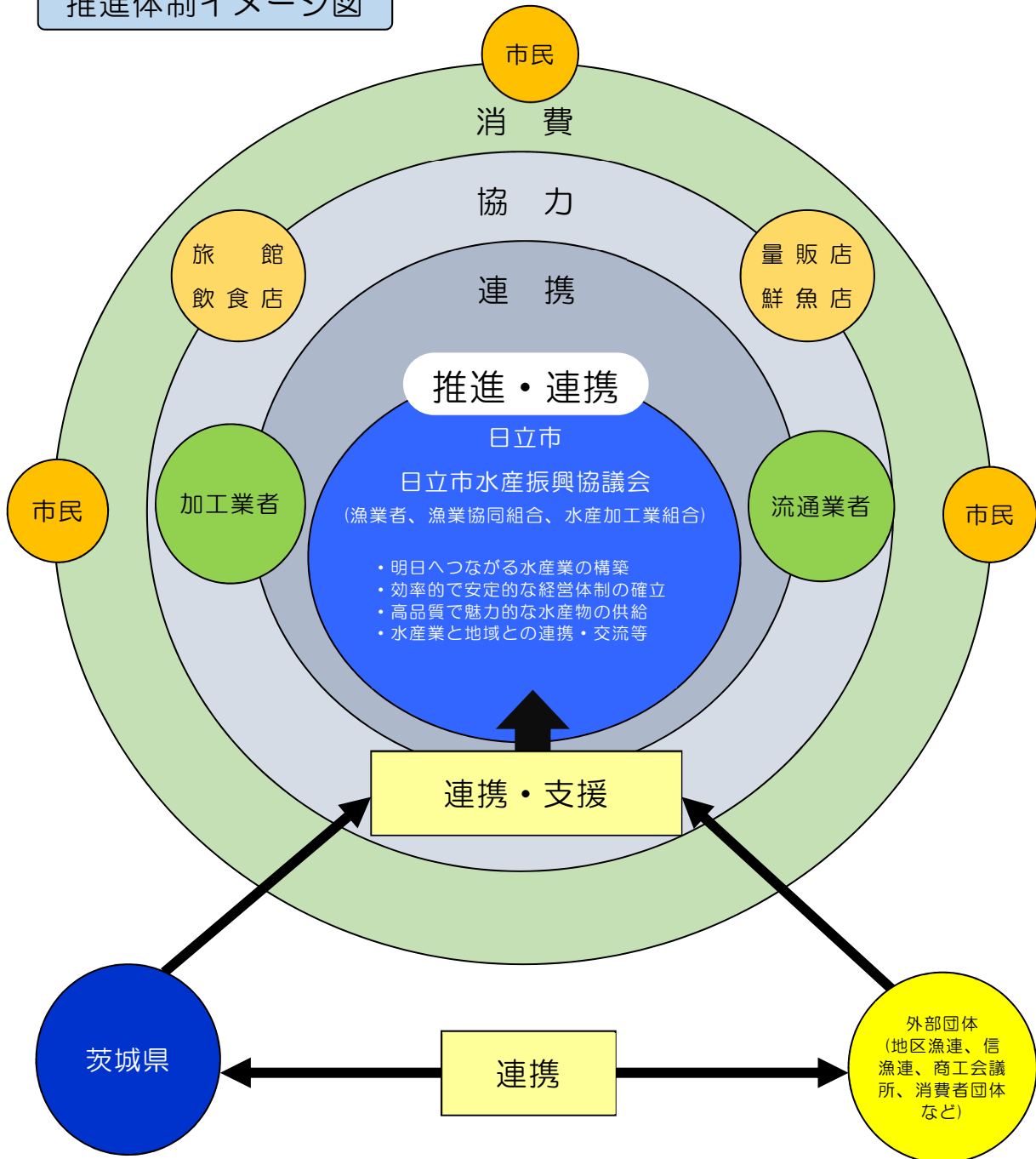
本市水産業に携わる関係者の意見・要望等を受け、関係団体と連携を図りながら、国及び県に対し必要な働きかけを行う。

また、本計画は、行政機関をはじめ各関係機関が協働で進めていくための計画であり、他産業や地域団体等とも連携や協力を図り推進するものである。

3 第2次日立市水産振興計画推進体制

前計画に引き続き、現計画においては、日立市及び日立市水産振興協議会を中心として、各関係者による適切な役割分担と国・県・外部団体との連携・協力により、計画の施策を推進し、実現を目指す。

推進体制イメージ図



4 数値目標一覧

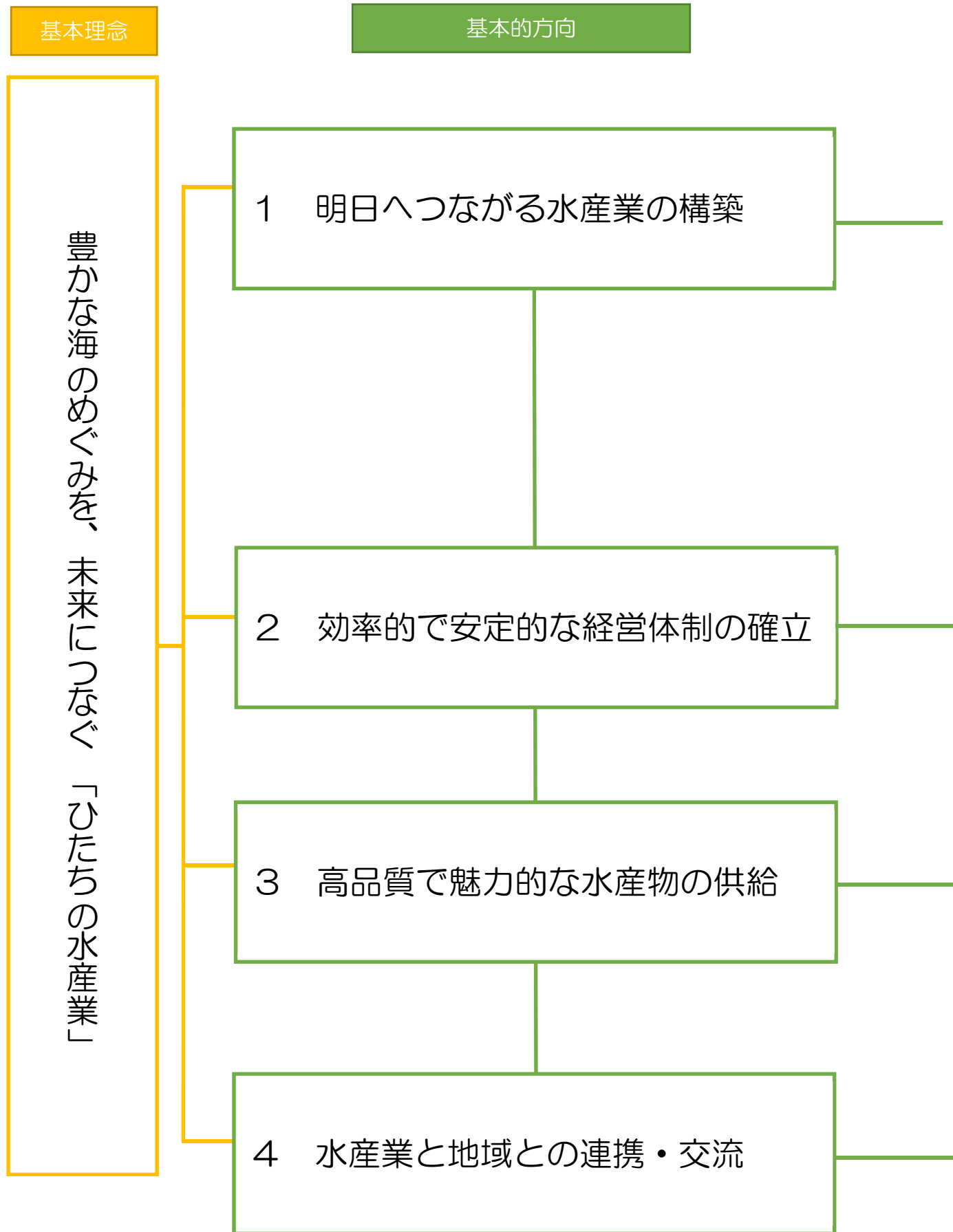
2023年における数値目標は、次のとおりとする。

| 項目 | | 単位 | 現況 (2017) | 目標値 (2023) |
|----|--------------------------------------|-----|--------------|---------------|
| 1 | 水揚高（属地）※ ¹ ※ ² | 千円 | 570,701 | 650,000 |
| 2 | 水揚量（属地） | トン | 1,425 | 1,625 |
| 3 | アワビの稚貝放流個数 | 個 | 132,400 | 130,000 |
| 4 | ヒラメ種苗放流尾数 | 尾 | 117,000 | 120,000 |
| 5 | 水産資源の維持・管理に取り組む組織の数 | 団体 | 4 | 4 |
| 6 | 海浜等清掃活動に参加する市民の数 | 人 | 3,194 | 3,200 |
| 7 | 放流事業に参加する学校等の数（十王川） | 団体 | 7 | 7 |
| 8 | サケ資源有効利用調査参加者数（久慈川） | 人 | 746 | 750 |
| 9 | 新規就業者数（累計）※ ² | 人 | 12 | 13 |
| 10 | 漁業協同組合数（沿海）※ ¹ | 組合 | 3 | 1 |
| 11 | 衛生管理マニュアルを導入する産地市場数 | 市場 | 0 | 1 |
| 12 | 衛生管理型荷捌き所の数 | 箇所 | 1 | 1 |
| 13 | 船上で最新の鮮度管理技術を導入する経営体数（累計） | 経営体 | 12 | 12 |
| 14 | 水産加工優良産品推奨品認定数（累計） | 点 | 5 | 5 |
| 15 | 料理講習会の実施回数 | 回/年 | 3 | 4 |
| 16 | 地魚（シラス、タコ、アワビなど）を活用した新たな商品累計数 | 件 | 10 | 15 |
| 17 | 市が後援するイベント数 | 回 | 1 | 3 |
| 18 | 水産教室を開催する学校の数 | 校 | 2 | 5 |
| 19 | 漁業体験人数 | 人 | 32 | 60 |

※1・・・「日立市総合計画」に掲げられた項目

※2・・・「日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げられた項目

5 第2次日立市水産振興計画施策体系図



基本施策

具体的施策

(1) 漁業生産力の強化

①漁業の生産性・収益性の向上

(2) 水産資源の維持と環境保全

①水産資源の維持・管理
②美しい漁村・漁港づくりの推進
③内水面における河川流域の環境保全と活性化

(3) 水産業の担い手の確保と育成

①新規就業者の確保と受入体制の整備
②水産業の後継者確保と育成
③水産業の魅力づくり

(4) 働きやすい環境づくり

①就労環境の整備
②安全管理及び救援管理体制の強化

(5) ひたちらしい水産業

①伝統ある定置網漁業の継承と活用
②市の魚イメージキャラクターの利用促進
③道の駅日立おさかなセンターの活用

(1) 経営の基盤強化と安定化

①漁業経営の安定化
②漁業経営の多角化
③漁業の新たな方向性

(2) 水産業協同組合の組織強化

①水産業協同組合の組織強化

(1) 高度な衛生管理

①衛生管理体制の強化
②漁業基盤の整備

(2) 水産物の鮮度管理

①鮮度管理技術や施設の導入促進

(3) 水産物の流通・加工基盤の強化

①水産物の流通と機能強化
②水産物及び加工品の販売促進

(4) 消費者ニーズに対応した水産物の供給

①消費者ニーズに対応した魚食普及の促進
②高品質な水産物と食の魅力発信

(1) 水産業と異業種との連携・交流

①新商品の創出及び販路の開拓と拡大
②国等の支援制度の活用を推進

(2) 漁業地域のにぎわい創出

①水産業と連携・交流した取組の推進
②地元の水産業を知る機会の創出
③遊漁船業等によるにぎわい創出

1 明日へつながる水産業の構築

※**総**：日立市総合計画で取り組む事業 **創**：日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略で取り組む事業

漁業協同組合の組合員が減少し、今後ますます高齢化が進む中で、漁業生産力の強化や担い手の確保・育成、経営体の体質強化がより重要となってくる。水産業をより魅力的な職業とするために、水産資源の維持・管理等により生産力を強化し、漁業収入の安定化や就労環境の改善などにつながる取組を促進する。

(1) 漁業生産力の強化

■施策の課題

- ・生産性・収益性の向上による漁業生産力の強化

① 漁業の生産性・収益性の向上

変化する漁業環境に対応するため、漁船の高機能化や水産資源を管理することで、漁業の生産性の向上につながる取組を支援する。

| | | | | |
|--------|--|----|--------------|---------------|
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・漁船の高機能化による省エネ・省コスト化 ・近代化資金の借入の負担軽減を図る助成制度の推進 | | | |
| 主な事業 | 水産物流通・加工基盤強化事業 総 創 、 農水産物流通ネットワーク促進事業 創 、 あわび栽培漁業推進事業 総 、中小漁業融資保証料補給事業 | | | |
| 実施主体 | 漁業者、漁業協同組合、地区漁連、信漁連、基金協会、県、市 | | | |
| 数値目標 | 項目 | 単位 | 現況 (2017) | 目標値 (2023) |
| | 水揚高(属地) | 千円 | 570,701 | 650,000 |
| | 水揚量(属地) | トン | 1,425 | 1,625 |

(2) 水産資源の維持と環境保全

■施策の課題

- ・種苗や稚貝の放流による水産資源の維持
- ・沿岸及び河川の環境保全

① 水産資源の維持・管理


適正な水産資源の維持・管理を図るため、種苗の生産・放流を推進し、つくり育て管理する栽培漁業を促進する。また、放流した種苗の成長に寄与する藻場の環境整備等を推進する。

| | | | | |
|--------|--|----|--------------|---------------|
| 具体的な取組 | ヒラメやアワビなどの種苗・稚貝の放流による、つくり育て管理する栽培漁業の推進 | | | |
| 主な事業 | あわび栽培漁業推進事業 ^⑤ | | | |
| 実施主体 | 漁業者、漁業協同組合、県栽培漁業センター、県、市 | | | |
| 数値目標 | 項目 | 単位 | 現況 (2017) | 目標値 (2023) |
| | アワビの稚貝放流個数 | 個 | 132,400 | 130,000 |
| | ヒラメの種苗放流尾数 | 尾 | 117,000 | 120,000 |

| | | | | |
|--------|---|----|--------------|---------------|
| 具体的な取組 | ・藻場のモニタリングやウニの密度管理、河川流域における植林など、水産資源を維持・管理する取組を推進 | | | |
| 主な事業 | 水産多面的機能発揮対策事業（藻場保全など） | | | |
| 実施主体 | 漁業者、漁業協同組合、内水面漁業協同組合、県、市、市民 | | | |
| 数値目標 | 項目 | 単位 | 現況 (2017) | 目標値 (2023) |
| | 水産資源の維持・管理に取り組む組織の数 | 団体 | 4 | 4 |


② 美しい漁村・漁港づくりの推進


ビーチクリーンキャンペーン等の市民参加型海岸清掃等を活用し、漁業者だけでなく、市民全体で美しい漁村・漁港づくりを推進する。

| | | | | |
|--------|---|----|--------------|---------------|
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・海岸や港内に漂着するごみ清掃などの活動を推進  <p style="text-align: center;">ビーチクリーンキャンペーン</p> | | | |
| 主な事業 | 水産多面的機能発揮対策事業（漂流、漂着物処理）、市民参加による海浜清掃活動 | | | |
| 実施主体 | 漁業者、漁業協同組合、市、市民 | | | |
| 数値目標 | 項目 | 単位 | 現況 (2017) | 目標値 (2023) |
| | 海浜等清掃活動に参加する市民の数 | 人 | 3,194 | 3,200 |

③ 内水面における河川流域の環境保全と活性化

内水面漁業においては、水産資源の維持・増殖や環境保全における公共性の側面においても高い社会的意義を担っているため、増殖事業の強化や支援を図るとともに、資源を活用した観光・教育面での事業拡充を図る。

| | | | | |
|--------|---|----|--------------|---------------|
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の小学校や幼稚園、保育園を対象に行っているサケ放流事業の取組を推進（十王川） | | | |
| |  <p>十王川サケ放流事業</p> | | | |
| 主な事業 | 水産多面的機能発揮対策事業（河川清掃、サケ放流）、十王川魚類繁殖放流事業 | | | |
| 実施主体 | 内水面漁業者、内水面漁業協同組合、県、市 | | | |
| 数値目標 | 項目 | 単位 | 現況 (2017) | 目標値 (2023) |
| | 放流事業に参加する学校等の数（十王川） | 団体 | 7 | 7 |

| | | | | |
|--------|--|----|--------------|---------------|
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・ サケ資源を活用した地域振興策の検討（久慈川） ・ 平成24年度（2012年）から実施している「サケ資源有効利用調査」に対する、観光施策などを含めた支援と協力（久慈川） | | | |
| |  <p>サケ資源有効利用調査</p> | | | |
| 主な事業 | サケ資源有効利用調査支援（久慈川漁協と宿泊施設の仲介等） | | | |
| 実施主体 | 内水面漁業者、内水面漁業協同組合、県、市 | | | |
| 数値目標 | 項目 | 単位 | 現況 (2017) | 目標値 (2023) |
| | サケ資源有効利用調査参加者数（久慈川） | 人 | 746 | 750 |

(3) 水産業の担い手の確保と育成

■ 施策の課題

- ・ 新規就業者の確保
- ・ 後継者や担い手の確保と育成
- ・ 就業機会の創出

① 新規就業者の確保と受入体制の整備

高齢化による漁業就業者の減少対策として、新規就業者の確保に向けた取組を支援する。

また、県や関係機関と連携し、漁業への就業機会を創出する取組や新規就業者が定着できる受入体制等の整備を推進する。

| | | | | |
|--------|--|----|--------------|---------------|
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規就業者の雇用に係る経費に対して支援 ・ 県、市のホームページを活用した、県漁業就業者確保育成支援センターと連携した雇用情報の発信 ・ 漁業に就業する可能性が高い、海洋高校の生徒に漁業体験実習の場を提供 | | | |
| 主な事業 | 新規漁業就業者支援事業 (総) (創) | | | |
| 実施主体 | 漁業者、漁業協同組合、県、市 | | | |
| 数値目標 | 項目 | 単位 | 現況 (2017) | 目標値 (2023) |
| | 新規就業者数 (累計) | 人 | 12 | 13 |

② 水産業の後継者確保と育成

漁業者の研修活動を通じ、地域に集積した漁業の技術を伝承し、自営漁業を育て、明日の水産業を担う漁業後継者の確保と育成を図る取組を支援する。

ヒアリング結果では、水産加工業者においても、後継者が不足していることから、漁業者と同様に担い手の確保に向けた取組を検討する。

| | | | | |
|--------|---|--|--|--|
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 水産業関係者が主催する研修会への積極的な参加 ・ 水産加工業者の担い手確保に向けた取組 ・ 新技術の導入を推進 | | | |
| 主な事業 | 新規漁業就業者支援事業 (総) (創)、漁業研究協議会への支援、水産試験場主管による研修会の実施など | | | |
| 実施主体 | 漁業者、漁業協同組合、加工業協同組合、県、市 | | | |

| | |
|--------|---|
| 具体的な取組 | ・長年培った豊かな知識や経験を持つ漁業者及び加工業者の後継者に対し、技術の伝承など、担い手の育成を推進 |
| 実施主体 | 漁業者、漁業協同組合、加工業者、県、市 |

| | |
|--------|---|
| 具体的な取組 | ・漁業後継者の確保と育成を図る取組に対し、国等の支援制度の活用並びに助成制度の整備 |
| 実施主体 | 漁業者、漁業協同組合、県、市 |

| | |
|--------|---|
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・後継者のいない漁業者が、新規参入者に経営が継承できるよう、技術の伝承を行う「第三者継承」や意欲ある漁業者が自営漁業者を育てていくための仕組みづくりの推進 ・漁業安定化を図り、漁家子弟や新規就業者の受入れができるよう、共同経営や法人経営への移行などの検討を推進 |
| 実施主体 | 漁業者、漁業協同組合、県、市 |

③ 水産業の魅力づくり

魅力ある水産業を目指すため、担い手が安定的な所得を確保できるよう、地産地消の推進や水産物のブランド化など、付加価値を高める取組を支援する。

| | |
|--------|--|
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・地産地消の推進 ・水産物のブランド化など、付加価値を高める取組を支援 ・本市水産業の魅力発信 |
| | <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <h4>あんこう</h4> <p>味の良い最高級のジョウバンモノ</p>  <p>日立でたくさん獲れるアンコウは、茨城の冬の味覚として人気です。東のアンコウ西のフグと言われる高級食材で、茨城沖のアンコウは特に味が良く、ジョウバンモノとして高く評価されています。日立市内では、あんこう鍋はもちろん、あん肝、共産、唐揚げなど、多彩な味を楽しめます。</p> </div> <div style="text-align: center;"> <h4>さくらダコ</h4> <p>やわらかく程よい弾力と繊細な味わい</p>  <p>日立市のきかな「さくらダコ」は、日立で獲れるミズダコとヤナギダコの総称です。日立のタコ水揚げ量は長きにわたって県内1位。蒸しダコ・酢ダコはもちろん、生の刺身、タコしゃぶ、唐揚げ、タコ飯など、多彩なメニューが楽しめます。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;"> <h4>しらす</h4> <p>水質のよい海で獲れる最上級品</p>  <p>しらすはイワシの稚魚の総称。日立の海は水質が良く、上質のしらすがたくさん獲れます。ほとんどはしらす干やちりめんじゃこなどに加工しますが、先進技術CAS冷凍庫を導入していますので冷凍しらすの出荷もできます。CASは細胞を壊さずに冷凍するので、本当の生のおいしさをお届けできます。</p> </div> <div style="text-align: center;"> <h4>本じらうお</h4> <p>透き通った身が美しい小さく繊細な魚</p>  <p>本じらす、シラウオとも呼ばれるイシカワシラウオ。生で食べるほか、かき揚げや吸い物などにしても美味しく、高級食材として珍重されます。生の本じらうおは弾力のあるプリプリとした食感が特徴で、日立では冷凍・加工技術により鮮度を保って出荷できます。</p> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">ベストセクションひたちには選ばれている水産物</p> |
| 実施主体 | 漁業者、漁業協同組合、県、市 |

(4) 働きやすい環境づくり

■ 施策の課題

- ・ 就労環境の改善
- ・ 海難事故防止のための安全対策
- ・ 漁業の安全確保に向けた取組

① 就労環境の整備

漁業就業者が、安心して働ける環境を作るための整備を推進する。

| | |
|--------|--|
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ライフジャケットの着用促進 ・ 老朽化した共同利用施設の整備・改修等の支援 |
| 実施主体 | 漁業者、漁業協同組合、県、市 |

② 安全管理及び救援管理体制の強化

関係機関と連携しながら、安全管理体制として漁業者の意識啓発に努めるとともに、漁業協同組合の救援体制の強化に向けた取組を支援する。

| | |
|--------|--|
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全管理体制の確保と意識啓発 ・ 漁業協同組合の救援体制の強化 ・ 海難事故防止を図るための海象・気象情報を把握できる施設整備の推進 |
| 主な事業 | 水難救済会補助事業 |
| 実施主体 | 漁業者、漁業協同組合、市 |

(5) ひたちらしい水産業

■ 施策の課題

- ・ 定置網漁業を活かしたにぎわいづくり
- ・ 日立市の魚のイメージアップ
- ・ 道の駅日立おさかなセンターの活用

① 伝統ある定置網漁業の継承と活用

昭和2年（1927年）から90年余の歴史を持ち、県内で唯一の伝統的な定置網漁業を活用し、観光や地域のにぎわいづくりにつながる取組を検討する。

| | |
|---------------|--|
| <p>具体的な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 目の前で漁を見学できる体験など、観光施策と連携した定置網観光の検討 ・ 獲りたてで、新鮮な地魚をその場で消費者に提供する「朝市」や「ばんや食堂」などの魚食普及の取組を検討 <div data-bbox="687 846 1129 1429" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">会瀬漁港の定置網漁業</p> |
| <p>実施主体</p> | <p>漁業者、漁業協同組合、市</p> |

② 市の魚イメージキャラクターの利用促進

市の魚「さくらダコ」のイメージキャラクター「たこピン」を活用し、市の水産物のイメージアップを推進する。



| | |
|---------------|--|
| <p>具体的な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 水産物や加工商品への掲載やイベント等への積極的な活用 |
| <p>主な事業</p> | <p>水産振興協議会補助</p> |
| <p>実施主体</p> | <p>漁業者、漁業協同組合、加工業協同組合、水産振興協議会、市</p> |

③ 道の駅日立おさかなセンターの活用

本市水産物や水産加工品の販売拠点である「道の駅日立おさかなセンター」を活用し、観光施策との連携により、市内外の方々に本市水産物の魅力を発信することで、魚食普及を推進する。

| | |
|--------------------|--|
| <p>具体的な 取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・本市水産物や水産加工品の魅力発信と魚食普及の推進 ・イベントの開催における連携 <div data-bbox="550 526 1276 974" data-label="Image"> </div> <p>道の駅日立おさかなセンター旬漁祭「口福あんこう祭り」</p> |
| <p>実施主体</p> | <p>漁業者、漁業協同組合、市</p> |

2 効率的で安定的な経営体制の確立

※：日立市総合計画で取り組む事業 ：日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略で取り組む事業

漁業収入の安定化に向け、計画的に収益性のある改善策や新たな収入源となる事業への取組を支援するとともに、水揚高と漁業者の減少により、漁業協同組合の経営に影響が出ることも考えられることから、持続可能な経営を維持するため、効率的で安定的な経営体制の確立を支援する。

(1) 経営の基盤強化と安定化

■施策の課題

- ・ 漁業者の所得向上及び経営安定化
- ・ 漁業コストの削減




① 漁業経営の安定化

漁業者の所得確保や燃油経費の負担軽減を図るため、国の助成制度の活用を促進する。

| | |
|--------|---|
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 燃油高騰対策のため、国が実施するセーフティネット等の活用を促進 ・ 中小漁業融資保証料補給事業や漁獲共済掛金助成などの支援 ・ 経営安定化に向けた新たな助成制度の検討 |
| 主な事業 | 中小漁業融資保証料補給事業、漁獲共済事業、省燃油活動推進事業 |
| 実施主体 | 漁業協同組合、地区漁連、漁業共済組合、県、市 |

② 漁業経営の多角化

沿海の環境変化や燃油価格の変動に左右されやすい漁業は、収入が安定しないため、漁業者の所得向上策として、漁業経営多角化の取組を支援する。

| | |
|--------|---|
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな漁業への取組や漁獲の効率化 ・ 6次産業化への推進 ・ 複数漁法による組合せ漁業や遊漁船業との兼業推進 |
| 主な事業 | 水産物流通・加工基盤強化事業   、農水産物流通ネットワーク促進事業  |
| 実施主体 | 漁業者、漁業協同組合、商工業者、県、市 |

③ 漁業の新たな方向性

国が進めている水産政策の改革に伴う、漁業法改正等の対応については、国の動向を注視しながら、県や水産関係団体と情報共有を図る。また、個人経営体が減少する中、経営体を維持するための新たな方向性について、県及び関係機関と連携しながら検討する。

| | |
|--------|---|
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> 水産政策の改革に伴う、漁業法改正等の対応 個人経営体から一定規模を有する法人への転換、統合、拡充方策検討 |
| 実施主体 | 漁業者、漁業協同組合、地区漁連、県、市 |

(2) 水産業協同組合の組織強化

■ 施策の課題

- 漁業協同組合の財務基盤及び組織を強化
- 水産加工業協同組合及び内水面漁業協同組合の組織安定化

① 水産業協同組合の組織強化

漁業協同組合は、水揚高と漁業者が減少することにより、経営に影響を及ぼすことが予想されることから、市内の漁業協同組合の事業統合や合併など、県や関係機関と連携しながら、組織強化に対する取組を促進する。

また、水産加工業協同組合や内水面漁業協同組合においては、専任職員が少なく、小規模であることから、県や関係機関と連携しながら、組合組織の安定化について支援する。

| | | | | |
|--------|--|----|----------|-----------|
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> 合併による組織強化の促進 事業統合や新たな事業に向けた取組への支援 青年部や女性部の連携強化 | | | |
| 主な事業 | 水産物流通・加工基盤強化事業 ^① 、漁業協同組合合併促進事業 ^② | | | |
| 実施主体 | 漁業者、漁業協同組合、県、市 | | | |
| 数値目標 | 項目 | 単位 | 現況(2017) | 目標値(2023) |
| | 漁業協同組合数(沿海) | 組合 | 3 | 1 |

| | |
|--------|------------------------------|
| 具体的な事業 | 水産加工業協同組合や内水面漁業協同組合の組織安定化を支援 |
| 実施主体 | 水産加工業協同組合、内水面漁業協同組合、県、市 |

3 高品質で魅力的な水産物の供給

※**総**：日立市総合計画で取り組む事業 **創**：日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略で取り組む事業

消費者は、価格よりも鮮度や質を重視しており、食中毒や産地偽装など、食をめぐる様々な不安を持っている。そのため、適正な衛生管理や鮮度管理を通して、消費者の不安を解消していく必要がある。平成30年（2018年）10月に開場した、豊洲市場は、高度な衛生管理や鮮度管理が可能な、「閉鎖型施設」を採用しており、今後は、産地市場においても、それに呼応した品質・衛生管理が求められることから、水揚げから販売まで、高品質で魅力的な水産物の供給を促進する。

(1) 高度な衛生管理

■施策の課題

- ・高度な衛生管理対策
- ・豊洲市場に呼応した品質・衛生管理

① 衛生管理体制の強化

関係機関と連携しながら、一貫した高度な衛生管理体制の導入を検討するとともに、基礎的な衛生管理意識の向上に努める。

| | | | | |
|--------|---|----|----------|-----------|
| 具体的な取組 | ・荷捌き所での手洗いの徹底や分煙化、魚介類の直置き禁止など、衛生管理マニュアル導入に向けた支援 | | | |
| 実施主体 | 漁業者、漁業協同組合、県、市 | | | |
| 数値目標 | 項目 | 単位 | 現況(2017) | 目標値(2023) |
| | 衛生管理マニュアルを導入する産地市場数 | 市場 | 0 | 1 |

② 漁業基盤の整備

県と連携を図りながら、水産業の拠点施設である魚市場や関連施設など、漁港の機能向上や衛生管理に対応した施設整備を推進する。

| | | | | |
|--------|------------------------------|----|----------|-----------|
| 具体的な取組 | ・漁港整備事業に対する支援 ・漁港の施設整備の検討 | | | |
| 主な事業 | 漁港整備事業 総 創 | | | |
| 実施主体 | 漁業協同組合、県、市 | | | |
| 数値目標 | 項目 | 単位 | 現況(2017) | 目標値(2023) |
| | 衛生管理型荷捌き所の数 | 箇所 | 1 | 1 |




(2) 水産物の鮮度管理

■ 施策の課題

- ・ 鮮度管理対策

① 鮮度管理技術や施設の導入促進

水産物の鮮度を保持するため、新たな技術の普及、蓄養施設や冷凍冷蔵施設等の導入を促進する。

| | | | | |
|--------------------|--|------------|----------------------|-----------------------|
| <p>具体的な 取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 蓄養施設や冷凍冷蔵施設等の導入を支援 ・ 鮮度管理技術の導入を促進 <div data-bbox="667 618 1118 949" style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">船上鮮度技術によって商品化した生食用しらす</p> | | | |
| <p>主な事業</p> | <p>水産物流通・加工基盤強化事業  </p> | | | |
| <p>実施主体</p> | <p>漁業者、漁業協同組合、加工協同組合、県、市</p> | | | |
| <p>数値目標</p> | <p>項目</p> | <p>単位</p> | <p>現況 (2017)</p> | <p>目標値 (2023)</p> |
| | <p>船上で最新の鮮度管理技術を導入する経営体数（累計）</p> | <p>経営体</p> | <p>12</p> | <p>12</p> |

(3) 水産物の流通・加工基盤の強化

■ 施策の課題

- ・ 水産物の流通機能強化
- ・ 水産物及び加工品の価値及び認知度の向上

① 水産物の流通と機能強化

水揚機能を強化するため、漁獲した水産物の水揚港を集約し、買付事業者の増加や水産物の流通拠点を再構築し、関係機関と連携しながら、流通機能の強化を推進する。

| | |
|--------|---|
| 具体的な取組 | ・ 流通機能の強化を図るための調査研究 |
| 主な事業 | 水産物流通・加工基盤強化事業(総創) 農水産物流通ネットワーク促進事業(創) |
| 実施主体 | 漁業者、漁業協同組合、地区漁連、県、市 |

② 水産物及び加工品の販売促進

本市水産物及び加工品の販売を促進するため、水産物の流通体制の構築、取引規模の拡大や活性化を図り、価格形成力の強化を推進する。

また、インターネットやSNS等を活用して、市内の飲食店や量販店等へ情報を発信し、消費者の購買力を高める取組を促進する。

| | | | | |
|--------|---|----|----------|-----------|
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 販売力を促進するための検討 ・ ホームページやSNS等を活用した情報発信 | | | |
| 実施主体 | 漁業者、漁業協同組合、地区漁連、県、市 | | | |
| 数値目標 | 項目 | 単位 | 現況(2017) | 目標値(2023) |
| | 水産加工優良産品推奨品認定数(累計) | 点 | 5 | 5 |

(4) 消費者ニーズに対応した水産物の供給

■ 施策の課題

- ・ 消費者ニーズに対応した魚食普及の促進
- ・ 水産物の産地販売力強化と消費拡大

① 消費者ニーズに対応した魚食普及の促進

消費者のニーズに応えるため、各関係者と連携し、道の駅日立おさかなセンターなどが開催しているイベントのほか、漁業協同組合の女性部や加工業者等が実施する料理講習会などにおいて、地元水産物の魅力をPRするとともに、魚食普及や消費拡大を図る。



| | | | | |
|--------|---|-----|----------|-----------|
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業協同組合の女性部等や加工業者が実施する料理講習会を推進 ・ 道の駅日立おさかなセンターなどが開催しているイベントでの魚食普及活動 ・ 消費者団体と連携した各種イベント等のPR活動 | | | |
| 主な事業 | 水産振興協議会補助 | | | |
| 実施主体 | 漁業者、漁業協同組合、加工業協同組合、水産振興協議会、市 | | | |
| 数値目標 | 項目 | 単位 | 現況(2017) | 目標値(2023) |
| | 料理講習会の実施回数 | 回/年 | 3 | 4 |

② 高品質な水産物と食の魅力発信

衛生管理や鮮度管理がされた高品質な水産物や地魚を使った食の魅力などを消費者や流通事業者等に対し、情報発信する。

| | | | | |
|--------|---|--|--|--|
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 紙媒体のほか、ホームページやSNS等を活用し、高品質な水産物と食の魅力を伝える情報発信 | | | |
| 実施主体 | 漁業者、漁業協同組合、加工業協同組合、地区漁連、県、市 | | | |

4 水産業と地域との連携・交流

※：日立市総合計画で取り組む事業 ：日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略で取り組む事業

魚食普及や消費拡大を図るため、水産業者、農業者と商工業者等が連携・交流し、本市の水産資源を活用した新たな販路開拓の取組や商品創出のほか、地域が更なる水産業の可能性を見出し、理解を深める機会として、漁業地域のにぎわいづくりなどの取組を推進する。

(1) 水産業と異業種との連携・交流

■ 施策の課題

- ・ 新たな販路開拓と商品の創出
- ・ 関連分野との連携・交流

① 新商品の創出及び販路の開拓と拡大

水産業者、農業者と商工業者等の異業種が連携・交流をし、マッチングを図り、水産関係者だけでは持ち得ない知識や技術を活かしながら、販路の開拓や拡大等への取組を推進する。

また、地域の高校生、大学生との連携・交流を図り、水産資源を活用した新たな土産品の試作や料理メニューなど、消費者ニーズに対応した新しい商品を創出する取組を推進するほか、水産・商工・観光振興策との連携を図る。

| | | | | |
|--------|--|----|----------|-----------|
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 異業種とのマッチングに向けたヒアリングの実施 ・ 販路開拓や拡大等に向けた推進 ・ 地域の高校生、大学生と連携した、新たな土産品の試作や料理メニューなどの検討 ・ 水産・商工・観光振興策との連携 | | | |
| 実施主体 | 漁業者、漁業協同組合、加工業協同組合、県、市 | | | |
| 数値目標 | 項目 | 単位 | 現況(2017) | 目標値(2023) |
| | 地魚（シラス、タコ、アワビなど）を活用した新たな商品累計数 | 件 | 10 | 15 |

② 国等の支援制度の活用を推進

新たな販路の拡大・開拓や新商品創出などの取組において、国等の支援制度の活用を推進する。

| | |
|--------|------------------------|
| 具体的な取組 | ・ 国等の支援制度の活用を推進 |
| 実施主体 | 漁業者、漁業協同組合、加工業協同組合、県、市 |

(2) 漁業地域のにぎわい創出

■ 施策の課題

- ・ 漁業地域のにぎわい創出と活性化


① 水産業と連携・交流した取組の推進

漁業地域ごとの特徴を活かした活性化策として、会瀬定置網業を活用した観光漁業の検討や漁業関係者による釣り大会の開催など、地域のにぎわい創出を推進する。

| | | | | |
|--------|--|----|--------------|---------------|
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 会瀬定置網業を活用した観光漁業への視察 ・ 漁業地域におけるにぎわい創出の検討 | | | |
| 実施主体 | 漁業者、漁業協同組合、県、市、市民、観光事業者 | | | |
| 数値目標 | 項目 | 単位 | 現況 (2017) | 目標値 (2023) |
| | 市が後援するイベント数 | 回 | 1 | 3 |

② 地元の水産業を知る機会の創出

多くの方々に本市水産業に親しみをもってもらうため、漁業地域ならではの水産教室や食育、料理教室の開催など、水産業に関する学習や接する機会の創出を推進し、水産振興や魚食普及を促進する。

| | | | | |
|--------|--|----|--------------|---------------|
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 食育及び料理教室の開催の推進 ・ 市内小学校での食育及び水産教室を推進 | | | |
| |  <p>市内小学校で行われている水産教室</p> | | | |
| 実施主体 | 漁業者、漁業協同組合、加工業協同組合、市 | | | |
| 数値目標 | 項目 | 単位 | 現況 (2017) | 目標値 (2023) |
| | 水産教室を開催する学校の数 | 校 | 2 | 5 |

③ 遊漁船業等によるにぎわい創出

漁業者の所得確保の機会として、遊漁船業との兼業や漁業体験などの受入れを支援する。

| | | | | |
|--------|---|----|--------------|---------------|
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業者の所得確保の機会創出に向けた検討 ・ 遊漁船業との兼業や漁業体験の受入れの推進 | | | |
| 実施主体 | 漁業者、漁業協同組合、県、市 | | | |
| 数値目標 | 項目 | 単位 | 現況 (2017) | 目標値 (2023) |
| | 漁業体験人数 | 人 | 32 | 60 |

■ 資料編

1 アンケート結果

- 漁業者
- 水産加工業者
- 仲買業者
- 消費者

2 ヒアリング結果

- 内水面漁業者
- 水産加工業者
- 飲食店
- 水産物販売事業者
- 宿泊施設
- 流通関係者

第2次日立市水産振興計画検討委員会運営要綱

第2次日立市水産振興計画検討委員会の構成

第2次日立市水産振興計画策定までの検討委員会の検討経過

おさかなカレンダー

アンケート結果【漁業者・水産加工業者・仲買業者】

1 目的

- (1) 漁業を取り巻く実態を把握し、市内漁業の生産構造、就業構造を明らかにする。
- (2) 水産加工業者・仲買業者の水産業や地魚についての考えや意見を把握する。

2 調査方法

- (1) 市内の漁業協同組合に所属する組合員に対するアンケート調査
- (2) 市内の加工業協同組合に所属する組合員に対するアンケート調査

3 調査期間

| 区分 | 漁業者 | 水産加工業者・仲買業者 |
|----|----------------|----------------|
| 期間 | 8/9（木）～8/31（金） | 8/25（土）～9/3（月） |

4 調査対象

- (1) 漁業者（漁協に所属し、実際に漁業を営んでいる組合員）
- (2) 水産加工業者・仲買業者（水産加工業協同組合に所属している組合員）

5 回収率

| 区分 | 漁業者 | 水産加工業者・仲買業者 |
|-----|-------|-------------|
| 回収率 | 49.1% | 30.0% |

※注意点

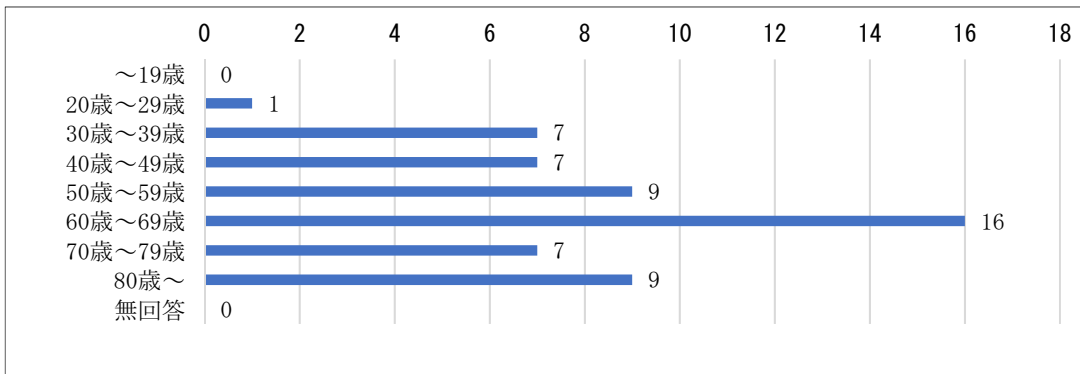
- ①小数点第2位を切捨てているため、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- ②複数回答可とした問いの回答は全て集計に反映させている。

アンケート結果【漁業者】

(1) 基本的事項について

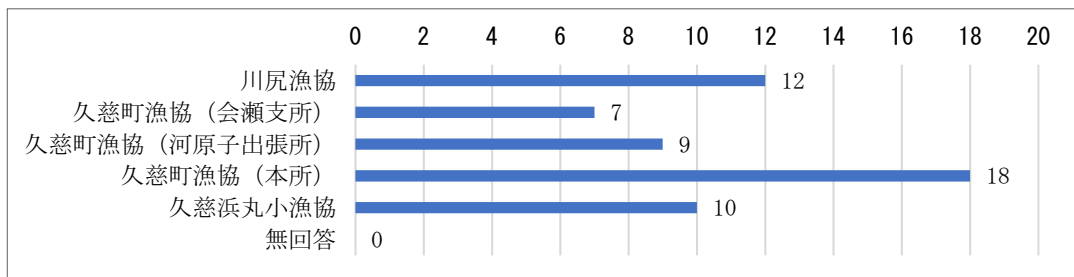
問1 年齢について

| No. | 設問 | 件数 | 割合(%) |
|-----|---------|----|-------|
| 1 | ～19歳 | 0 | 0.0 |
| 2 | 20歳～29歳 | 1 | 1.8 |
| 3 | 30歳～39歳 | 7 | 12.5 |
| 4 | 40歳～49歳 | 7 | 12.5 |
| 5 | 50歳～59歳 | 9 | 16.1 |
| 6 | 60歳～69歳 | 16 | 28.6 |
| 7 | 70歳～79歳 | 7 | 12.5 |
| 8 | 80歳～ | 9 | 16.1 |
| 9 | 無回答 | 0 | 0.0 |
| 計 | | 56 | |



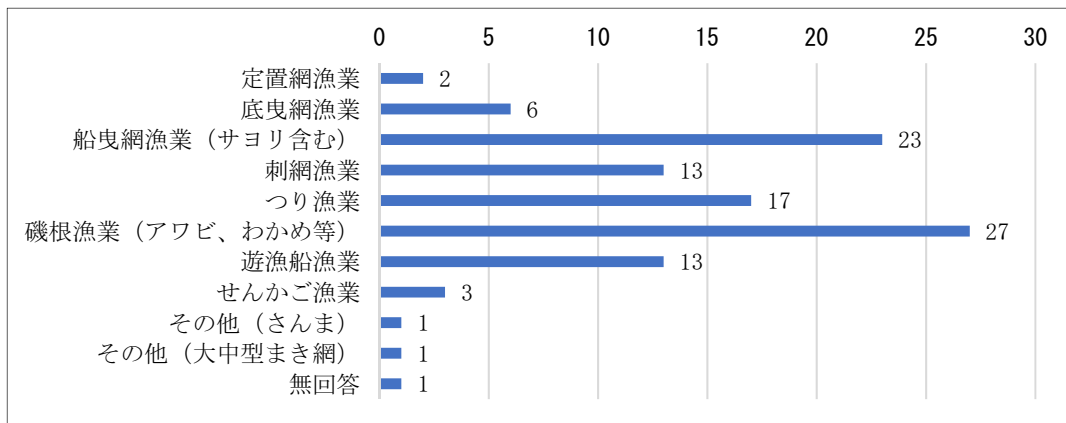
問2 所属する漁業協同組合について

| No. | 設問 | 件数 | 割合(%) | |
|-----|---------|--------|-------|------|
| 1 | 川尻漁協 | 12 | 21.4 | |
| 2 | 久慈町漁協 | 会瀬支所 | 7 | 12.5 |
| 3 | | 河原子出張所 | 9 | 16.1 |
| 4 | | 本所 | 18 | 32.1 |
| 5 | 久慈浜丸小漁協 | 10 | 17.9 | |
| 6 | 無回答 | 0 | 0.0 | |
| 計 | | 56 | | |



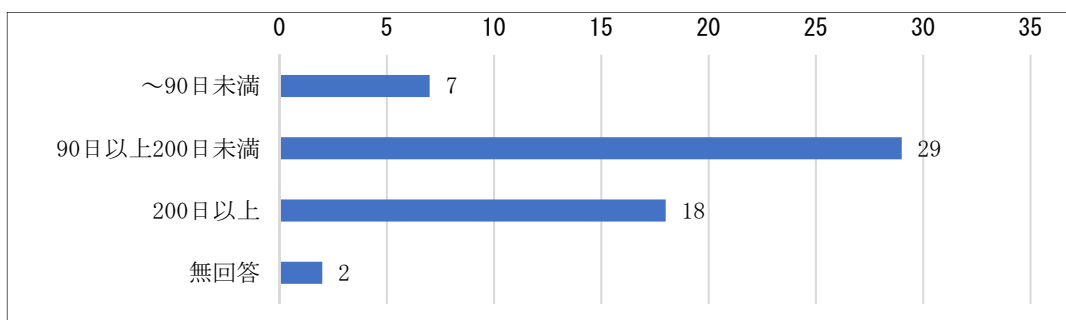
問3 主に営んでいる漁業種類について（複数回答可）

| No. | 設問 | 件数 | 割合(%) |
|-----|----------------|-----|-------|
| 1 | 定置網漁業 | 2 | 1.9 |
| 2 | 底曳網漁業 | 6 | 5.6 |
| 3 | 船曳網漁業（サヨリ含む） | 23 | 21.5 |
| 4 | 刺網漁業 | 13 | 12.1 |
| 5 | つり漁業 | 17 | 15.9 |
| 6 | 磯根漁業（アワビ、わかめ等） | 27 | 25.2 |
| 7 | 遊漁船漁業 | 13 | 12.1 |
| 8 | せんかご漁業 | 3 | 2.8 |
| 9 | その他（さんま） | 1 | 0.9 |
| 10 | その他（大中型まき網） | 1 | 0.9 |
| 11 | 無回答 | 1 | 0.9 |
| 計 | | 107 | |



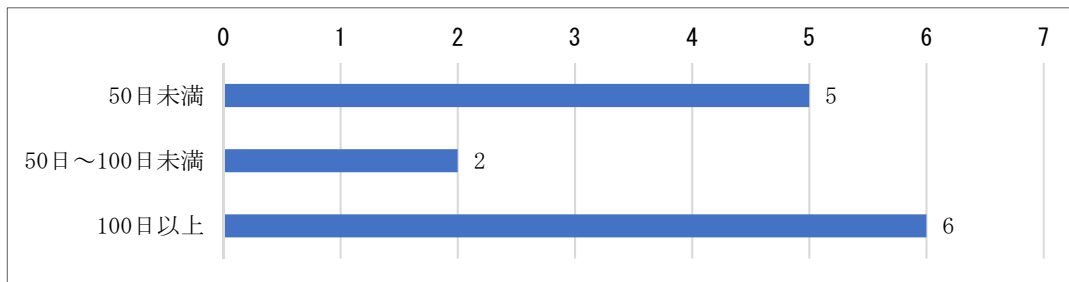
問4-1 平成29年（2017年）1月～12月の年間操業日数について

| No. | 設問 | 件数 | 割合(%) |
|-----|-------------|----|-------|
| 1 | ～90日未満 | 7 | 12.5 |
| 2 | 90日以上200日未満 | 29 | 51.8 |
| 3 | 200日以上 | 18 | 32.1 |
| 4 | 無回答 | 2 | 3.6 |
| 計 | | 56 | |



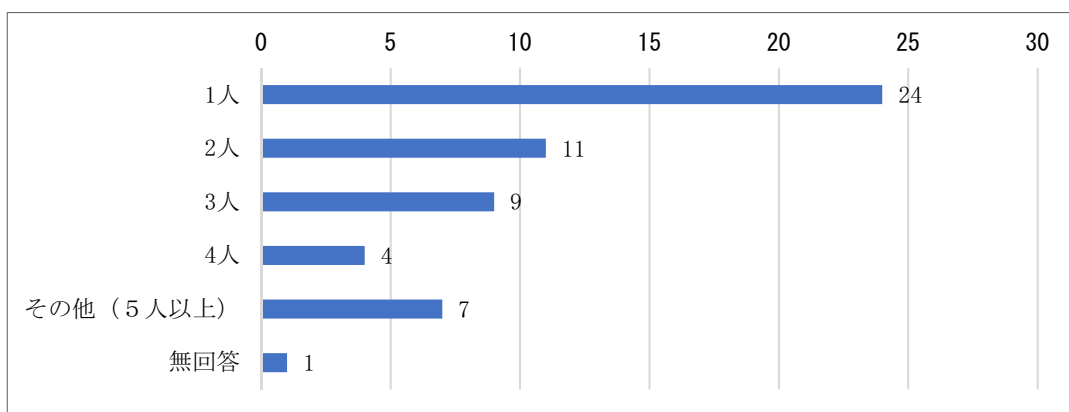
問4-2 遊漁船漁を行っている方の年間操業日数について

| No. | 設問 | 件数 | 割合(%) |
|-----|------------|----|-------|
| 1 | 50日未満 | 5 | 38.5 |
| 2 | 50日～100日未満 | 2 | 15.4 |
| 3 | 100日以上 | 6 | 46.2 |
| 計 | | 13 | |



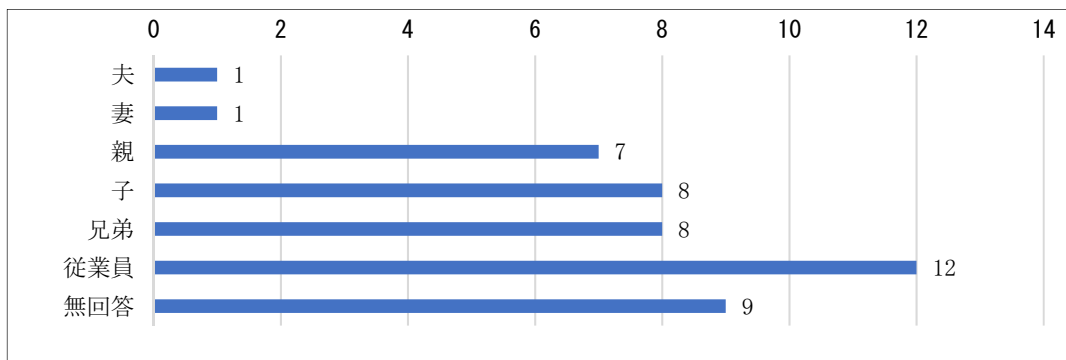
問5 漁業の操業人数について

| No. | 設問 | 件数 | 割合(%) |
|-----|-----------|----|-------|
| 1 | 1人 | 24 | 42.9 |
| 2 | 2人 | 11 | 19.6 |
| 3 | 3人 | 9 | 16.1 |
| 4 | 4人 | 4 | 7.1 |
| 5 | その他(5人以上) | 7 | 12.5 |
| 6 | 無回答 | 1 | 1.8 |
| 計 | | 56 | |



問6-1 問5で操業人数「1人」以外と回答した漁業者と乗組員の関係について
(複数回答可)

| No. | 設問 | 件数 | 割合(%) |
|-----|-----|----|-------|
| 1 | 夫 | 1 | 2.2 |
| 2 | 妻 | 1 | 2.2 |
| 3 | 親 | 7 | 15.2 |
| 4 | 子 | 8 | 17.4 |
| 5 | 兄弟 | 8 | 17.4 |
| 6 | 従業員 | 12 | 26.1 |
| 7 | 無回答 | 9 | 19.6 |
| 計 | | 46 | |

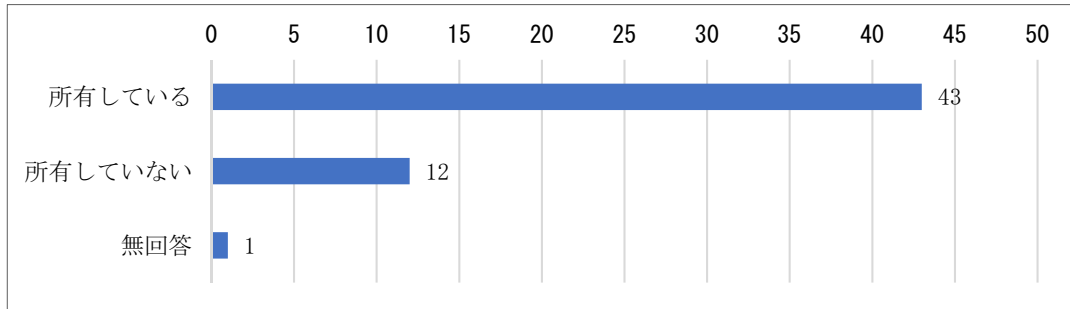


問6-2 問6-1において、「従業員」と回答している12人が行っている漁業種類について

| 漁業種類 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|--------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|
| 定置網漁業 | | | | | | | | | | | ○ | |
| 底曳網漁業 | | ○ | | | | | | | | | | ○ |
| 船曳網漁業 (サヨリ含む) | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 刺網漁業 | | | | ○ | | | | | | ○ | ○ | |
| つり漁業 | | | | ○ | | | | | | ○ | ○ | |
| 磯根漁業 (アワビ、わかめ等) | | | | ○ | | ○ | | | | | ○ | ○ |
| 遊漁船漁業 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| せんかご漁業 | | | | | | | | | | | ○ | |
| その他(さんま) | | | | | | | | | | | | |
| その他(大中型まき網) | | | | | | | | | | | | |
| 合計(単位 種類) | 1 | 1 | 1 | 4 | 1 | 2 | 1 | 2 | 2 | 2 | 5 | 2 |

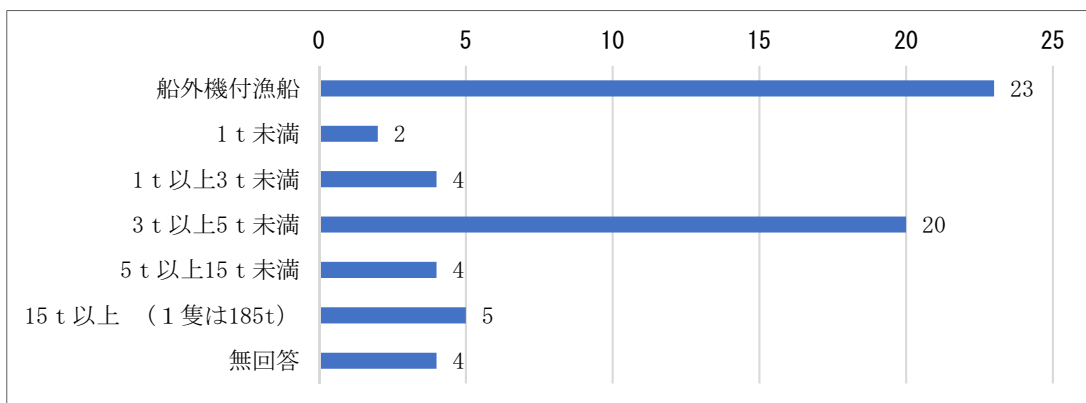
問7 漁船の所有について

| No. | 設問 | 件数 | 割合 (%) |
|-----|---------|----|--------|
| 1 | 所有している | 43 | 76.8 |
| 2 | 所有していない | 12 | 21.4 |
| 3 | 無回答 | 1 | 1.8 |
| 計 | | 56 | |



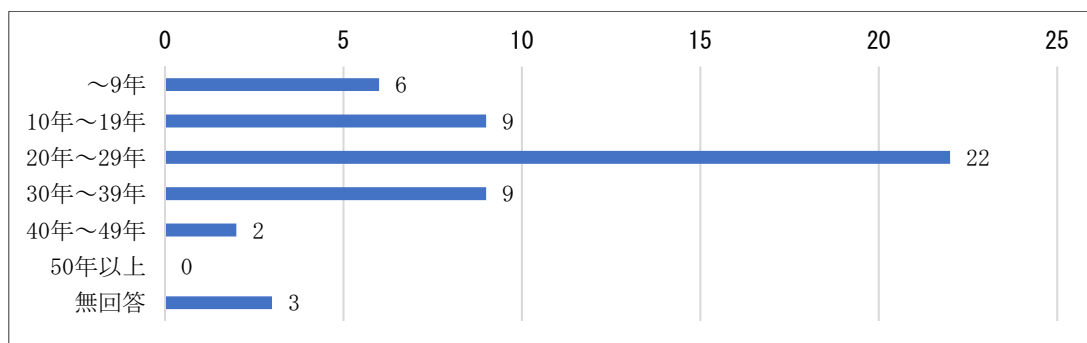
問8 問7で漁船を「所有している」と回答した漁業者が所有する漁船の種類について
(複数回答可)

| No. | 設問 | 件数 | 割合 (%) |
|-----|---------------------|----|--------|
| 1 | 船外機付漁船 | 23 | 37.1 |
| 2 | 1 t 未満 | 2 | 3.2 |
| 3 | 1 t 以上 3 t 未満 | 4 | 6.5 |
| 4 | 3 t 以上 5 t 未満 | 20 | 32.3 |
| 5 | 5 t 以上 15 t 未満 | 4 | 6.5 |
| 6 | 15 t 以上 (1 隻は 185t) | 5 | 8.1 |
| 7 | 無回答 | 4 | 6.5 |
| 計 | | 62 | |



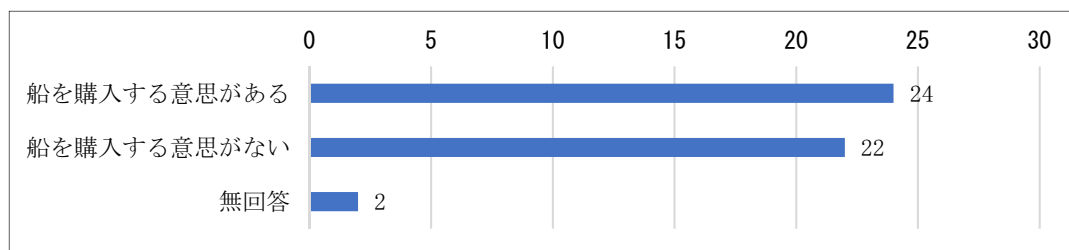
問9-1 問7で漁船を「所有している」と回答した漁業者が保有する漁船の使用年数について（複数回答可）

| No. | 設問 | 件数 | 割合(%) |
|-----|---------|----|-------|
| 1 | ～9年 | 6 | 11.8 |
| 2 | 10年～19年 | 9 | 17.6 |
| 3 | 20年～29年 | 22 | 43.1 |
| 4 | 30年～39年 | 9 | 17.6 |
| 5 | 40年～49年 | 2 | 3.9 |
| 6 | 50年以上 | 0 | 0.0 |
| 7 | 無回答 | 3 | 5.9 |
| 計 | | 51 | |



問9-2 また、漁船が使用不能となった場合、新たに船を購入して漁を継続する意思があるかについて

| No. | 設定 | 件数 | 割合(%) |
|-----|-------------|----|-------|
| 1 | 船を購入する意思がある | 24 | 50.0 |
| 2 | 船を購入する意思がない | 22 | 45.8 |
| 3 | 無回答 | 2 | 4.2 |
| 計 | | 48 | |

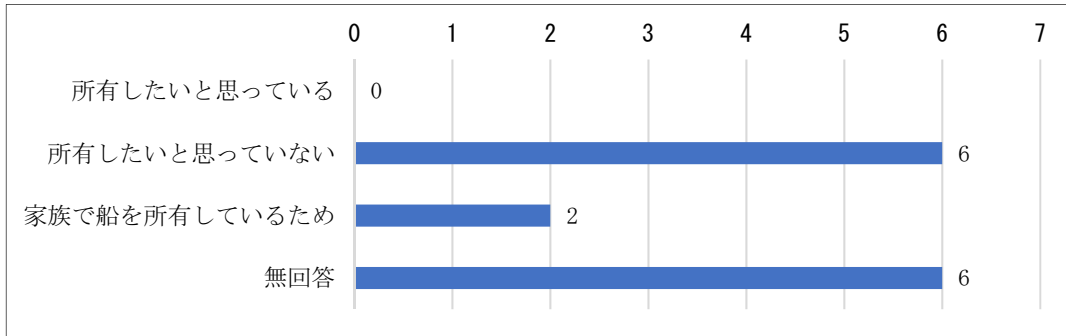


【参考】（問9-2で「船を購入する意思がない」と回答した漁業者について

| 主な理由 | 件数 |
|-----------|----|
| 高齢のため | 11 |
| 船の購入金額が高い | 5 |
| 後継者がいない | 4 |
| 魚価が安い | 1 |
| 燃油が高い | 1 |
| 計 | 22 |

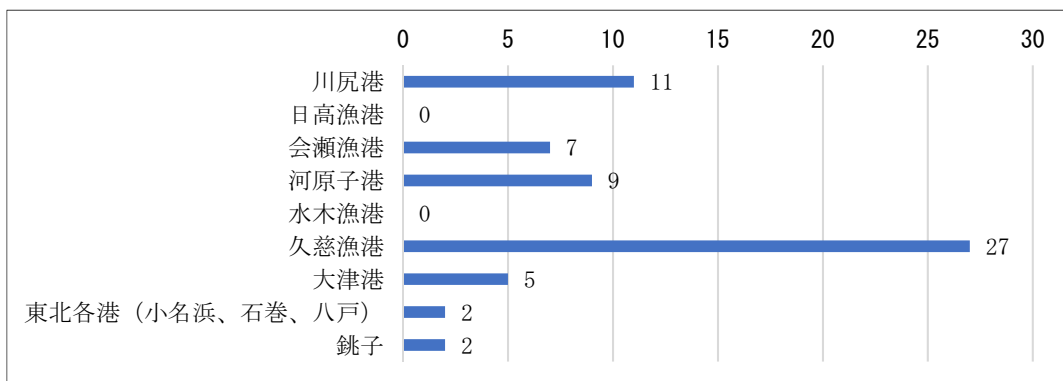
問10 問7で「漁船を所有していない」と回答した漁業者が漁船を所有したいと
思っているかどうかについて

| No. | 設問 | 件数 | 割合 (%) |
|-----|---------------|----|--------|
| 1 | 所有したいと思っている | 0 | 0.0 |
| 2 | 所有したいと思っていない | 6 | 42.9 |
| 3 | 家族で船を所有しているため | 2 | 14.3 |
| 4 | 無回答 | 6 | 42.9 |
| 計 | | 14 | |



問11 水揚げに利用している漁港について（複数回答可）

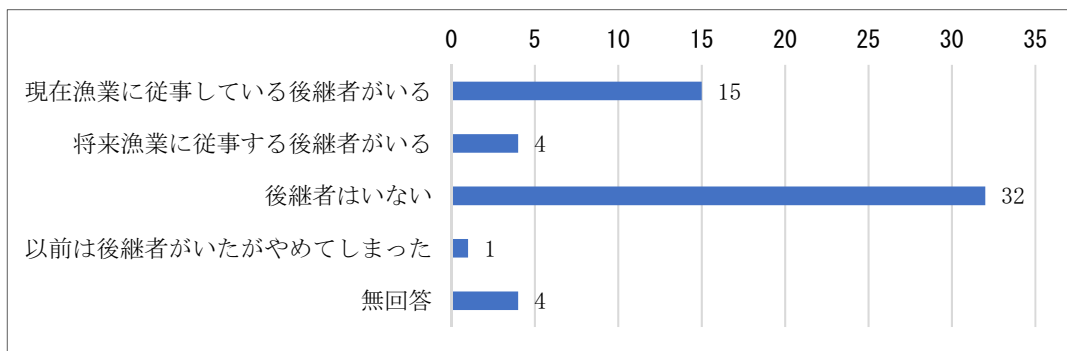
| No. | 設問 | 件数 | 割合 (%) |
|-----|---------------------|----|--------|
| 1 | 川尻港 | 11 | 17.5 |
| 2 | 日高漁港 | 0 | 0.0 |
| 3 | 会瀬漁港 | 7 | 11.1 |
| 4 | 河原子港 | 9 | 14.3 |
| 5 | 水木漁港 | 0 | 0.0 |
| 6 | 久慈漁港 | 27 | 42.9 |
| 7 | 大津港 | 5 | 7.9 |
| 8 | 東北各港 (小名浜、石巻、八戸) | 2 | 3.2 |
| 9 | 銚子 | 2 | 3.2 |
| 計 | | 63 | |



(2) 漁業の担い手確保について

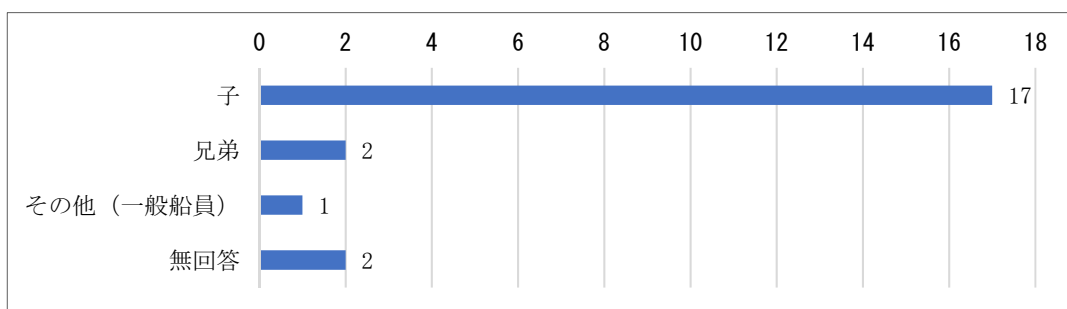
問 12 漁業後継者の有無について

| No. | 設問 | 件数 | 割合 (%) |
|-----|-------------------|----|--------|
| 1 | 現在漁業に従事している後継者がいる | 15 | 26.8 |
| 2 | 将来漁業に従事する後継者がいる | 4 | 7.1 |
| 3 | 後継者はいない | 32 | 57.1 |
| 4 | 以前は後継者がいたがやめてしまった | 1 | 1.8 |
| 5 | 無回答 | 4 | 7.1 |
| 計 | | 56 | |



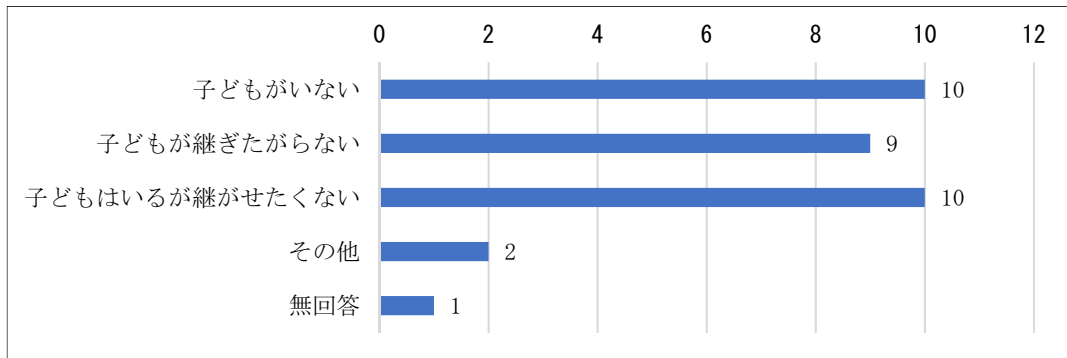
問 13 「後継者がいる」と回答した漁業者と後継者の関係について（複数回答可）

| No. | 設問 | 件数 | 割合 (%) |
|-----|-----------|----|--------|
| 1 | 子 | 17 | 77.3 |
| 2 | 兄弟 | 2 | 9.1 |
| 3 | その他（一般船員） | 1 | 4.5 |
| 4 | 無回答 | 2 | 9.1 |
| 計 | | 22 | |



問 14 「後継者がいない」と回答した理由について

| No. | 設問 | 件数 | 割合 (%) |
|-----|----------------|----|--------|
| 1 | 子どもがいない | 10 | 31.3 |
| 2 | 子どもが継ぎたがらない | 9 | 28.1 |
| 3 | 子どもはいるが継がせたくない | 10 | 31.3 |
| 4 | その他 | 2 | 6.3 |
| 5 | 無回答 | 1 | 3.1 |
| 計 | | 32 | |

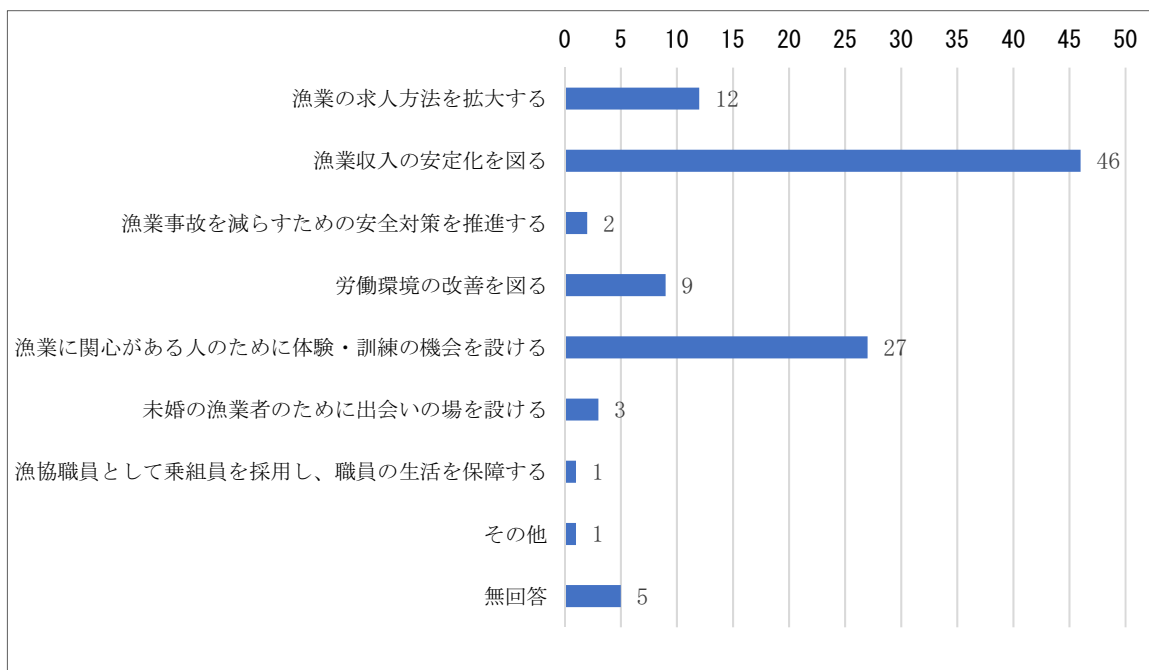


問 15 問 14 で「子どもはいるが継がせたくない」と回答した理由について（記述式）

| No. | 記述のあった回答 | 件数 |
|-----|----------|----|
| 1 | 重労働 | 1 |
| 2 | 収入が不安定 | 2 |
| 3 | 子供が女性 | 1 |
| 4 | 無回答 | 6 |
| 計 | | 10 |

問 16 漁業者を増やすために必要であると思うことについて（複数回答可）

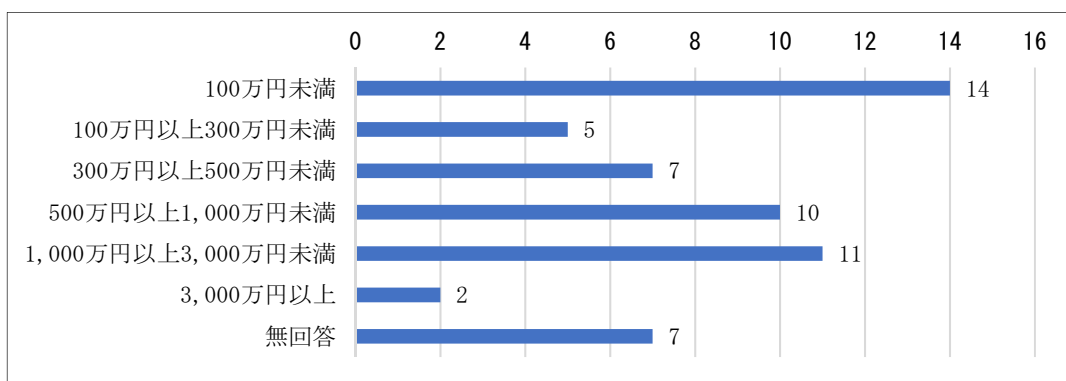
| No. | 設問 | 件数 | 割合(%) |
|-----|----------------------------|-----|-------|
| 1 | 漁業の求人方法を拡大する | 12 | 11.3 |
| 2 | 漁業収入の安定化を図る | 46 | 43.4 |
| 3 | 漁業事故を減らすための安全対策を推進する | 2 | 1.9 |
| 4 | 労働環境の改善を図る | 9 | 8.5 |
| 5 | 漁業に関心がある人のために体験・訓練の機会を設ける | 27 | 25.5 |
| 6 | 未婚の漁業者のために出会いの場を設ける | 3 | 2.8 |
| 7 | 漁協職員として乗組員を採用し、職員の生活の保障をする | 1 | 0.9 |
| 8 | その他 | 1 | 0.9 |
| 9 | 無回答 | 5 | 4.7 |
| 計 | | 106 | |



(3) 経営基盤の強化について

問 17-1 過去3年間（平成27年（2015年）から平成29年（2017年））の年間平均収入（経費を除く前）について

| No. | 設問 | 件数 | 割合(%) |
|-----|--------------------|----|-------|
| 1 | 100万円未満 | 14 | 25.0 |
| 2 | 100万円以上300万円未満 | 5 | 8.9 |
| 3 | 300万円以上500万円未満 | 7 | 12.5 |
| 4 | 500万円以上1,000万円未満 | 10 | 17.9 |
| 5 | 1,000万円以上3,000万円未満 | 11 | 19.6 |
| 6 | 3,000万円以上 | 2 | 3.6 |
| 7 | 無回答 | 7 | 12.5 |
| 計 | | 56 | |

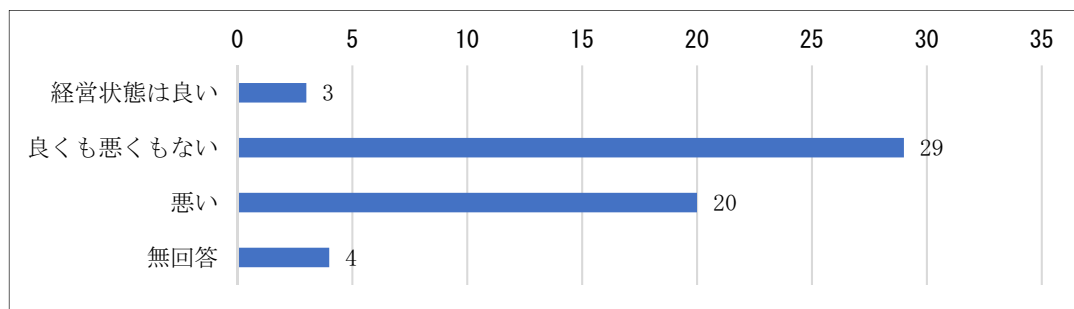


問 17-2 問 17-1において、年間収入1,000万円以上と回答している13人が行っている漁業種類について

| 漁業種類 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
|--------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|
| 定置網漁業 | | | | | | | | | | | | | |
| 底曳網漁業 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| 船曳網漁業 (サヨリ含む) | | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 刺網漁業 | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| つり漁業 | | | | | | | ○ | | ○ | | | | |
| 磯根漁業 (アワビ、わかめ等) | | | | | | | ○ | | ○ | | | | |
| 遊漁船漁業 | | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | |
| せんかご漁業 | | | | | | | | | | | | | |
| その他(さんま) | | | | | | | | | | | | | |
| その他(大中型まき網) | | | ○ | | | | | | | | | | |
| 合計(単位 種類) | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 5 | 3 | 4 | 1 | 2 | 2 | 1 |

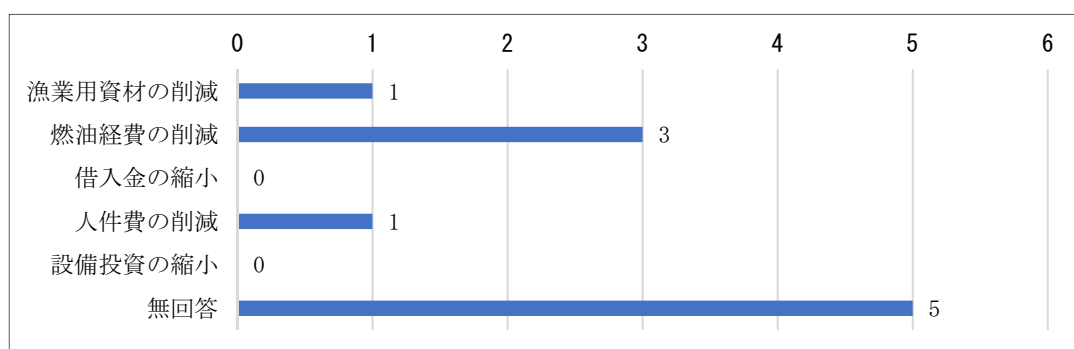
問 18 過去3年間(平成27年(2015年)から平成29年(2017年))の経営状態について

| No. | 設問 | 件数 | 割合(%) |
|-----|----------|----|-------|
| 1 | 経営状態は良い | 3 | 5.4 |
| 2 | 良くも悪くもない | 29 | 51.8 |
| 3 | 悪い | 20 | 35.7 |
| 4 | 無回答 | 4 | 7.1 |
| 計 | | 56 | |



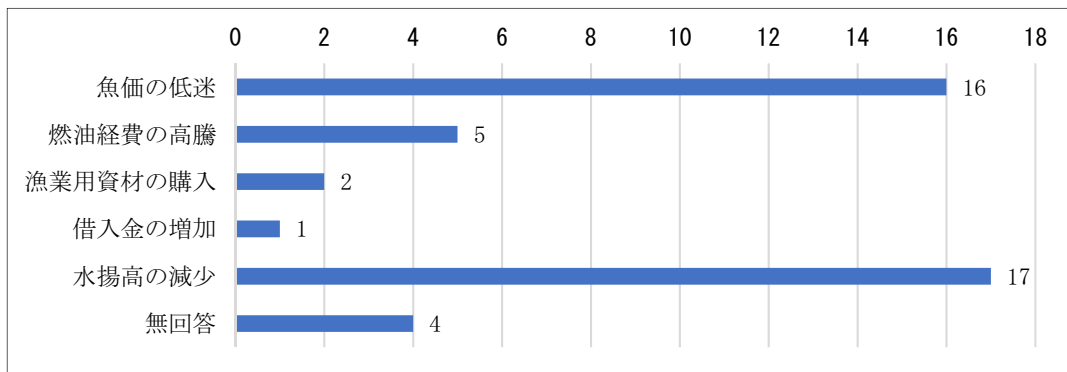
問 19 問 18 で「経営状態は良い」と答えた漁業者の経営改善方法について
(複数回答可)

| No. | 設問 | 件数 | 割合(%) |
|-----|----------|----|-------|
| 1 | 漁業用資材の削減 | 1 | 10.0 |
| 2 | 燃油経費の削減 | 3 | 30.0 |
| 3 | 借入金の縮小 | 0 | 0.0 |
| 4 | 人件費の削減 | 1 | 10.0 |
| 5 | 設備投資の縮小 | 0 | 0.0 |
| 6 | 無回答 | 5 | 50.0 |
| 計 | | 10 | |



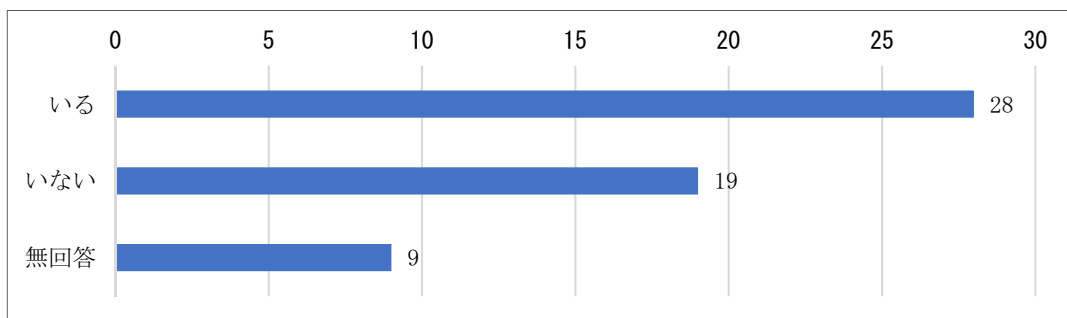
問 20 問 18 で「悪い」と回答した漁業者の漁業経営を圧迫しているものについて
 (複数回答可。「良くも悪くもない」と回答した方の回答は除く。)

| No. | 設問 | 件数 | 割合 (%) |
|-----|----------|----|--------|
| 1 | 魚価の低迷 | 16 | 35.6 |
| 2 | 燃油経費の高騰 | 5 | 11.1 |
| 3 | 漁業用資材の購入 | 2 | 4.4 |
| 4 | 借入金の増加 | 1 | 2.2 |
| 5 | 水揚高の減少 | 17 | 37.8 |
| 6 | 無回答 | 4 | 8.9 |
| 計 | | 45 | |



問 21 漁業を経営していくにあたって、相談相手がいるかどうかについて

| No. | 設問 | 件数 | 割合 (%) |
|-----|-----|----|--------|
| 1 | いる | 28 | 50.0 |
| 2 | いない | 19 | 33.9 |
| 3 | 無回答 | 9 | 16.1 |
| 計 | | 56 | |



問 22 問 21 において「いる」と回答した漁業者の相談相手や相談する機会について（記述式）

(ア) 相談相手

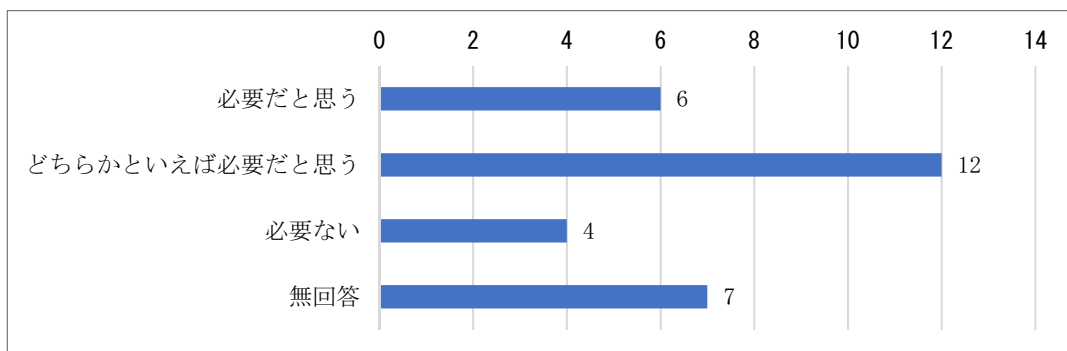
| No. | 記述のあった回答 | 件数 |
|-----|-------------------|----|
| 1 | 同業者 | 22 |
| 2 | 漁協 | 4 |
| 3 | 上部団体 (まき網組合など) | 1 |
| 4 | 家族 | 2 |
| 5 | 無回答 | 5 |
| 計 | | 34 |

(イ) 相談場所

| No. | 記述のあった回答 | 件数 |
|-----|----------|----|
| 1 | 講習会・定例会 | 2 |
| 2 | 作業終了後 | 8 |
| 3 | 作業中 | 1 |
| 4 | 困ったとき | 1 |
| 5 | 無回答 | 1 |
| 計 | | 13 |

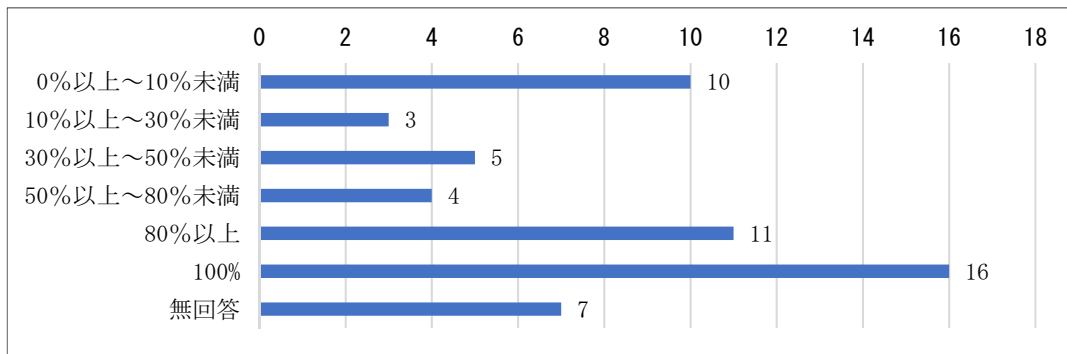
問 23 問 22 において「いない」と回答した漁業者が相談相手や相談する機会を必要としているかについて

| No. | 設問 | 件数 | 割合(%) |
|-----|----------------|----|-------|
| 1 | 必要だと思う | 6 | 20.7 |
| 2 | どちらかといえば必要だと思う | 12 | 41.4 |
| 3 | 必要ない | 4 | 13.8 |
| 4 | 無回答 | 7 | 24.1 |
| 計 | | 29 | |



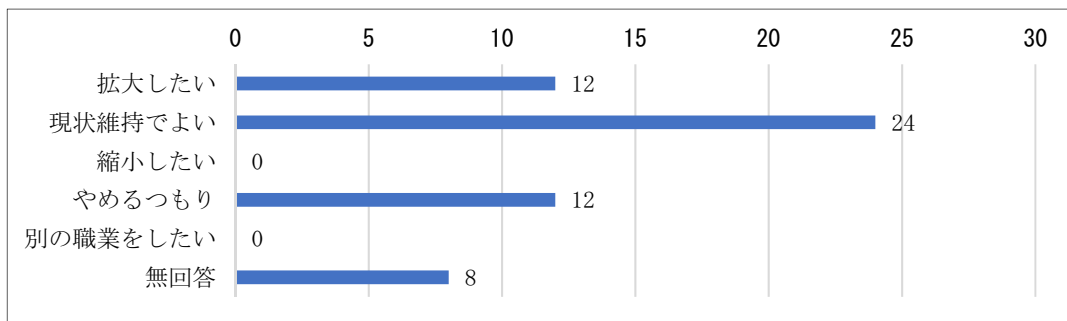
問 24 世帯の収入全体に占める漁業収入の割合について

| No. | 設問 | 件数 | 割合 (%) |
|-----|-------------|----|--------|
| 1 | 0%以上～10%未満 | 10 | 17.9 |
| 2 | 10%以上～30%未満 | 3 | 5.4 |
| 3 | 30%以上～50%未満 | 5 | 8.9 |
| 4 | 50%以上～80%未満 | 4 | 7.1 |
| 5 | 80%以上 | 11 | 19.6 |
| 6 | 100% | 16 | 28.6 |
| 7 | 無回答 | 7 | 12.5 |
| 計 | | 56 | |



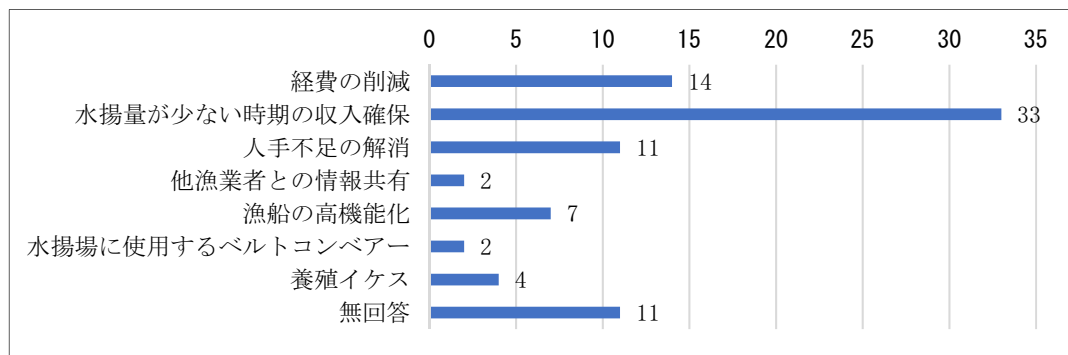
問 25 漁業者本人の漁業について、将来どのようにしたいと考えているのかについて

| No. | 設問 | 件数 | 割合 (%) |
|-----|----------|----|--------|
| 1 | 拡大したい | 12 | 21.4 |
| 2 | 現状維持でよい | 24 | 42.9 |
| 3 | 縮小したい | 0 | 0.0 |
| 4 | やめるつもり | 12 | 21.4 |
| 5 | 別の職業をしたい | 0 | 0.0 |
| 6 | 無回答 | 8 | 14.3 |
| 計 | | 56 | |



問 26 漁業を続けていく上で、今後必要だと考えていることについて（複数回答可）

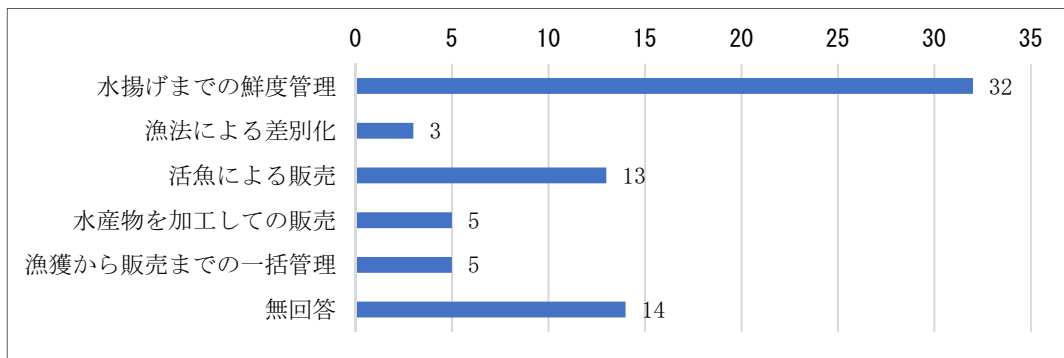
| No. | 設問 | 件数 | 割合(%) |
|-----|------------------|----|-------|
| 1 | 経費の削減 | 14 | 16.7 |
| 2 | 水揚量が少ない時期の収入確保 | 33 | 39.3 |
| 3 | 人手不足の解消 | 11 | 13.1 |
| 4 | 他漁業者との情報共有 | 2 | 2.4 |
| 5 | 漁船の高機能化 | 7 | 8.3 |
| 6 | 水揚場に使用するベルトコンベアー | 2 | 2.4 |
| 7 | 養殖イケス | 4 | 4.8 |
| 8 | 無回答 | 11 | 13.1 |
| 計 | | 84 | |



問 27

ア 水産物の価格向上のために現在取組んでいることについて（複数回答可）

| No. | 設問 | 件数 | 割合 (%) |
|-----|---------------|----|--------|
| 1 | 水揚げまでの鮮度管理 | 32 | 44.4 |
| 2 | 漁法による差別化 | 3 | 4.2 |
| 3 | 活魚による販売 | 13 | 18.1 |
| 4 | 水産物を加工しての販売 | 5 | 6.9 |
| 5 | 漁獲から販売までの一括管理 | 5 | 6.9 |
| 6 | 無回答 | 14 | 19.4 |
| 計 | | 72 | |

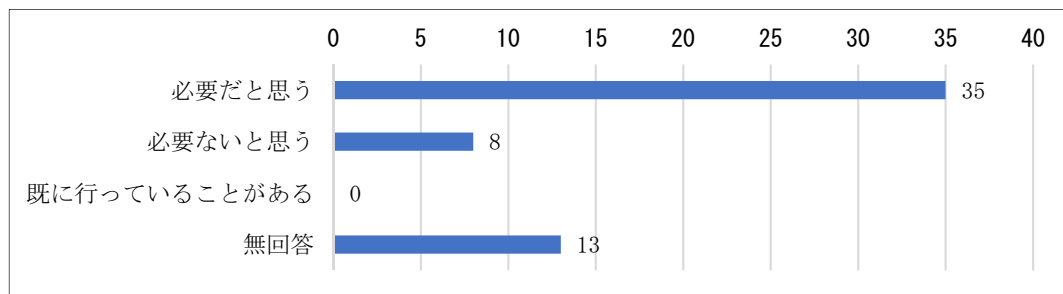


イ 取組みたいと思っていることについて（記述式）

| No. | 設問 | 件数 |
|-----|---------------|----|
| 1 | 水産、加工業者の増員 | 1 |
| 2 | 独自で出荷 | 1 |
| 3 | ブランド化 | 1 |
| 4 | 生簀を使った安定出荷と販売 | 1 |
| 5 | 中間マーゲンの排除 | 1 |
| 計 | | 5 |

問 28 漁業者同士で新しい取組を行う必要があるかについて

| No. | 設問 | 件数 | 割合 (%) |
|-----|--------------|----|--------|
| 1 | 必要だと思う | 35 | 62.5 |
| 2 | 必要ないと思う | 8 | 14.3 |
| 3 | 既に行っていることがある | 0 | 0.0 |
| 4 | 無回答 | 13 | 23.2 |
| 計 | | 56 | |



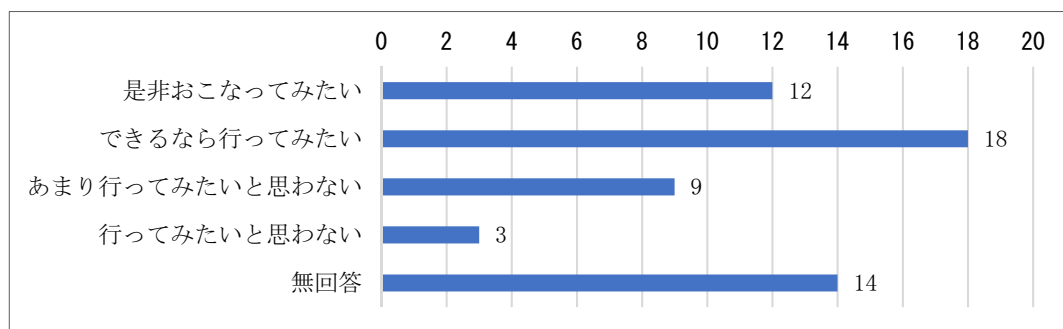
主な意見

(これから行ってみたいこと)

- ・ 販売価格の交渉
- ・ 料理教室、魚食普及
- ・ 販売方法の見直し (インターネット販売、独自販売)
- ・ 商流の見直し

問 29 漁業者以外の事業者と連携して何か取組を行ってみたいかどうかについて

| No. | 設問 | 件数 | 割合 (%) |
|-----|----------------|----|--------|
| 1 | 是非おこなってみたい | 12 | 21.4 |
| 2 | できるなら行ってみたい | 18 | 32.1 |
| 3 | あまり行ってみたいと思わない | 9 | 16.1 |
| 4 | 行ってみたいと思わない | 3 | 5.4 |
| 5 | 無回答 | 14 | 25.0 |
| 計 | | 56 | |



アンケート結果【水産加工業者】

問1 加工原料となる魚介類の仕入先について

| 回答 |
|--------|
| 久慈漁港 |
| 市外（商社） |

問2 現在最も多く加工している魚介類について

| 回答 |
|------------|
| イワシ稚魚（シラス） |
| サンマ |

問3 日立市の名産となる商品について

| 回答 |
|------------------|
| シラス干し |
| イシカワシラウオ稚魚（シラウオ） |

問4 取扱っている魚介類の種類数について

| 回答 |
|-------|
| 9種類 |
| 5～7種類 |

また、その主な魚介類について

| 回答 |
|------------------|
| シラス |
| サンマ |
| イシカワシラウオ稚魚（シラウオ） |
| サバ |
| サヨリ |
| イワシ成魚 |

問5 加工内容について

| 回答 |
|----------|
| 煮熟して天日干し |
| 塩辛 |

問6 主な出荷先について

| 回答 |
|----------------|
| おさかなセンター |
| 豊洲市場（当時は、築地市場） |
| 水戸市公設地方卸売市場 |
| 小売（直売所） |

問7 今後の原料確保の見通しについて

| 回答 |
|------------------------------------|
| 久慈漁港の鮮魚で加工しているため、水揚げ魚種次第ではあまり明るくない |
| 取扱っている魚種について、近年漁獲量が安定せず、先行きは暗い |

問8 今後、水産加工業を発展させるための方法について

| 回答 |
|----------------------------------|
| 水揚げが潤沢にあり、加工原料に適した魚種が水揚げされる取組が必要 |

問9 現在または今後、商売を続けるための課題について

| 回答 |
|--------|
| 諸経費の高騰 |

問10 市内で水揚げされた魚介類に付加価値を付けるための取組みについて

| 回答 |
|--|
| 鮮度の良い状態で流通させるのに心掛け、品温管理等に出来るだけ気を使う |
| 行政と事業者が一体となったPR活動。市外、県外に販路を見出す前に、まずは市内の消費者にアピールすべき |

アンケート結果【仲買業者】

問1 取扱っている魚介類の仕入先について

| 回答 |
|----------------|
| 久慈漁港 |
| 水戸市公設地方卸売市場 |
| 豊洲市場（当時は、築地市場） |

問2 現在最も多く仕入れ、販売している魚介類について

| 回答 |
|-----------|
| ヒラメ |
| メヒカリ |
| ミズダコ |
| シラス |
| サンマ |
| マグロ |
| ブリ |
| 養殖マダイ |
| サバ、アンコウ 他 |

問3 日立市の名産となりうる魚介類について

| 回答 |
|-------|
| アンコウ |
| イセエビ |
| アワビ |
| ボタンえび |
| ヤリイカ |
| メヒカリ |
| シラス |

問4 主な出荷先について

| 回答 |
|----------------|
| 水戸市公設地方卸売市場 |
| 豊洲市場（当時は、築地市場） |
| 日立市内 |
| 水戸市、東海村 |

また、そこに出荷する理由について

| 回答 |
|----------------------|
| 日立市内より高値で大量に取引ができるから |
| 取引先の依頼を受けて |
| 自社店舗への出荷 |
| 新鮮な地魚の活用、販売のため |

問5 どこへ販売したら売れるかについて

| 回答 |
|-------------------------------------|
| 内陸部（海のない地域） |
| 今のブームでは海外であろうが、そうなれば地元の仲買人、飲食店は困るはず |

問6 今後の魚介類の確保について

| 回答 |
|--------------------|
| 水揚げが不安定で見通しが見つからない |
| あまり期待できない |
| 非常に厳しいと思う |

問7 今後、水産業を発展させるための方法について

| 回答 |
|-----------------|
| 市場、加工場の整備 |
| 漁業者、加工業者の後継者の増加 |
| 市町村ぐるみのPR |
| 養殖事業も考える必要もある |

問8 今後、商売を行う上での課題について

| 回答 |
|---------|
| 魚の鮮度 |
| 水揚げが不安定 |
| 後継者問題 |
| 集客 |

問 9 市内で水揚げされた魚介類の販売拡大の方法について

| 回答 |
|--------------------|
| 官民での PR |
| 市町村ぐるみの PR |
| 地元への販売強化 |
| 地元へは安価な商品の提供 |
| 加工品のホテルチェーン等への大口販売 |

問 10 市内で水揚げされた魚介類の付加価値を付ける取組みについて

| 回答 |
|--|
| 鮮度の良い状態で流通させるのに心掛け、品温管理等に出来るだけ気を使う |
| 行政と事業者が一体となった PR 活動や市外、県外に販路を見出す前に、まずは市内の消費者にアピールすべき |

問 11 現在または今後、商売を続けていくための課題について

| 回答 |
|----------------------------------|
| 日立市の魚介類は、知名度は高く、それを活かしていくことができるか |
| 久慈漁港等の観光地化 |
| 官民一体となつての日立市で水揚げされた魚介類の活用や P R |
| 著名人とのコラボ |

アンケート結果【消費者】

1 目的

日立市内に在住又は就業している消費者の魚食への実態を把握する。

2 調査方法

市内2消費者団体及び市職員へのアンケート調査

3 調査期間

| | |
|-----|-----------------|
| 区 分 | 消費者 |
| 期 間 | 8/24(金)～9/10(月) |

4 調査対象

日立市女性フォーラム、日立市食生活改善推進会、日立市職員

5 回収率

| | |
|-----|-------|
| 区 分 | 消費者 |
| 回収率 | 61.2% |

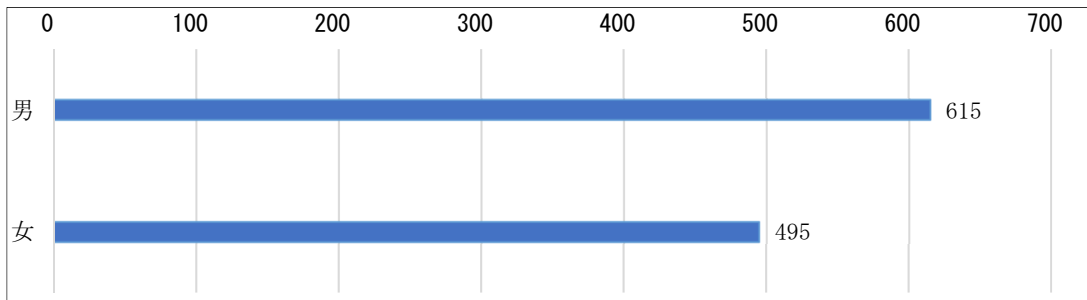
※注意点

- ①小数点第2位を切捨てているため、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- ②回収したアンケートのうち未記入であった調査表は集計に反映させていない。
- ③複数回答可とした問いの回答は全て集計に反映させている。

アンケート結果【消費者】

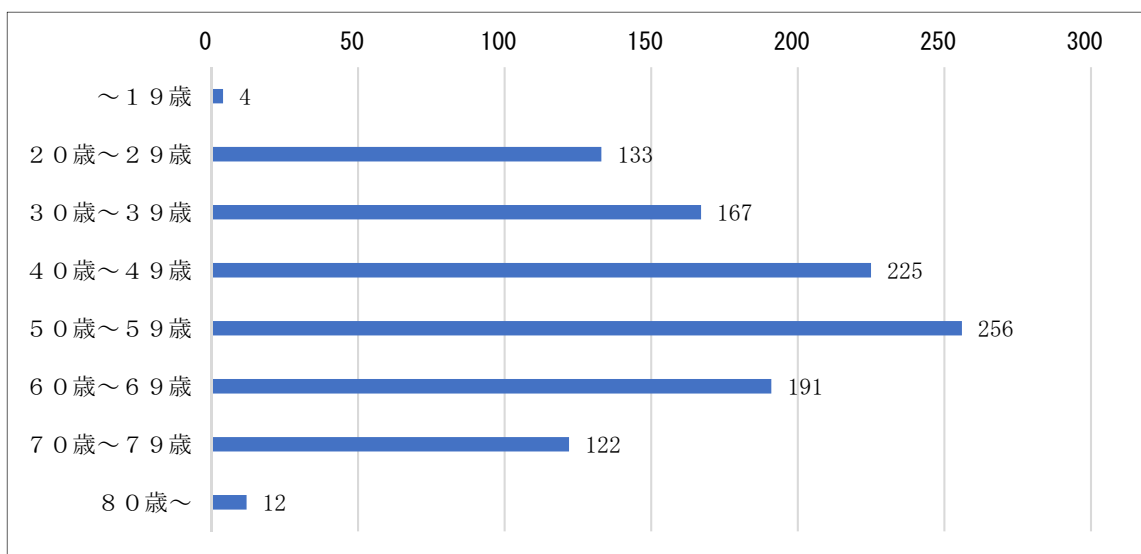
問1 性別について

| No. | 設問 | 件数 | 割合(%) |
|-----|----|-------|-------|
| 1 | 男 | 615 | 55.4 |
| 2 | 女 | 495 | 44.6 |
| 計 | | 1,110 | |



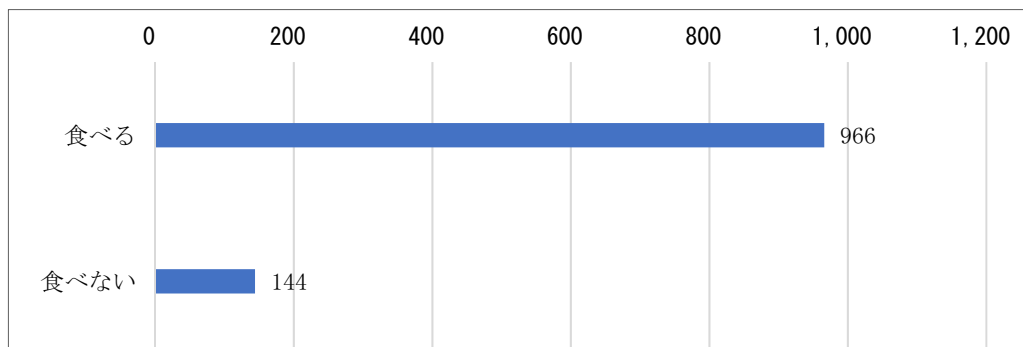
問2 年齢について

| No. | 設問 | 件数 | 割合(%) |
|-----|---------|-------|-------|
| 1 | ～19歳 | 4 | 0.4 |
| 2 | 20歳～29歳 | 133 | 12.0 |
| 3 | 30歳～39歳 | 167 | 15.0 |
| 4 | 40歳～49歳 | 225 | 20.3 |
| 5 | 50歳～59歳 | 256 | 23.1 |
| 6 | 60歳～69歳 | 191 | 17.2 |
| 7 | 70歳～79歳 | 122 | 11.0 |
| 8 | 80歳～ | 12 | 1.1 |
| 計 | | 1,110 | |



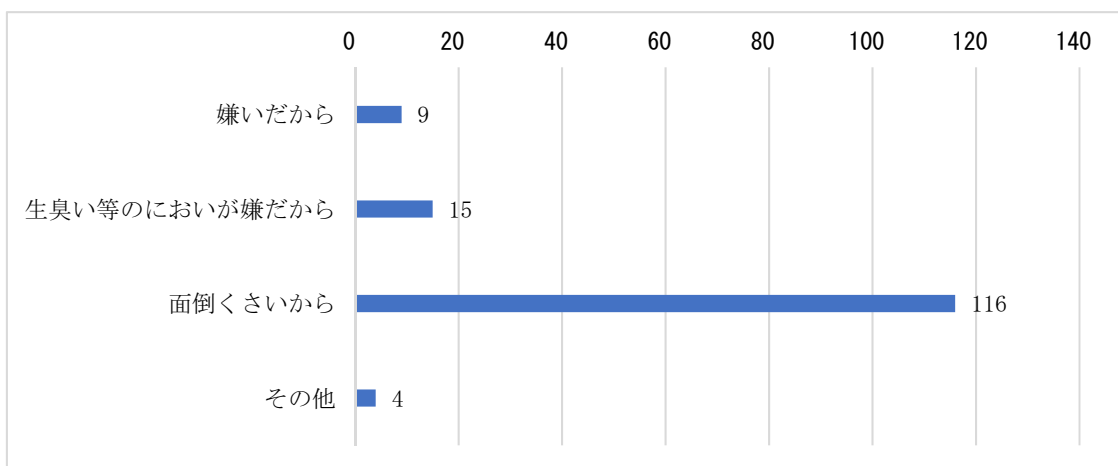
問3 魚介類を食べますか。

| No. | 設問 | 件数 | 割合(%) |
|-----|------|-------|-------|
| 1 | 食べる | 966 | 87.0 |
| 2 | 食べない | 144 | 13.0 |
| 計 | | 1,110 | |



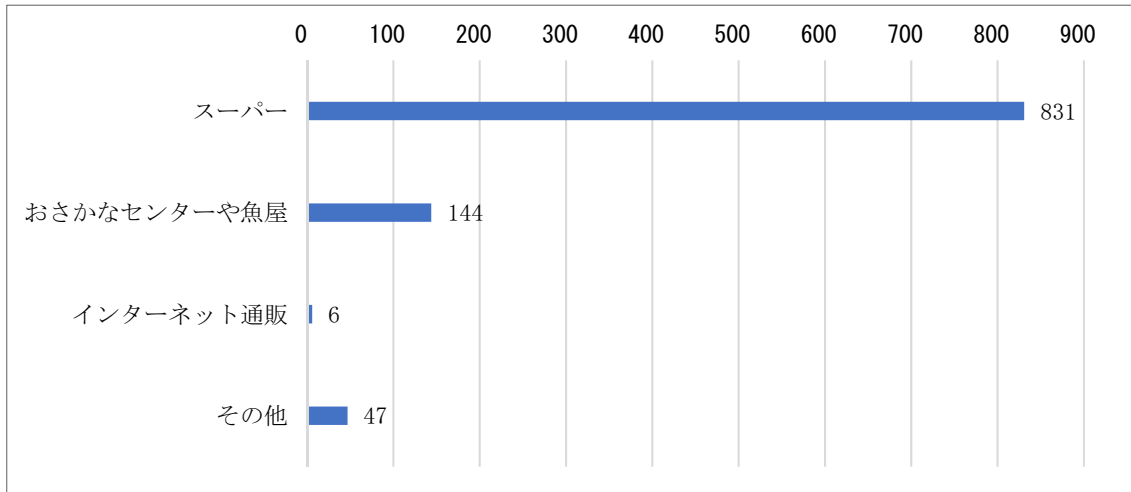
問4 問3で食べないと答えた人の食べない理由について

| No. | 設問 | 件数 | 割合(%) |
|-----|--------------|-----|-------|
| 1 | 嫌いだから | 9 | 6.3 |
| 2 | 生臭い等のおいが嫌だから | 15 | 10.4 |
| 3 | 面倒くさいから | 116 | 80.6 |
| 4 | その他 | 4 | 2.8 |
| 計 | | 144 | |



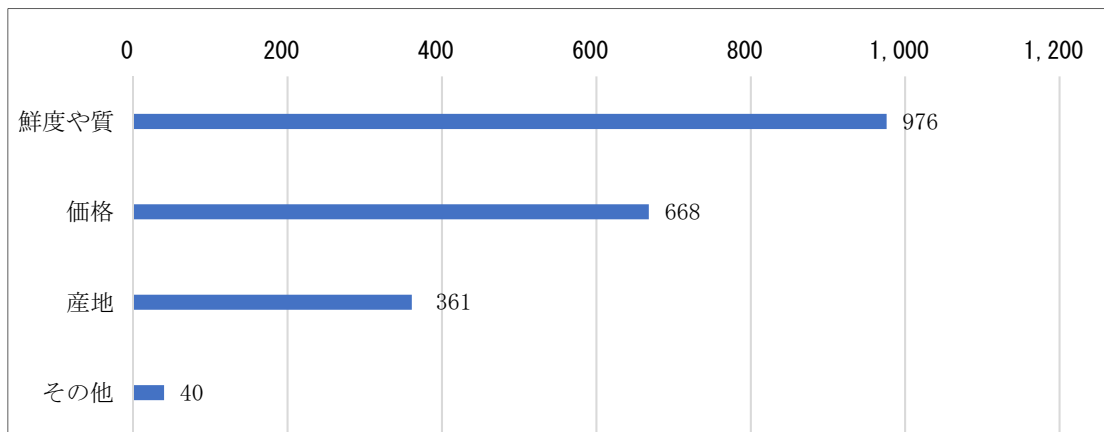
問5 魚介類の購入場所について

| No. | 設問 | 件数 | 割合(%) |
|-----|-------------|-------|-------|
| 1 | スーパー | 831 | 80.8 |
| 2 | おさかなセンターや魚屋 | 144 | 14.0 |
| 3 | インターネット通販 | 6 | 0.6 |
| 4 | その他 | 47 | 4.6 |
| 計 | | 1,028 | |



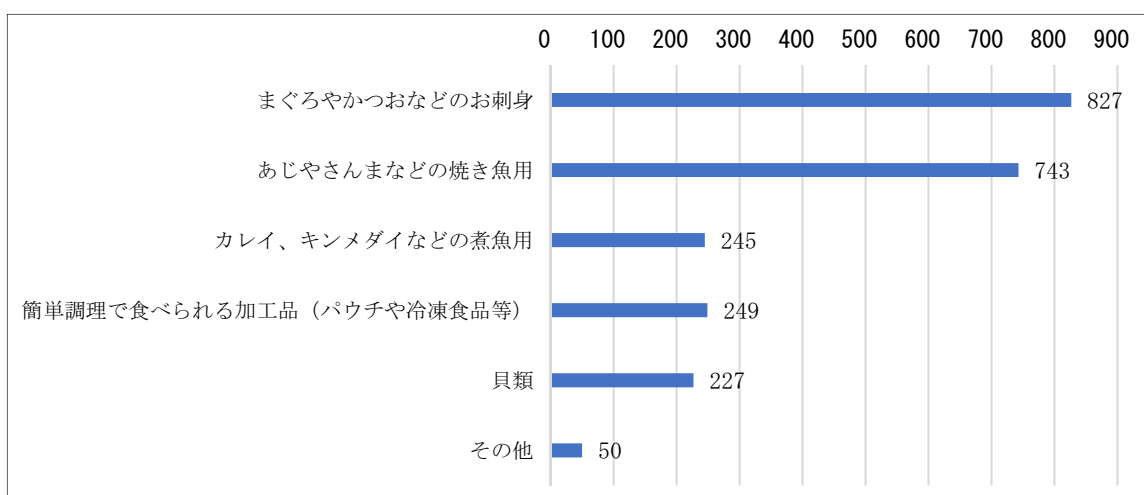
問6 魚介類を購入する時の基準（気にすること）について（複数回答可）

| No. | 設問 | 件数 | 割合(%) |
|-----|------|-------|-------|
| 1 | 鮮度や質 | 976 | 47.7 |
| 2 | 価格 | 668 | 32.7 |
| 3 | 産地 | 361 | 17.7 |
| 4 | その他 | 40 | 2.0 |
| 計 | | 2,045 | |



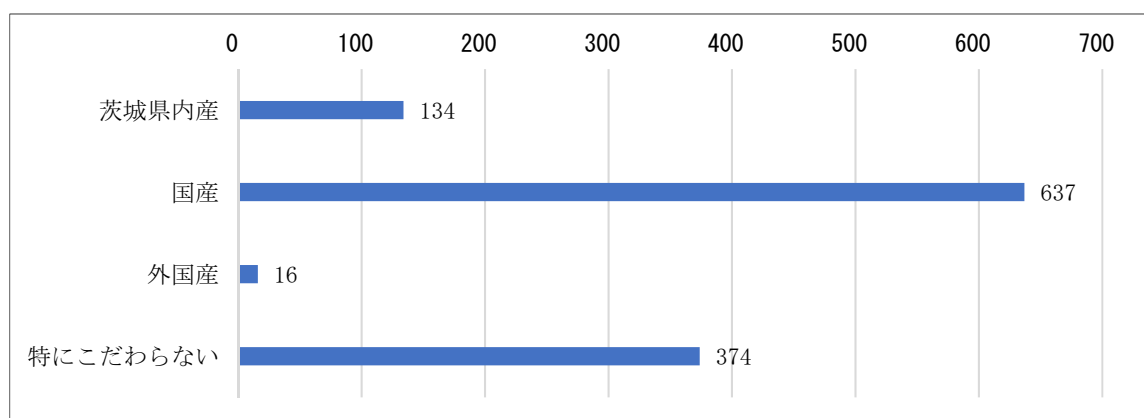
問7 よく購入する魚介類について（複数回答可）

| No. | 設問 | 件数 | 割合(%) |
|-----|--------------------------|-------|-------|
| 1 | まぐろやかつおなどのお刺身 | 827 | 35.3 |
| 2 | あじやさんまなどの焼き魚用 | 743 | 31.7 |
| 3 | カレイ、キンメダイなどの煮魚用 | 245 | 10.5 |
| 4 | 簡単調理で食べられる加工品（パウチや冷凍食品等） | 249 | 10.6 |
| 5 | 貝類 | 227 | 9.7 |
| 6 | その他 | 50 | 2.1 |
| 計 | | 2,341 | |



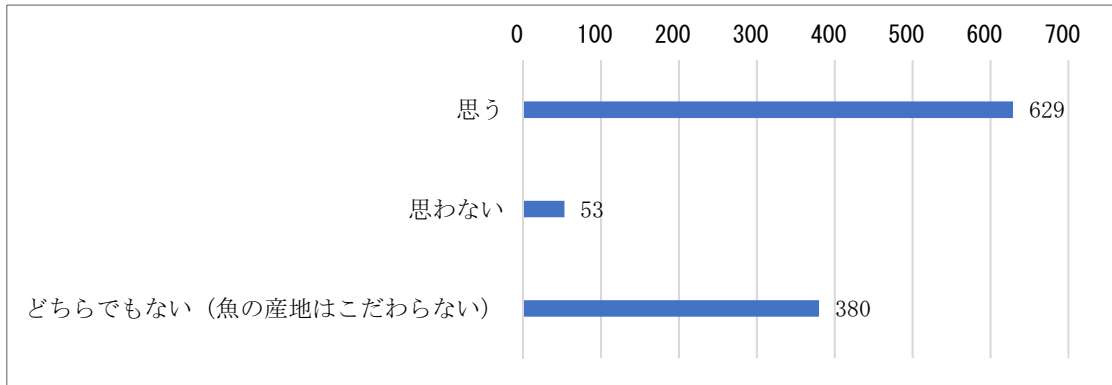
問8 主に購入する魚介類の産地について

| No. | 設問 | 件数 | 割合(%) |
|-----|----------|-------|-------|
| 1 | 茨城県内産 | 134 | 11.5 |
| 2 | 国産 | 637 | 54.9 |
| 3 | 外国産 | 16 | 1.4 |
| 4 | 特にこだわらない | 374 | 32.2 |
| 計 | | 1,161 | |



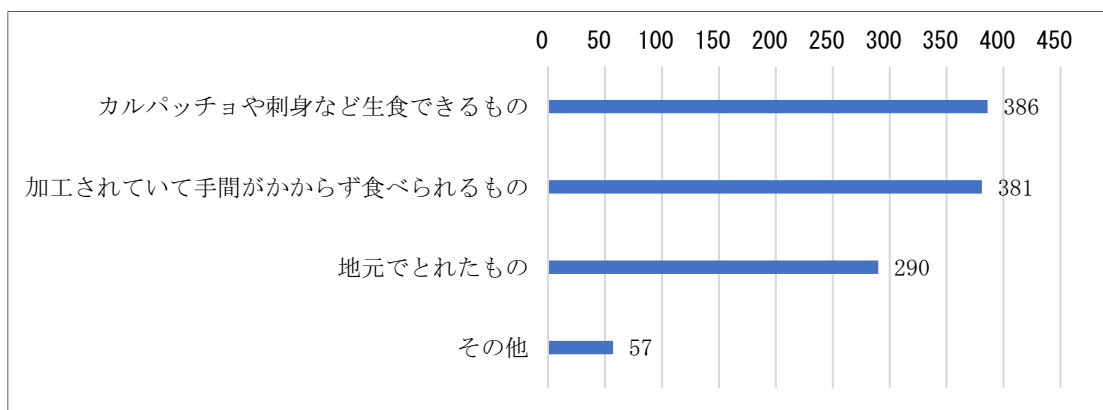
問9 日立の地魚を購入したいと思うかどうかについて

| No. | 設問 | 件数 | 割合 (%) |
|-----|-----------------------|-------|--------|
| 1 | 思う | 629 | 59.2 |
| 2 | 思わない | 53 | 5.0 |
| 3 | どちらでもない (魚の産地はこだわらない) | 380 | 35.8 |
| 計 | | 1,062 | |



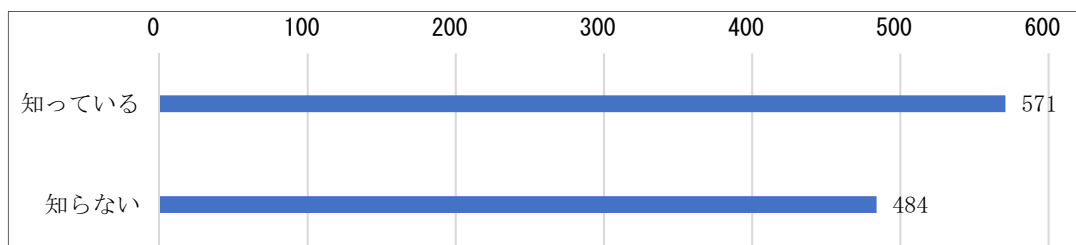
問10 もっと食べたい魚料理について

| No. | 設問 | 件数 | 割合 (%) |
|-----|-----------------------|-------|--------|
| 1 | カルパッチョや刺身など生食できるもの | 386 | 34.6 |
| 2 | 加工されていて手間がかからず食べられるもの | 381 | 34.2 |
| 3 | 地元でとれたもの | 290 | 26.0 |
| 4 | その他 | 57 | 5.1 |
| 計 | | 1,114 | |



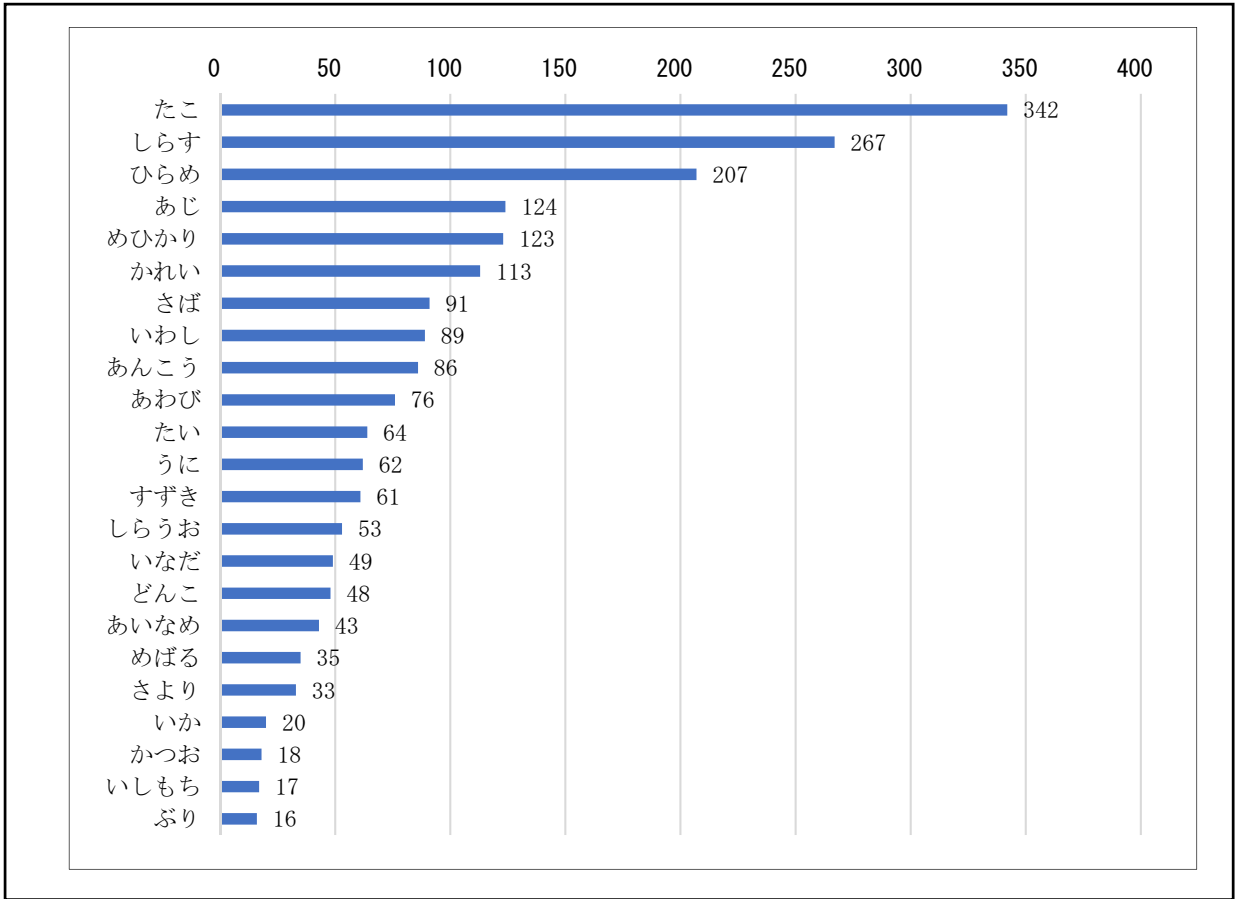
問 11 日立市で獲れる魚を知っているかどうかについて

| No. | 設定 | 件数 | 割合 (%) |
|-----|-------|-------|--------|
| 1 | 知っている | 571 | 54.1 |
| 2 | 知らない | 484 | 45.9 |
| 計 | | 1,055 | |



問 12 日立でとれると知られている魚の魚種について（複数回答可、一部抜粋）

| No. | 設問 | 件数 |
|-----|------|-----|
| 1 | たこ | 342 |
| 2 | しらす | 267 |
| 3 | ひらめ | 207 |
| 4 | あじ | 124 |
| 5 | めひかり | 123 |
| 6 | かれい | 113 |
| 7 | さば | 91 |
| 8 | いわし | 89 |
| 9 | あんこう | 86 |
| 10 | あわび | 76 |
| 11 | たい | 64 |
| 12 | うに | 62 |
| 13 | すずき | 61 |
| 14 | しらうお | 53 |
| 15 | いなだ | 49 |
| 16 | どんこ | 48 |
| 17 | あいなめ | 43 |
| 18 | めばる | 35 |
| 19 | さより | 33 |
| 20 | いか | 20 |
| 21 | かつお | 18 |
| 22 | いしもち | 17 |
| 23 | ぶり | 16 |



問 13 魚食や水産業についての意見について（記述式、一部抜粋）

| No. | 回答 |
|-----|---------------------------------------|
| 1 | 地元産の魚は、日常的に家庭で消費される印象にない。 |
| 2 | 以前会瀬漁港で「朝市」をやっていた。朝市を実施し、大々的にPRしてほしい。 |
| 3 | 市内の魚屋マップがあれば、魚を買いやすい。 |
| 4 | 市のさかなが「さくらダコ」なのに、市内のスーパーでは売っていない。 |
| 5 | 日立市内で水揚げされているアワビは、市内の魚屋でも買うことができない。 |
| 6 | 地魚の更なるPRと地元での流通を期待している。 |
| 7 | 日立市の魚介類で6次産業を育ててほしい。 |
| 8 | おさかなセンターについて、魚の種類が少ない、同じ魚が他店と価格が同じ。 |
| 9 | 新鮮でおいしそうな魚でも、値段が高ければ購入は難しい。 |
| 10 | さばき方や、煮付の仕方などパンフレットがお店においてあるとよい。 |

ヒアリング結果

1 目的

日立市内の水産物の流通・販売の状況をヒアリングし、水産業の生産構造や水産業を取り巻く実態を把握する。

2 実施期間

2018（平成30）年8月29日（水）から9月19日（水）まで

3 ヒアリング対象者

| 対象者 | |
|----------|-----------------------------|
| 内水面漁業者 | 十王川漁業協同組合、久慈川漁業協同組合 |
| 水産加工業者 | 久慈浜水産加工業協同組合 |
| 水産物販売業者 | 株式会社あかつ水産（水木町） |
| 飲食店 | 白山（千石町）、新富鮨（多賀町） |
| 宿泊施設 | はぎ屋旅館（水木町）、鵜の岬（十王町）、魚一（川尻町） |
| 水産物流通事業者 | 茨城水産株式会社（水戸市公設地方卸売市場内） |

ヒアリング結果【内水面漁業者】

1 漁業協同組合の主な取組

(1) 釣場への成魚放流事業

ア 放流魚種 アユ、ウグイ、ヤマメ、ウナギ、フナ等

(2) サケの孵化・放流事業

ア 地元幼稚園及び小学校が実施する環境教育（サケの放流）に稚魚を提供

イ 県内漁協及びNPO法人に対するサケ稚魚の販売（久慈川漁協）

(3) 産卵床の造成事業（久慈川漁協）

2 課題

(1) 産卵場の整備

上流から流れてきた砂の堆積によりアユ等の産卵に適さない川底状態

(2) 収入源の減少

ア 高齢化による組合員の減少に伴う組合員負担金の減少

イ 釣り客の減少に伴う釣り券販売収入の減少

(3) 遊漁者や一般市民の安全確保

河川改修による、河川の法面が急斜面となった箇所から、転落や滑落を防ぐための安全対策を図る。

3 対策

(1) 魚類が生息し易くするための環境整備

(2) 久慈川サケ資源有効利用調査（サケ有効利用実行委員会が実施）のようなイベントを通して、内水面漁業の理解を深め、利用客の増加を図る。

(3) 遊漁者や一般市民の安全確保のため、危険箇所の注意喚起表示や除草等による滑落防止対策が必要である。

ヒアリング結果【久慈浜水産加工業協同組合、飲食店、販売・宿泊施設・流通関係者】

| 対象 ヒアリング内容 | 久慈浜水産加工業 協同組合 | 飲食店 | 販売・宿泊施設・ 流通関係者 |
|--|---|---|---|
| 情報収集の 方法について | <ul style="list-style-type: none"> ・同業者、漁業者、取引先から | <ul style="list-style-type: none"> ・店舗での必要な食材を元に、仕入先の在庫・買付の状況を電話等から | <ul style="list-style-type: none"> ・漁港での水揚げ情報 ・仕入先からの情報 ・築地や全国の産地市場からの情報 |
| 仕入先や販売 先について | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的には久慈漁港から仕入れを行っており、久慈漁港から仕入れができない魚種は、水戸市場や他県から | <ul style="list-style-type: none"> ・地魚は市内で仕入れ、その他、市内で仕入が困難な魚種は、水戸市場や県外（築地等）から | <ul style="list-style-type: none"> ・地魚は、久慈漁港や市内漁港・港湾から ・地魚以外は、県外（築地（現在は豊洲）、北海道等）から ・全国各地、海外商品は商社から |
| 使用、販売 したい魚につ いて | <ul style="list-style-type: none"> ・鮮度が良いもの ・サイズが揃っているもの ・数量がまとまっているもの | <ul style="list-style-type: none"> ・地魚メニューは人気があり、市内で水揚げされた魚介類は使いたいが、地魚だけではすべてのメニューを賄えない | <ul style="list-style-type: none"> ・旬の商品 ・相場が安い商品 |
| 地元の魚を利用（購入）する 場合の課題 及び販路拡大 について | <ul style="list-style-type: none"> ・水揚げが潤沢にあること ・地元への販売強化 ・市を巻き込んだ水産物のPR活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・地魚メニューは、人気があるので、安定的に地魚の仕入れがあること ・地魚は、店主が意識して仕入れをして、使い続けること | <ul style="list-style-type: none"> ・日立市は、県内の他の市町村より魚の販売力があり、魚食の意識が高い ・那珂湊の市場のような観光スポットを誘致し、日立市の魚の知名度を上げる |
| 付加価値につ いて | <ul style="list-style-type: none"> ・底曳き漁業では、船上での鮮度管理がよく、品質が高い ・行政と事業者が一体となったPR活動をすることで、消費者へアピール強化 | <ul style="list-style-type: none"> ・会瀬の定置網を利用し、日立市の水産物の知名度を上げることで、市内の水産物全体の魚価を上げることが必要 ・地魚のブランド化、PR強化 | <ul style="list-style-type: none"> ・地元産の魚介類を使った、日立らしい特化したメニュー展開を検討 ・加工品の販売 ・イベントを通じての市内水産物のPR活動 |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・加工組合としても高齢化が進んでおり、後継者確保が課題である | | |

第2次日立市水産振興計画検討委員会運営要綱

（目的）

第1条 第2次日立市水産振興計画検討委員会（以下「委員会」という。）は、水産業を取り巻く社会経済情勢や生産構造の変化、多様化する消費者ニーズ等に的確に対応しつつ、水産業を持続可能で、より活力ある産業へと育てるため、水産業を担う関係者の役割を体系化し、計画的・効果的に施策の展開を図るため、第2次日立市水産振興計画（以下「計画」という。）を策定する。

（組織）

第2条 委員会の委員は、次の各号に掲げる者のうちから市長が委嘱又は任命する。

- （1）学識経験者
- （2）水産業関係者
- （3）商工関係者
- （4）消費者
- （5）その他市長が必要と認める者

（委員の任期）

第3条 委員の任期は、委嘱の日から平成31年（2019年）3月31日までとする。

（委員長及び副委員長）

第4条 委員会に、委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長及び副委員長は、委員会の委員の互選により定める。
- 3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（委員会の会議）

第5条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

（庶務）

第6条 委員会の庶務は、産業経済部農林水産課において処理する。

（その他）

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成30年（2018年）5月30日から施行する。

第2次日立市水産振興計画検討委員会の構成

(順不同・敬称略)

| 区分 | 氏名 | 所属団体等 | 備考 |
|-----------------------------|-------|-----------------------|------|
| 学識 経験者 | 工藤 貴史 | 東京海洋大学海洋科学部 准教授 | 委員長 |
| 商工 | 松山 圭吾 | 日立商工会議所 副会頭 | 副委員長 |
| 水産業 関係 | 今橋 浩幸 | 久慈町漁業協同組合 参事 | |
| | 今橋 一也 | 久慈浜丸小漁業協同組合 参事 | |
| | 大坂 英郎 | 川尻漁業協同組合 事務長 | |
| | 渡邊 亨 | 久慈浜水産加工業協同組合 代表理事副組合長 | |
| | 高杉 則行 | 久慈川漁業協同組合 代表理事組合長 | |
| | 泉 福夫 | 十王川漁業協同組合 理事 | |
| | 吉田 彰宏 | 茨城沿海地区漁業協同組合連合会 専務理事 | |
| | 野田 昌男 | 茨城県信用漁業協同組合連合会 代表理事専務 | |
| 青年 漁業士 | 小泉 大輔 | 茨城県漁業士会（久慈町漁業協同組合） | |
| | 軍司 壱寿 | 茨城県漁業士会（久慈浜丸小漁業協同組合） | |
| 流通販売 旅館関係 | 今野 和仁 | 茨城県消費地魚市場協議会 | |
| | 萩庭 晴秀 | 茨城県ホテル旅館生活衛生同業組合日立支部長 | |
| 未来を 牽引する 中小企業 応援会議 | 赤津 康晴 | 日立おさかなセンター直販店組合 組合長 | |
| 消費者 | 丹 多恵子 | あゆみ消費者研究会 代表 | |
| 茨城県 | 清水 信宏 | 茨城県農林水産部次長兼漁政課長 | |
| | 益子 知樹 | 茨城県農林水産部水産振興課長 | |
| 日立市 | 大内 勇雄 | 日立市産業経済部長 | |
| 事務局 | | 日立市産業経済部農林水産課 | |

第2次日立市水産振興計画策定までの検討委員会の検討経過

| 会議等 | 時期 | 主な内容 |
|-----------------|------------------------|--|
| 第1回検討委員会 | 平成30年(2018年) 7月11日 | <ul style="list-style-type: none"> • 日立市の水産業の概況について • 第1次日立市水産振興計画の取組状況について • 日立市の水産業の基本的方向について • アンケートの実施について |
| アンケート及びヒアリングの実施 | 平成30年(2018年) 8月～9月 | <ul style="list-style-type: none"> • アンケート (漁業者、水産加工業者、消費者) • ヒアリング (内水面漁業者、水産加工業者、水産物販売業者、飲食店、宿泊施設、水産物流通事業者) |
| 第2回検討委員会 | 平成30年(2018年) 10月12日 | <ul style="list-style-type: none"> • 第1次日立市水産振興計画の検証結果について • アンケート及びヒアリングの結果について • 日立市の水産業の基本的方向について |
| 第3回検討委員会 | 平成30年(2018年) 12月26日 | <ul style="list-style-type: none"> • 第2次日立市水産振興計画骨子案について • 基本理念(案)について |
| 第4回検討委員会 | 平成31年(2019年) 2月12日 | <ul style="list-style-type: none"> • 第2次日立市水産振興計画素案について |
| 市長へ提出 | 平成31年(2019年) 3月中旬 | |

おさかなカレンダー

～日立の海でとれる魚介類～



市のさかな
「さくらダコ」
たこピン

| 日立でとれる魚たち | | 多くとれる時期 | | | | | | | | | | | | |
|-----------|--------------------|---------|----|----|----|----------|----|----|----|----|-------|-----|-----|--|
| 魚の種類 | 名称 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | |
| | ヒラメ | 一年中 | | | | | | | | | | | | |
| | カレイ | 一年中 | | | | | | | | | | | | |
| | サヨリ | 1～4月 | | | | | | | | | | | | |
| | シラウオ | | | | | 2～12月 | | | | | | | | |
| | ヤリイカ | | | | | 1～5月・12月 | | | | | | | | |
| | タイ | | | | | 4～12月 | | | | | | | | |
| | スズキ | | | | | 4～11月 | | | | | | | | |
| | メジマグロ (クロマグロの子) | | | | | 5～12月 | | | | | | | | |
| | サワラ | | | | | 5～12月 | | | | | | | | |
| | アジ | | | | | 5～12月 | | | | | | | | |
| | サバ | | | | | 5～12月 | | | | | | | | |
| | シラス (イワシの子) | | | | | 5～12月 | | | | | | | | |
| | イワシ | | | | | 6～12月 | | | | | | | | |
| | ウニ | | | | | 5～9月 | | | | | | | | |
| | アワビ | | | | | 6～9月 | | | | | | | | |
| | イセエビ | | | | | 6～8月 | | | | | | | | |
| | カツオ | | | | | 8～10月 | | | | | | | | |
| | タコ | 1～6月 | | | | | | | | | 9～12月 | | | |
| | アンコウ | 1～6月 | | | | | | | | | 9～12月 | | | |
| | メヒカリ (アオメエソ) | 1～6月 | | | | | | | | | 9～12月 | | | |
| | ポタンエビ | 1～6月 | | | | | | | | | 9～12月 | | | |

日立の代表的な漁港



かわすじりこう
川尻港

①シラウオ ②タヨリ ③サヨリ



おおせぎょこう
会瀬漁港

①サバ ②アジ ③タコ



かわらごこう
河原子港

①アワビ ②ヒラメ ③カレイ



くじぎょこう
久慈漁港

①イワシ ②タコ ③コウナゴ

日立の代表的な漁港



市のさかな
名称「さくらダコ」
(標準和名：ミスダコ)
全長3mになるものもあり、タコの仲間では最大種





イメージキャラクター
タコピン



市の魚・さくらダコ
平成15年9月24日制定

第2次日立市水産振興計画

発行: 日立市産業経済部 農林水産課

〒317-8601 日立市助川町1丁目1番1号

TEL: 0294-22-3111 内線 472

050-5528-5108 (IP 直通)

E-mail: nourin2@city.hitachi.lg.jp